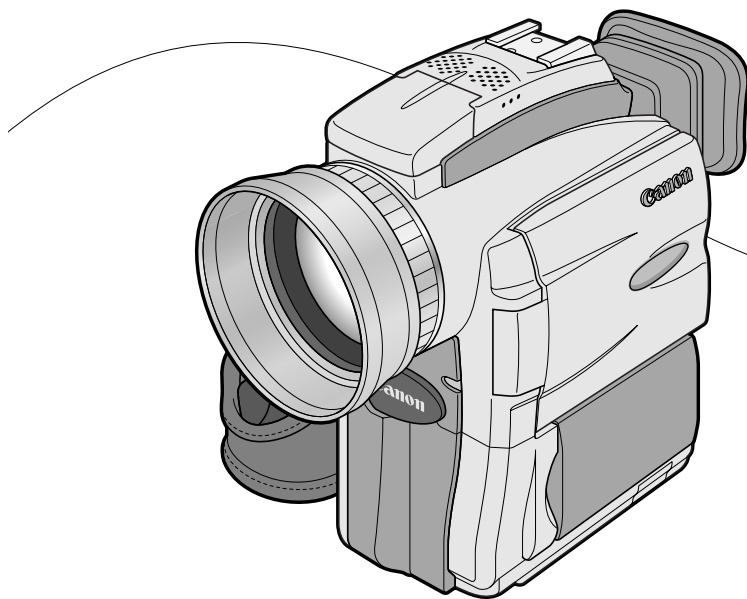
PUB. DIJ-109

Canon

Canon PV130

DIGITAL VIDEO CAMERA

PV130

Mini Digital Video Cassette

使用説明書

J
日本語版

このたびはキヤノンPV130をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

保証書別添付　保証書は必ず「購入店・購入日」等の記入を確かめて、購入店より
お受け取りください。

PUB. DIJ-109

もくじ

本書のマークについて

注 意 ：操作するうえで、守っていただきたいことです。

補 足 ：基本操作に加えて、知っておいていただきたいことです。

ヒント ：上手に使うために知っていると便利です。

（📖 ○○）：（ ）内の数字は参照ページです。

：表示の点滅を示しています。

本体とリモコンのどちらで操作できるかをイラストで示しています。ほとんどの操作はリモコンでもできますが、電源スイッチがカメラモードのときは本体が、再生（VTR）モードのときはリモコンが、操作の基本になります。

：本体で操作できます。

：リモコンで操作できます。

はじめに

基本編（自動で撮る／テレビで見る）

準備

撮影する

再生する

応用編（効果的に使う）

撮影する

再生する

編集する

メモリーカードを使う

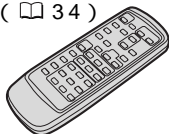
その他

その他（ご注意など）

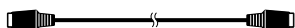
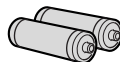
付属品をお確かめください

本機をお使いになる前に、付属品をお確かめください。

- リモコン（ワイヤレスコントローラー）
  WL-D77（📖 34）

- ステレオビデオケーブル STV-250N
  （📖 55）

- Sビデオケーブル S-150（📖 55）

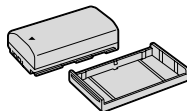
- レンズキャップ／レンズキャップ用ひも
  （📖 32）

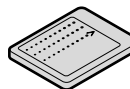
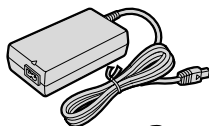
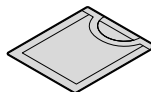
- レンズフード（📖 33）

- リモコン用単3乾電池2本（📖 34）

- ボタン型リチウム電池CR1616
  （📖 31）

別売アクセサリーキット AK-540

本機をお使いになるためには、別売のアクセサリーキットAK-540が必要です。

- バッテリーパック
  BP-512（📖 22）

- ACパワーアダプター
  (コンパクトパワーアダプター）
  CA-560
  （📖 21）

ACパワー
アダプター用
電源コード

- メモリーカード（マルチメディアカード）
  MMC-8M（📖 132）
  (サンプル画像入り）

- メモリーカード用ケース（📖 161）

アクセサリーキットAK-540には、マイクロテック・インターナショナル社製のUSB接続カードリーダー／ライター「Zio!（ジオ）」が付属しています。使用方法は、「Zio! ユーザーマニュアル」をご覧ください。この製品に関するご質問等については、下記までお問い合わせください。

● **マイクロテック・インターナショナル株式会社**

TEL: 03-3512-2327

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、 13：00～17：00

(土・日曜日、祝祭日、お盆および年末年始は休業です）

FAX: 03-3512-2329

E-mail: jsupport@microtechint.co.jp

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

記録内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラやテープ、メモリーカードなどの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書内の写真について

機能や液晶画面／ファインダー内の映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

長時間録画モードについて

長時間録画モードは、ＳＰ（標準）モードの1.5倍（LP)、2倍（E SP)、3倍（E LP）の録画ができる機能です。長時間録画モードでの録画／再生は、テープの特性や使用環境に影響されやすく、再生時、画面にモザイク状のノイズが発生したり、音声が途切れたりする場合があります。大切な撮影にはSPモードをお使いください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機をパソコンと接続するときは、別売のDVケーブルCV-150F/CV-250Fをお使いください。

安全上のご注意

● **ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**

● **絵表示について**

この使用説明書および製品への表示では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。必ずお守りください。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容です。 必ずお守りください。

⚠ 警告

● **煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに、電源プラグをコンセントから抜くか、バッテリーパックを外してください。**

そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。

煙が出なくなるのを確認してから、ご購入いただいた販売店またはキヤノンサービスセンターに修理を依頼してください。

お客様による修理は危険ですからおやめください。

● **本機器を落としたり、外装を破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜くか、バッテリーパックを外してください。**

ご購入いただいた販売店またはキヤノンサービスセンターに修理を依頼してください。

そのまま使用した場合、火災、感電の原因となります。

● **本機器内部に水または異物が入った場合は、すぐに、電源プラグをコンセントから抜くか、バッテリーパックを外してください。**

そのまま使用した場合、火災、感電の原因となります。ご購入いただいた販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

特にお子様のいるご家庭では、ご注意ください。

● **雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れないでください。**

感電の原因となります。

⚠ 警告

● **本機を海外旅行者用の電子式変圧器や航空機、船舶、DC／ACコンバータなどの電源に接続しないでください。また、240Vを超える電源に接続しないでください。**
火災、感電、けがの原因となります。

● **海外で使用する場合は、その国の電圧、コンセントの形状をお調べください。**
火災、感電の原因となります。

● **海外で、変換プラグアダプターをご使用の場合、電源プラグの刃を、根元まで入れてください。**
根元まで入れない場合、感電の原因となります。

● **電源コードに重いものを載せたり、また電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。**
電源コードが傷ついたり（芯線の露出、断線等）して、火災、感電の原因となります。

● **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。**
ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。

● **本機器の外装を外さないでください。**
内部に高電圧の部分がありますので、感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、ご購入いただいた販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

● **本機器を分解、改造しないでください。**
発熱、火災、感電、けがの原因となります。

● **本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないようにご注意ください。**
そのまま使用した場合、火災、感電、やけどの原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺、湿度の高い場所などでの使用は、特にご注意ください。

⚠ 警告

● **本機器や付属の接続コードの接点部に金属類を差し込まないでください。**
火災、けがの原因となります。

● **バッテリーパックから液漏れした時、皮膚や衣服につけたり、目に入れたり、火気に近づけたりしないでください。**
皮膚の障害、失明、発火の原因となります。

● **バッテリーパックを、金属製のネックレス、キーホルダー、ヘアピンなどと一緒に、携帯や保管をしないでください。**
⊕と⊖の端子がショートされ、高熱や液漏れにより、やけど、けがの原因となります。
持ち運びや保存のときは、必ず付属のショート防止端子カバーを取り付けてください。

● **バッテリーパック、乾電池、ボタン型電池などを分解や加熱をしたり、火や水の中へ投げ込まないでください。**
電池の破裂により、やけど、けがの原因となります。

● **バッテリーパックの充電は、指定されたACパワーアダプターなどの充電器を使用してください。**
それ以外のものを使用すると、電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、やけど、けがの原因となります。

● **バッテリーパックは、指定された機器にご使用ください。**
それ以外のものに使用すると、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因となります。

● **バッテリーパックを充電器や機器に接続するときに、プラス、マイナスの向きを確認してください。**
電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、やけど、けがの原因となります。

● **バッテリーパックを電源コンセントや自動車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。**
電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、やけど、けがの原因となります。

⚠ 警告

● **ボタン型電池をお子様の手の届かないところへ置いてください。**
万一、飲み込んだ場合、電池の金属ケースが壊れて、電池の液で胃、腸が損傷する恐れがありますので、ただちに医師と相談してください。

● **自動車などの運転中に、運転者は本機器を操作しないでください。**
交通事故の原因となります。

● **撮影しているときは、周囲の状況にご注意ください。**
けがや交通事故の原因となります。

● **お子様が使用のときには、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。**
感電、けがの原因となります。

● **乳幼児の手の届かないところで、使用、保管してください。**
感電、けがの原因となります。

● **本機器をぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

● **ビデオカセットの挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込まないでください。**
そのまま使用した場合、火災、感電の原因となります。

⚠ 注意

● **本機器や電源コードを、ストーブなどの熱器具に近づけないでください。**
外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となることがあります。

● **濡れた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。**
感電の原因となることがあります。

● **電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。**
電源コードを引っ張ると、コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

● **使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。**

● **充電するときは、0℃～40℃の温度範囲で使用してください。**
低温または高温では、電池の液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。

● **指定されたＡＣパワーアダプターやカーバッテリーアダプターを使用してください。**
ＤＣプラグの形状が同じでも、電圧や極性が異なる場合があるので、それ以外のものを使用すると、発熱、変形して、火災、感電の原因となることがあります。

● **自動車からの電源でご使用の場合は、指定のカーバッテリーアダプターを使用してください。**
それ以外のものを使用すると、火災、感電の原因となることがあります。

● **ＡCパワーアダプターは、目の届く安全な場所で使用してください。**

● **指定された電池を使用してください。**
それ以外のものを使用すると、電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

● **強い衝撃や振動を与えたり、投げつけないでください。**
破損により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。特に、液晶画面は、ガラス製のため、画面に強い衝撃を与えると、割れてけがの原因となることがあります。

● **直射日光下や発熱体のそばなど、６0℃以上になる高温の場所で使用や放置しないでください。**
電池の液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。高温の場所に放置しないでください。

● **飛行機内で使用する場合は、乗務員の指示に従ってください。**
機器から出る電磁波により、飛行機の計器に影響を与える恐れがあります。

注意

● **テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま使用しないでください。** 内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。	
● **テレビは前面が重いので、アンテナコードやＡＶコードなどを接続するとき、転倒防止の処置をとってください。** テレビが転倒し、けがの原因となることがあります。	
● **ＡＶケーブルを床の上に、はわせないでください。** 足を引掛けて転倒して、けがの原因となることがあります。	
● **バッテリー、グリップベルトなどを確実に取り付けてください。** 緩んで脱落すると、けがの原因となることがあります。	
● **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。** 火災、感電の原因となることがあります。	
● **お子様がビデオカセットの挿入口から、手を入れないようにご注意ください。** けがの原因となることがあります。	
● **ACパワーアダプター、バッテリーパック、ビデオカメラなどを使用中に、温度の高くなる部分に長時間触れないでください。** 長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となります。	
● **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。** 目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす恐れがあります。 特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。	
● **車の運転者などに向けて、ストロボを発光しないでください。** 事故の原因となります。	
● **ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。** やけどの恐れがあります。	

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

主な特長

メガピクセルCCD

133万画素メガピクセルCCDを搭載。メガピクセルの高精細な美しい静止画を、メモリーカードに記録できます。

内蔵ストロボ

(📖 60)
内蔵のストロボが、周囲の明るさに合わせて自動的に上がり発光します。室内や暗い場所で、より鮮明な静止画を撮影できます。

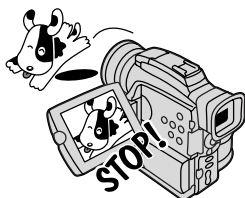
メモリーカード

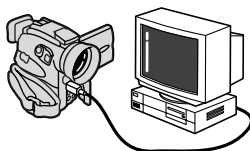
(📖 132)
MultiMediaCard（マルチメディアカード）とSDメモリーカードに対応。記録した画像は、ボタンひとつですぐに確認でき、続けて消去やプロテクトの設定も可能。また、静止画を記録するだけでなく、記録してある静止画とカメラで撮影している画像を合成したりできます。パソコンに静止画を取り込むことも容易です。

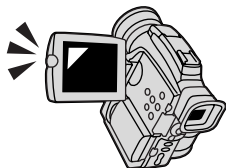
プログレッシブフォト機能

(📖 136)
メカニカルシャッターを搭載し、美しい静止画をメモリーカードに記録できます。

フォト（静止画）撮影 (📖 58、136)

フォトボタンを押すだけで、カメラのように簡単に静止画をテープやメモリーカードに撮影できます。

DV端子 (IEEE1394準拠)

(📖 118、122、130)
専用ケーブル1本をDV端子に接続するだけ。複雑なケーブルの接続が不要です。このDV端子を搭載するデジタルビデオ機器などと接続することで、画質・音声劣化のないダビング編集ができます。また、DV端子つきのパソコンでは、映像や音声を取り込めます。

液晶画面/スピーカー

(📖 36、53)
2.5型の液晶画面を採用し、ハイ／ローアングル撮影、対面撮影も可能。また、スピーカーを内蔵していますので、液晶画面で再生中も音声を確認できます（本体内蔵のスピーカーはモノラルです）。

長時間録画機能

(📖 91)
SP（標準）モードの1.5倍、2倍、3倍の長時間録画ができます。80分テープでは、最長4時間の撮影が可能です。

手ぶれ補正機能

(📖 89)
キヤノン独自の光学式手ぶれ補正機能を採用。画質を劣化させることなく、手ぶれの少ない、安定した画面で撮影できます。

アドバンスト アクセサリーシュー

(📖 107、108)
別売のビデオライトVL-3やマイクロホンDM-50を簡単に取り付けて使用できます。電源はビデオカメラ本体から供給します。

10倍光学ズームレンズ* (200倍デジタルズーム)

(📖 46)
遠くの被写体も大きく撮影。運動会などで活躍します。
* カードカメラモード時は光学8倍まで

チルトアップビューファインダー＆回転式グリップベルト

(📖 32、33)
引き上げ可能なビューファインダーと、回転式グリップベルトを採用。より快適で、安定した撮影ができます。

アフレコ/AVインサート

(📖 124、126)
撮影済みのテープに音声を追加したり、映像と音声をあらたに入れ換えることができます。

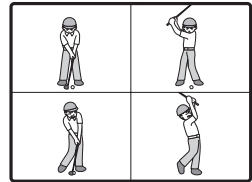
マルチ画面

(📖 105)
画面を4／9／16に分割します。ゴルフのスイングなどを1つの画面に並べて表示できます。

アナログ入力機能

(📖 120)
ビデオデッキや8ミリビデオカメラに接続して、以前にVHSや8ミリテープなどに記録した映像と音声をDVテープに記録できます。

デジタルエフェクト

(📖 99)
オートフェード／ワイプ ▌▌／ストライプ▌▌／ストライプ 〓／チェッカー／ウィンドウ／ネガ／アート／シロクロ／セピア／モザイク

プログラムAE

(📖 64)
撮影条件に合わせて効果的に撮影できます。

データコード

(📖 113)
撮影時の日付／時刻、シャッタースピード、絞り値(F値)を表示することができます。

世界時計機能

(📖 39)

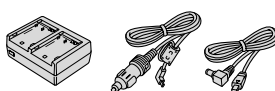
3電源方式

撮影する場所に合わせて電源が選べます。バッテリーパックは、いつでも充電できるリチウムイオンタイプです。

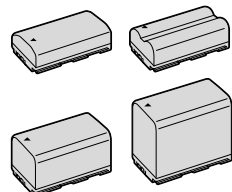
家庭用コンセント

(📖 21)
ACパワーアダプター
CA-560

カーバッテリー

(📖 26)
チャージアダプター／
カーバッテリーケーブル
キットCR-560

バッテリーパック

(📖 22)
BP-512、BP-511、
BP-522、BP-535

はじめに

本書のガイドマップです

下記の順番で説明しています。

準備

バッテリーパックの充電や、ビューファインダーの調整などをします

📖21 ～📖34

撮影 テープ

テープに撮影する基本操作です

📖35 ～📖49

再生 テープ

液晶画面やテレビで撮影したテープを見ます

📖50 ～📖56

応用撮影 テープ

テープに撮影する応用操作です

📖57 ～📖108

ご購入時の設定を変える

メニューで本機の設定を変えます

📖74 ～📖88

応用再生・編集 テープ

テープの見たい場面を探したり、ダビング編集したりします

📖109 ～📖130

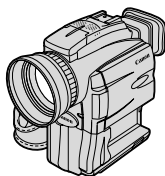
カードを使う カード

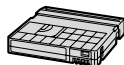
静止画を記録したり、再生したり、カメラで撮影している映像と
合成したりする操作です

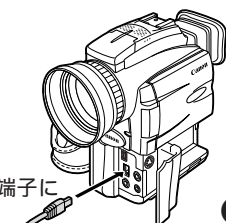
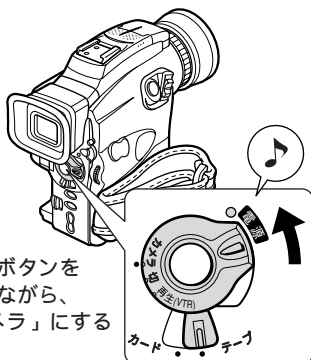
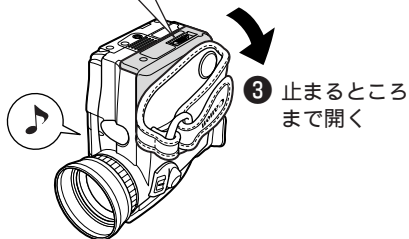
📖131 ～📖162

さあ、撮影してみましょう

用意するもの

ビデオカメラ

ACパワーアダプター
(アクセサリーキットAK-540)

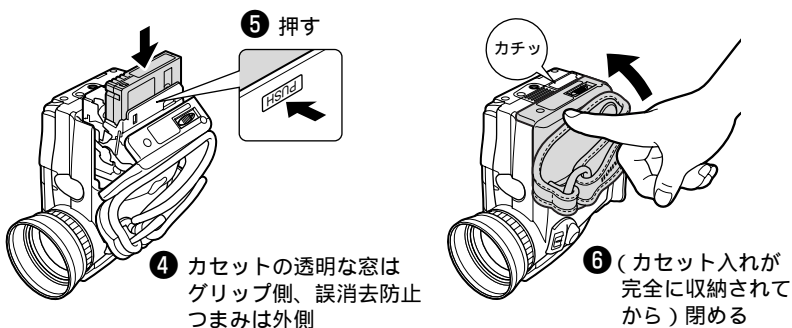
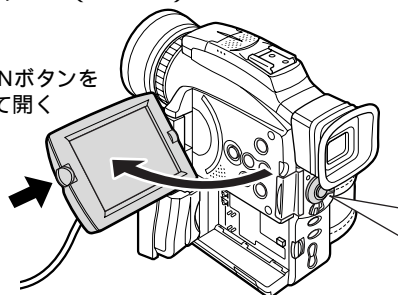
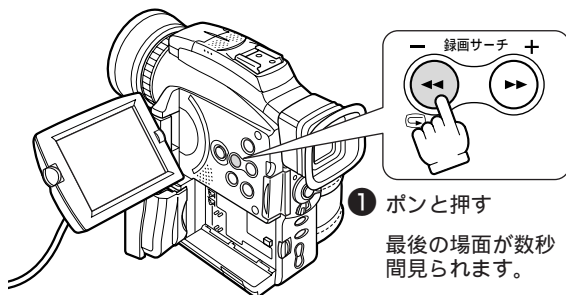
Mini DVカセット
(別売)

( )の数字は参照ページです。

1 電源を取り付ける (📖 21)

2 カセットを入れる (📖 29)

補足

- はじめてお使いになる場合、「エリア/日時を設定してください」の表示が出ます。(世界時計のエリアを選ぶ 📖 39、日付/時刻を設定する 📖 43)

ヒント

- 屋外などで撮影するときは充電したバッテリーパック(充電池)を使います。(📖 22)

基本編

3 撮影する（📖 35）

4 撮影できたか確認してみましょう（📖 49）

注意

- カセット入れが自動的に動いている間は、無理に押したり、動きを妨げたり、グリップカバーを閉じたりしないでください。故障の原因となります。
- カセットを入れた直後は、テープカウンターが完全に止まってから、撮影を始めてください。
- 液晶画面やビューファインダー、バッテリーパック、ストロボをつかんで本機を持ち上げないでください。

補足

- 電源を入れたり、撮影が始まるときなどに音が出ます。これはお知らせブザーです。（📖 77）

各部の名称

(　)内の数字は参照ページです。

本体

アドバンストアクセサリーシュー (107、108)

ステレオマイク

フォト(静止画)ボタン (58、136)

ビューファインダー (32)

ズームレバー (46)

メニューボタン (86)

マイク端子 (126)

マルチダイヤル (53、86)

視度調整レバー (32)

グリップベルト (33)

撮影モード切り換えスイッチ (64)

P :プログラムAE モード
□ :□(全自動) モード

電源ランプ (35)

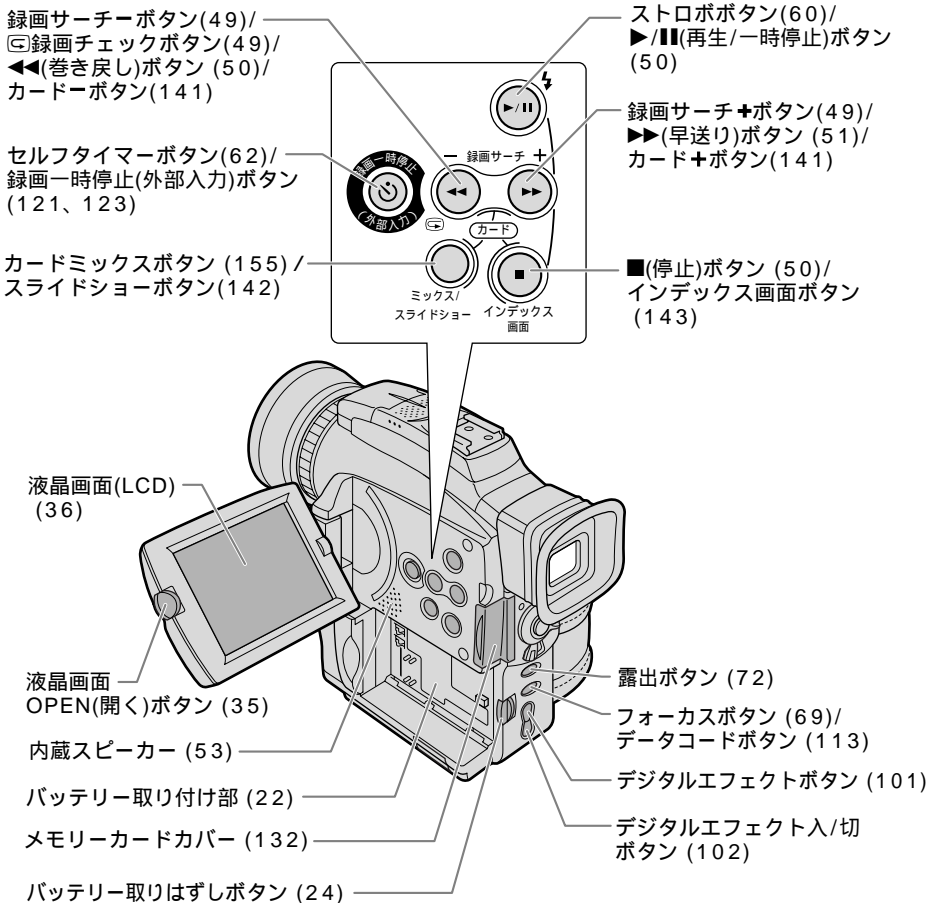
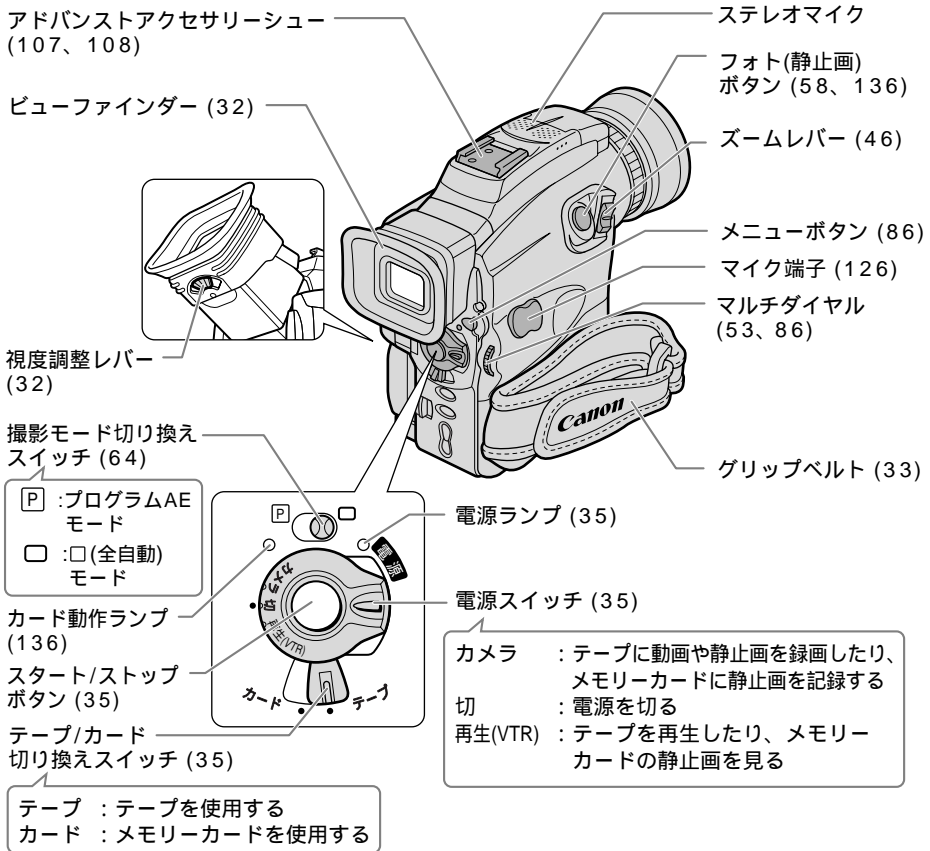
電源スイッチ (35)

カメラ ：テープに動画や静止画を録画したり、メモリーカードに静止画を記録する
切 ：電源を切る
再生(VTR) ：テープを再生したり、メモリーカードの静止画を見る

カード動作ランプ (136)

スタート/ストップボタン (35)

テープ/カード切り換えスイッチ (35)

テープ ：テープを使用する
カード ：メモリーカードを使用する

● 動作モードについて

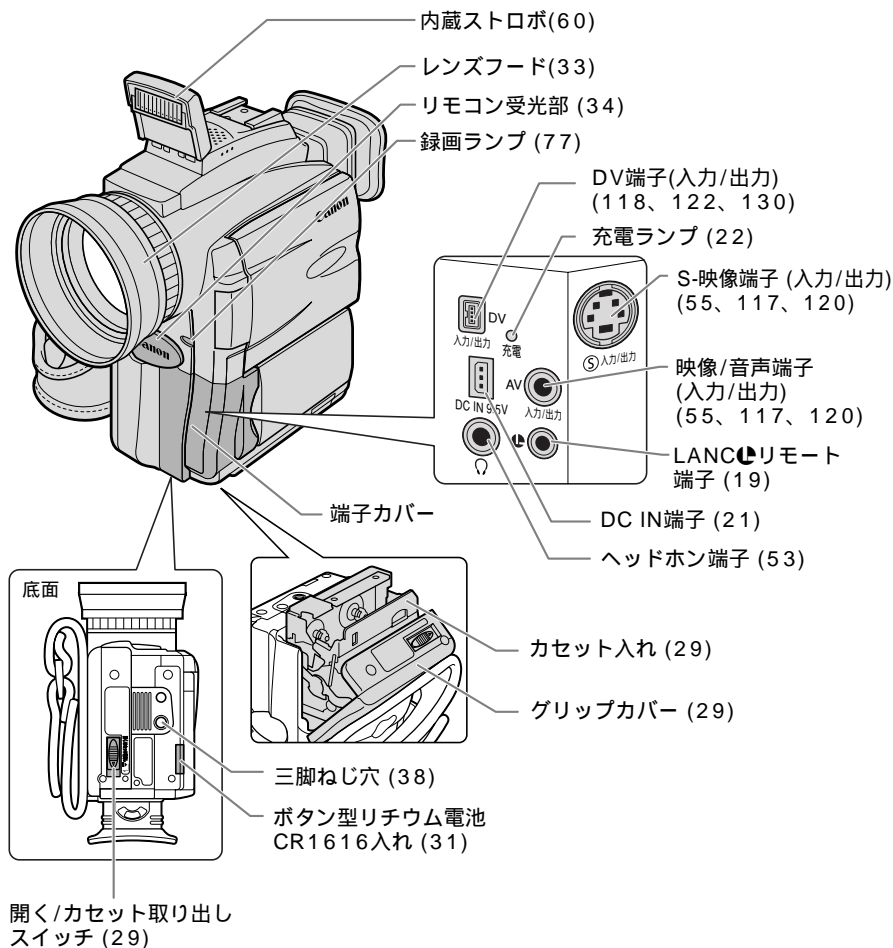
動作モード	電源スイッチ	テープ／カード切り換えスイッチ
カメラモード	カメラ	テープ
再生（VTR）モード	再生（VTR）	テープ
カードカメラモード	カメラ	カード
カード再生モード	再生（VTR）	カード

* 動作モードにより、使用できない機能があります。本書では、下記のように表示しています。

カメラモード ：使用できます。

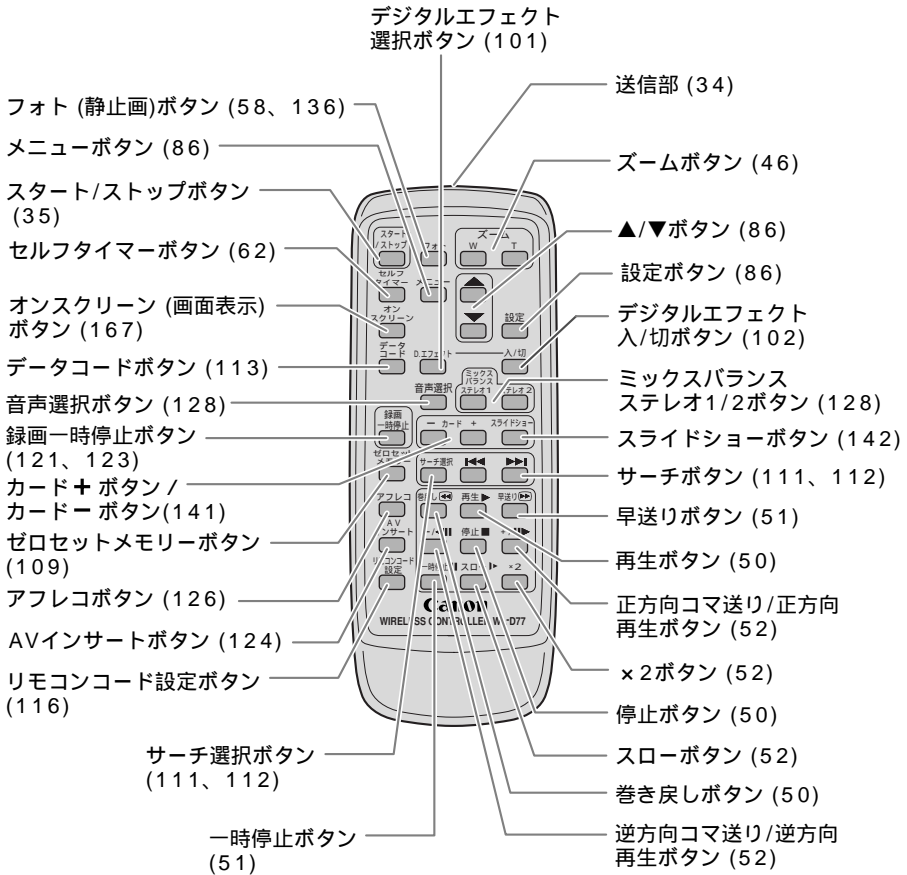
カメラモード ：使用できません。

● マルチダイヤル

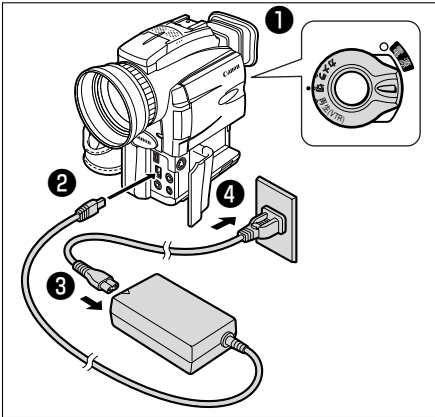
- メニューの項目の選択と設定
- プログラムAEの選択と設定
- デジタルエフェクトの選択と設定
- 手動でのフォーカスと露出の調整
- 内蔵スピーカー、ヘッドホンの音量調整

マークについて

は、LANC [Local Application Control Bus System （ローカル・アプリケーション・コントロール・バス・システム）]リモート端子のマークです。LANCリモート端子とは、ビデオ機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

- マークが表示されている機器と接続してください。
- 「LANC」ロゴおよび「LANC」マークは、商標です。
- LANCリモート端子で接続した周辺機器の操作ボタンの中には、動作しないもの、本機の動作と異なるものがあります。
- マークが表示されていない機器と接続した場合の動作については保証致しかねます。

リモコン WL-D77 (📖 34)

家庭用コンセントで使う

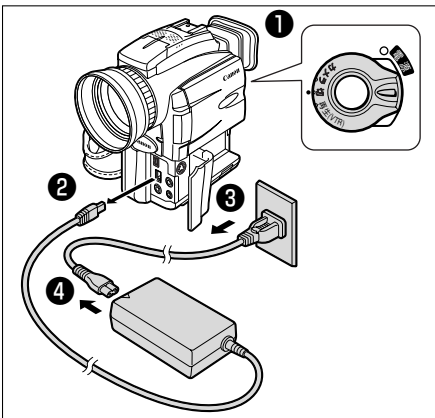
ACパワーアダプターCA-560を家庭用コンセントに接続して使います。
（入力電圧はAC100〜240Vまでの全世界対応）

ACパワーアダプターの付けかた

❶ 電源スイッチを「切」にする

❷ 端子カバーを開け、DC IN端子にACパワーアダプターを差し込む

❸ ACパワーアダプターに電源コードを差し込む

❹ 電源プラグをコンセントに差し込む

ACパワーアダプターのはずしかた

❶ 電源スイッチを「切」にする

❷ ACパワーアダプターを本機から抜く

❸ 電源プラグをコンセントから抜く

❹ 電源コードをACパワーアダプターから抜く

基本編

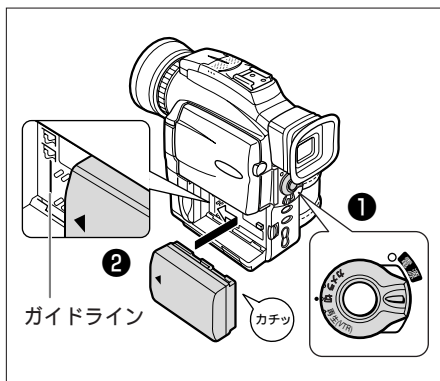
注意

- ACパワーアダプターを抜き差しするときは、必ずビデオカメラの電源を切ってください。
- テレビの近くでACパワーアダプターを使用するとテレビ放送の画面にノイズが出ることがあります。ACパワーアダプターをテレビやアンテナケーブルから離してください。
- DC IN端子には、指定された製品以外を絶対に接続しないでください。また、ACパワーアダプターを指定された製品以外に接続しないでください。

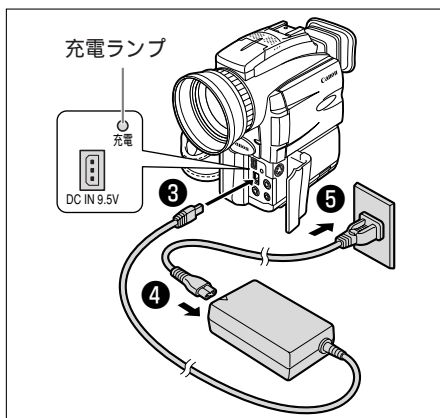
バッテリーパックで使う

バッテリーパックは充電してから使います。バッテリーパックの充電は、ACパワーアダプターCA-560を使って行います。また、別売のチャージアダプター／カーバッテリーケーブルキットCR-560（📖 26）を使って充電することもできます。

● バッテリーパックを使うときは、ショート防止用端子カバーを取りはずします。（📖 28）

バッテリーパックを充電する

バッテリーパックを取り付ける

❶ 電源スイッチを「切」にする

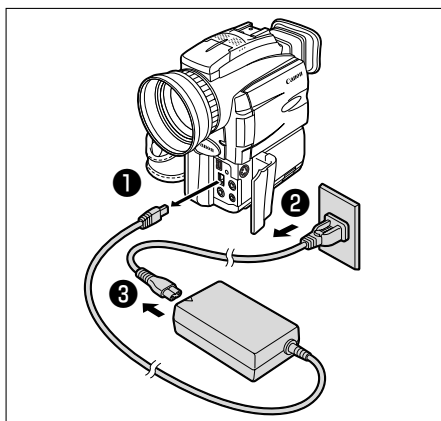
❷ バッテリーパックの先端を本機のガイドラインに合わせ、押し付けながら矢印方向にずらして取り付ける

充電する

❸ 端子カバーを開け、DC IN端子にACパワーアダプターを差し込む

❹ ACパワーアダプターに電源コードを差し込む

❺ 電源プラグをコンセントに差し込む

- 充電ランプが点滅し、充電が始まります。

充電が終わったら

充電ランプが点灯したら

❶ 本機からACパワーアダプターを抜く

❷ 電源プラグをコンセントから抜く

❸ 電源コードをACパワーアダプターから抜く

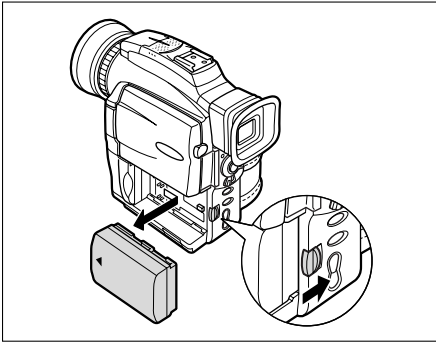
補足

- バッテリーパックに異常があるときは、早い連続した点滅（0.5秒間隔で1回）になります。
- 電源スイッチが「切」以外でも、充電ランプが点滅／点灯しているときは、バッテリーパックの充電が行われています。

ヒント

- ランプの点滅／点灯が充電した目安の量（残量）を示します。

  0〜75%　：　約1秒間隔で1回ずつ点滅
  75%以上　：　約1秒間隔で2回ずつ点滅
  100%　：　点灯

バッテリーパックのはずしかた

❶ バッテリー取りはずしボタンを押しながら、バッテリーパックをずらして取りはずす

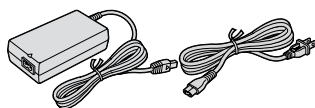
● バッテリーパックの充電時間とフル充電したバッテリーパックの連続使用時間は次のとおりです。

バッテリーパック	充電時間	撮影時間		再生時間
		ビューファインダー使用時	液晶画面使用時	液晶画面使用時
BP-512	約70分	約120分	約100分	約130分
BP-511（別売）	約70分	約120分	約100分	約130分
BP-522（別売）	約120分	約240分	約210分	約275分
BP-535（別売）	約170分	約390分	約340分	約435分

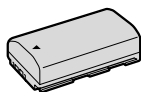
低温下で使用したときには、使用時間は短くなります。

● **バッテリーパックは予定撮影時間の2～3倍分をご用意ください。**

ビデオカメラの消費電流は、ズームなどの操作によって変化します。そのためバッテリーパックの実際の使用時間は、表記の時間より短くなります。また、温度の低い場所で撮影する場合も、使用時間が短くなります。撮影時には、予定撮影時間の2～3倍のバッテリーパックを用意していただくことをおすすめします。撮影中はもちろん、撮影一時停止中でもバッテリーパックは消耗します。電源スイッチでこまめに電源を切ることが使用時間を長くさせるコツです。

■ AC パワーアダプター（コンパクトパワーアダプター）CA-560

主な仕様

電源	AC 100V-240V、50/60Hz
出力電力／消費電力	公称DC9.5V、2.7A 60VA（100V）～75VA（240V）
使用温度	0℃～＋40℃
外形寸法（幅×高さ×奥行き）	約57×28×104mm
本体質量	約180g

■ バッテリーパック　BP-512

主な仕様

使用電池	リチウムイオン
使用温度	0℃～＋40℃
公称電圧	DC7.4V
容　　量	1100mAh
外形寸法（幅×高さ×奥行き）	約38×21×55mm
質　　量	約70g

※ 仕様および外観は予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

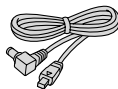
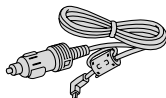
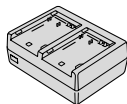
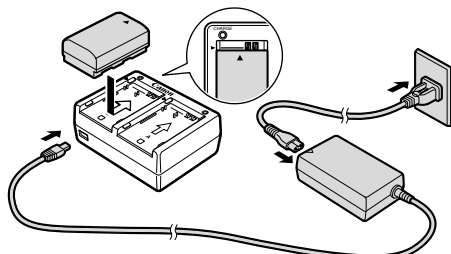
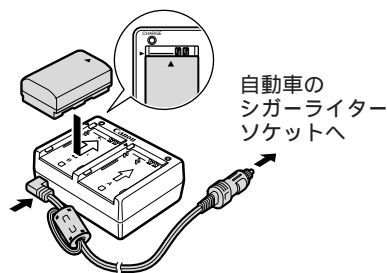
別売の充電器CR-560を使う

チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキットCR-560は、ACパワーアダプターと組み合わせると、バッテリーパックの充電や本機の操作など、3種類の操作ができます。

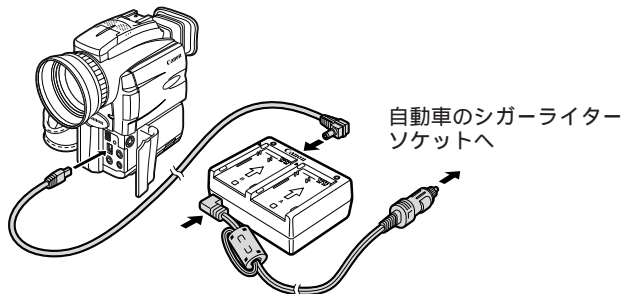
● チャージアダプター／カーバッテリーケーブルキットの使用説明書もあわせてご覧ください。
● チャージアダプター／カーバッテリーケーブルキットには、次の製品が含まれています。

チャージアダプター

カーバッテリーケーブル

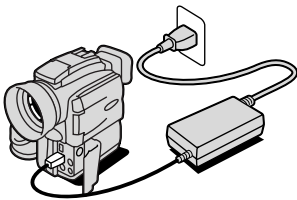
DCケーブル

①家庭用コンセントから電源をとり、バッテリーパックを充電する

②自動車から電源をとり、バッテリーパックを充電する

● バッテリーパックを2個取り付けて、連続して充電できます。
● バッテリーパックBP-522／BP-535（別売）を取り付けると、急速充電になります。（約15分間充電すると、ビューファインダーで約1時間撮影できます。）
● チャージアダプターにバッテリーパックを1個取り付けたときの充電時間は以下のとおりです。

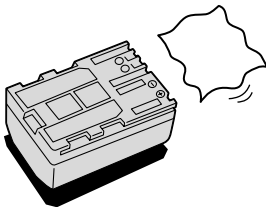
バッテリーパック	充電時間
BP-512	約80分
BP-511（別売）	約80分
BP-522（別売）	約100分
BP-535（別売）	約150分

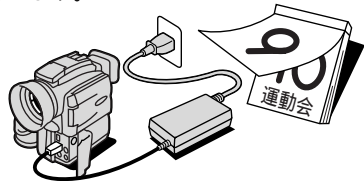
③自動車から電源をとり、本機を操作する

バッテリーパックの上手な使いかた

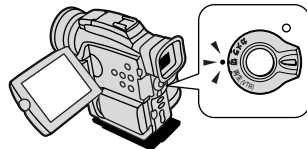
このバッテリーパックは、リチウムイオン電池を使用しておりますので、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できます。

必ず
充電してから、
お使いください

● バッテリーパックは、出荷時に少し充電してありますので、ビデオカメラなどの動作確認ができます。
長時間使用する場合や、動作確認ができない場合には、バッテリーを充電してから、お使いください。

端子はいつもきれいに
しておいてください

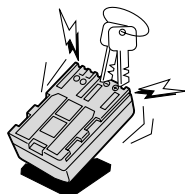
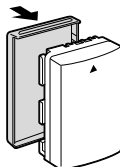
● バッテリーパック、充電器、ビデオカメラの⊕、⊖などの端子は常にきれいにしておいてください。汚れていると接触不良の原因となります。充電や使用する前にティッシュペーパーなどで乾拭きしてください。

充電は使用直前に

● 充電しておいたバッテリーパックも内部の化学変化によって、少しずつ自然に放電してしまいます。使用する当日または前日に充電することをおすすめします。
フル充電（充電ランプが点灯している状態）で保管するとバッテリーパックの寿命を縮めたり、性能の低下の原因となることがあります。
長い間ビデオカメラを使用しないときは、バッテリーパックを使い切ってから取りはずして保管することをおすすめします。

こまめに電源を切って使う

● 撮影中はもちろん、撮影一時停止中でもバッテリーパックは消耗します。電源スイッチでこまめに電源を切ることが、使用時間を長くさせるコツです。

● バッテリーパックは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃で使用することをおすすめします。スキー場などでは、バッテリーパックの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなります。

バッテリーパックの取り扱いについて

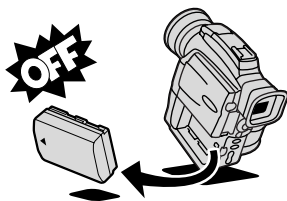
次のことを守ってください

● キーホルダーなどの金属で⊕と⊖の端子をショートさせると（図A）、バッテリーパックの破損の原因となることがあります。持ち運びや保存の際は、必ず付属のショート防止用端子カバーを取り付けてください（図B）。

（図A）　（図B）

使用しないときは

取りはずして

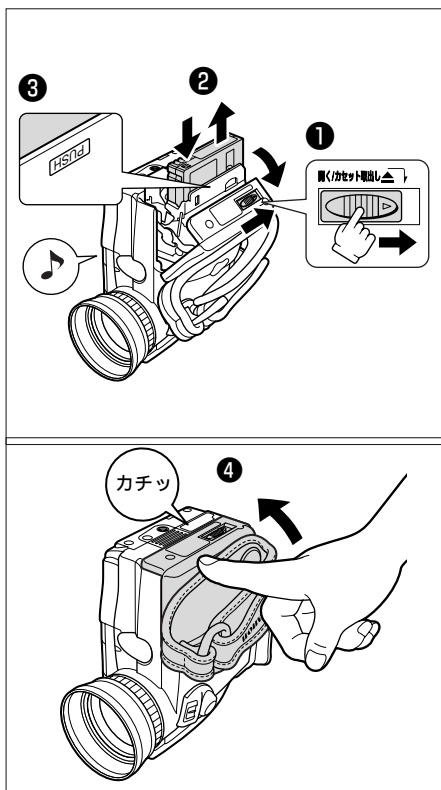
ください

● ビデオカメラにバッテリーパックを取り付けたままにしておくと、電源が切れていても少しずつバッテリーを消耗します。長い間ビデオカメラを使用しないときは、必ずバッテリーパックを取りはずして、湿度の低い、室温30℃以下の場所で保管してください。

充電したのに、バッテリーパックの使用時間が極端に短いときは

● 常温で使用している場合は、寿命と考えられます。新しいバッテリーパックをお求めください。

カセットの入れかた／出しかた

ビデオカセットはMiniDVマークの付いたものをお使いください。

- バッテリーパックなどの電源を取り付けていると、電源スイッチが「切」でも、カセットの出し入れはできます。操作が終わると自動的に電源が切れます。
- 電源を入れたとき、カセットが入っていないと「[カセットマーク]」が液晶画面／ビューファインダーで点滅します。
- “MiniDV”ロゴは商標です。

❶ 開く／カセット取り出しスイッチを押しながら、グリップカバーを止まるまで開く

- カセット入れが自動的に開きます。

❷ カセットを入れる／出す

- カセットの透明な窓をグリップ側に向け、誤消去防止つまみを外側にして入れます。
- カセットを出すときは、カセット入れからまっすぐに引き抜きます。

❸ PUSH マークを押して、カセット入れを閉める

- カセット入れが自動的に収納されます。

❹ カセット入れが完全に収納されてから、グリップカバーを閉める

基本編

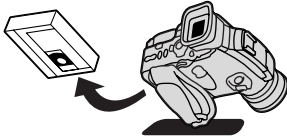
注意

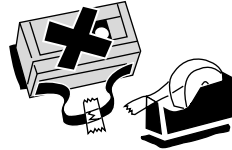
カセットを出し入れするときは

- カセット入れが自動的に動いている間は、無理に押したり、動きを妨げたり、グリップカバーを閉じたりしないでください。故障の原因となります。
- 指をはさまないようにご注意ください。

ビデオカセットについて

取り扱い上のご注意

● カセットとヘッドを保護するためにカセットを本体に入れたまま放置しないでください。

● カセットの裏面には、テープの種類などを検出する各種の穴があります。セロハンテープなどで穴をふさがないでください。

● テープをつなぎ合わせたカセットや規格外のカセットは、故障の原因となりますので、使用しないでください。

● カセットを落としたり、ぶつけたりして過度な衝撃を与えないでください。内部のテープがたるみ故障の原因となります。

● カセットを長期間保管するときは、時々巻き直してください。

● カセットメモリー機能付きのカセットの場合、カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着すると、カセットメモリーの機能が正しく動作しないことがあります。カセットを十数回出し入れしたら、綿棒で金メッキ端子をきれいにしてください。

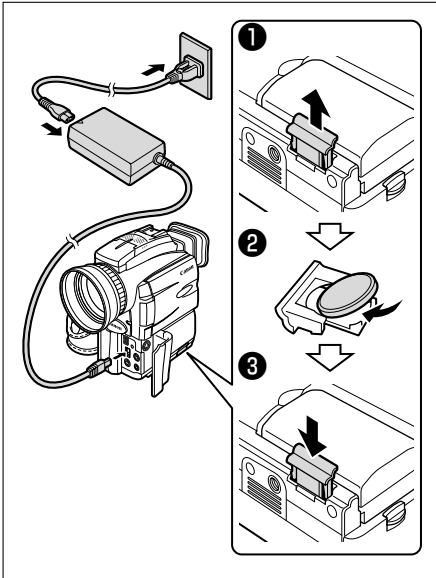
間違って消さないために

大切な映像を録画したカセットを誤って消去しないようにするには、カセットの背にある誤消去防止つまみを左に切り換えSAVEにしてください。
誤消去防止つまみを右に戻せば、再び録画できます。

● カメラモードのときに、録画できない状態のカセットを本体に入れると、液晶画面／ビューファインダーに「カセットの誤消去防止ツマミを確認してください」が4秒間点灯し、その後が点滅します。

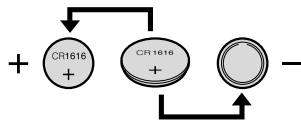
SAVE (録画できない)　REC (録画できる)

ボタン型リチウム電池を入れる

世界時計のエリア（🕮 39）や日付、時刻（🕮 43）などを記憶するには、ボタン型リチウム電池が必要です。お使いになる前に付属のボタン型リチウム電池を入れてください。
電池を交換するときは、ボタン型リチウム電池CR1616をお求めください。
● ACパワーアダプターなどの電源を取り付けておいてください。

❶ 電池カバーを取りはずす

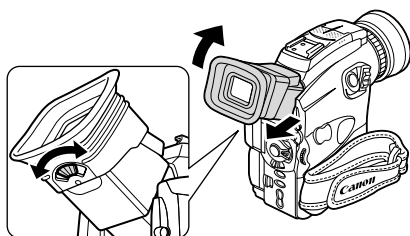
❷ 電池を入れる
● 電池の＋側を下にして、スライドさせて電池入れに入れます。

❸ 電池カバーを取り付ける

基本編

ボタン型リチウム電池の交換時期
● ボタン型リチウム電池は約1年使用できます。電池が入っていなかったり、電池の容量が低下すると、「⌁」の表示が点滅し、電池の交換時期を知らせます。

ボタン型リチウム電池について　取り扱い上のご注意
● プラス（＋）とマイナス（－）を確認して、正しく入れてください。
● 接触不良を防ぐため、電池を乾いた布で拭いてから入れてください。
● 金属のピンセットなどでつかまないでください。ショートします。
● 分解や加熱をしたり、水の中に入れたりしないでください。破裂する恐れがあります。また、捨てるときは、燃えないゴミとして、適宜処理してください。（地域によって異なります。）

ビューファインダーの調整

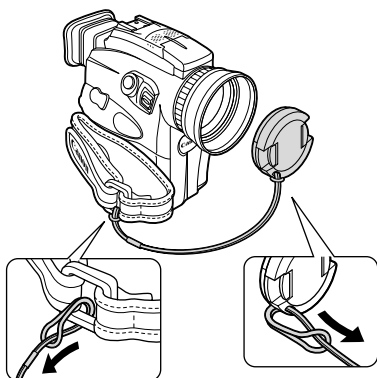
視度調整

電源を入れ、ビューファインダーを止まるところまでまっすぐ引き出して上にあげます。ファインダー内の表示がはっきり見えるように、視度調整レバーを動かして調整します。

● ビューファインダーを収納するときは、まっすぐ押し込んでください。

● ビューファインダーを使用するときは、必ず液晶画面をカチッと音がするまでしっかりと閉じてください。

注 意

直射日光がビューファインダー内に入ると、レンズが光を集めるために、ファインダーの回りが溶けてしまうことがあります。ビューファインダーを押し込んで直射日光が入らないようにしてください。

レンズキャップについて

取り付けかた

❶ 付属のひもをグリップベルトに取り付ける

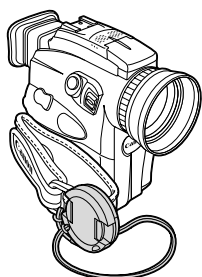
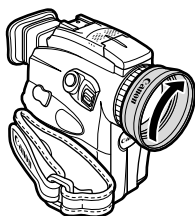
❷ ひもをレンズキャップの表側から穴に通して取り付ける

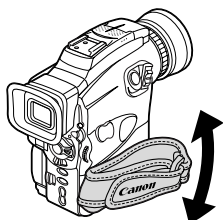
レンズキャップを取り付け／取りはずしするときは、キャップのボタンを押します。
撮影中はレンズキャップをグリップベルトに引っ掛けておくと便利です。

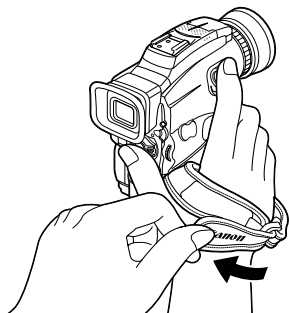
レンズフードについて

撮影時は、レンズフードを取り付けてください。ゴーストやフレアなどに効果的です。

取り付けかた

❶ レンズ先端部にレンズフードをはめ込む
❷ Canonの文字が上にくるように、時計方向に回す

注 意

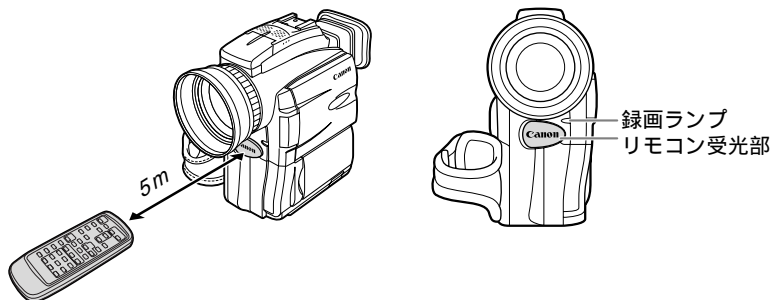
● **レンズフードは、まっすぐ、斜めにならないように取り付けてください。**

グリップベルトの調整

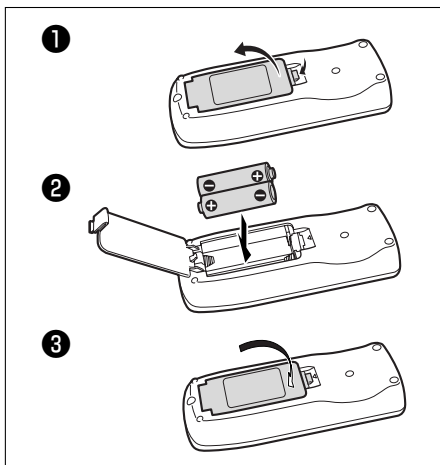
グリップベルトは下に回転します。

右手で本体を持ちながら、親指でスタート／ストップボタン、人差し指でズームレバーが操作できるように、手の位置を決め、ベルトの長さを調整します。

リモコン

リモコンを使うと、離れたところから本体を操作できます。

リモコンの操作のしかた

リモコン受光部に向けて、リモコンのボタンを押します。本体がリモコンの信号を受光すると、録画ランプが点灯します。

リモコンは2本の単3（R6）乾電池で動作します。本機には2種類のリモコンコードがあります。リモコンで操作できないときは、必ず本体のリモコンコードを確認してください（🕮 116）。
リモコンコード設定ボタン以外のボタンを押しても動作しなくなったり、本体に近づかないと動作しなくなったときは、電池を交換してください。

電池の入れかた

❶ つまみを押しながら電池カバーを開ける

❷ ＋、－を表示に合わせて正しく入れる
- 電池は2本とも新しいものと交換してください。

❸ 電池カバーを閉める

補足

- 直射日光の下や蛍光灯に近いとき、またリモコンが本体に近すぎるときには、正常に動作しにくい場合があります。
- 屋外などリモコンの受光部に強い光が当たるような場所では、受光範囲が狭くなることがあります（逆光撮影時など）。

撮影する

液晶画面またはビューファインダーで画像を見ながら撮影できます。屋外など周囲が明るい場所での撮影で液晶画面が見にくいときは、ビューファインダーを見ながら撮影してください。

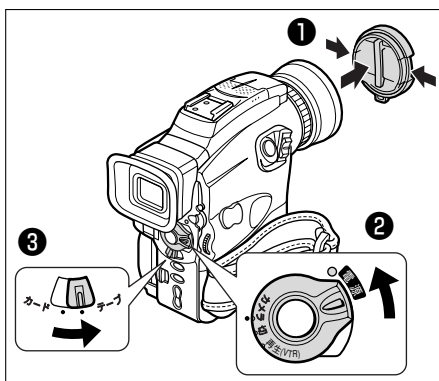
撮影する前に

● 必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。大切な撮影の前には市販の乾式のクリーニングカセットを使って、ビデオヘッドをきれいにしてください。

液晶画面を見ながら撮影する

準備

● バッテリーパックなどの電源を取り付ける

● カセットを入れる

❶ レンズキャップをはずす

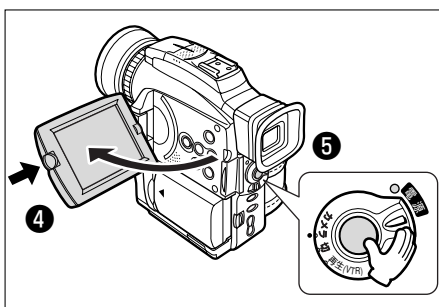
❷ 電源スイッチを「カメラ」にする

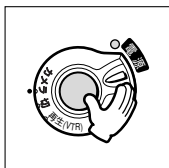
- 緑のボタンを押しながら、「カメラ」に合わせます。
- 電源ランプが赤く点灯します。
- フォト撮影（テープに記録：📖 58）（カードに記録：📖 136）については、参照ページをご覧ください。

❸ テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

❹ 液晶画面を開く

- OPENボタンを押して開き、見やすい角度に調整します。

❺ 撮影する

- スタート／ストップボタンを押します。
- 録画ランプが点滅します。

撮影をちょっと止めるとき（一時停止）

❶ スタート／ストップボタンを押す

- 撮影を再開するときは、もう1回押します。

基本編

撮影が終わったら

❶ 電源スイッチを「切」にする
❷ 液晶画面を垂直にしてから閉じる
❸ レンズキャップをつける

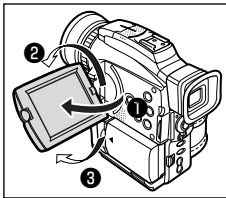
ビデオカメラをしまうときは

❶ カセットを取り出す
❷ バッテリーパックを取りはずす

注 意

● ビデオカメラを窓際に置いたり屋外で使用するときには、液晶画面やビューファインダー、レンズを太陽に向けたままにしないでください。故障の原因となります。

補 足

● 長時間使用しないときは、電源スイッチを必ず「切」にしてください。
● 撮影一時停止中は、テープとヘッドの保護のために、約5分で電源が切れます。撮影を続けるときは、電源スイッチを一度「切」にしてから、電源を入れ直してください。
● 明るい光や反射する光を撮影すると縦の帯状の線が出ることがあります。
● 屋外で撮影する際、日差しの加減で液晶画面が見えにくいことがあります。
●

液晶画面は

❶ 90 °まで開きます。
❷ 180 °まで回転します。
❸ 90 °まで回転します。

● 液晶画面の角度を変えるときは、必ず90 ° 開いてから行ってください。

● **液晶画面について**
液晶画面は、非常に精密度の高い技術で作られています。99.99%以上の有効画素がありますが、黒い点があらわれたり、赤や青、緑の点が常時点灯することがあります。これは、故障ではありません。なお、これらの点は、テープには記録されません。

ヒント

● カセットを取り出さなければ､電源を切っても､次の場面をきれいにつないで撮影できます。
● 撮影モードを変えて撮影するときは？（🕮 64）
● 長時間録画モードで撮影するときは？（🕮 91）

テープ撮影中の液晶画面の表示について

お知らせタイマー

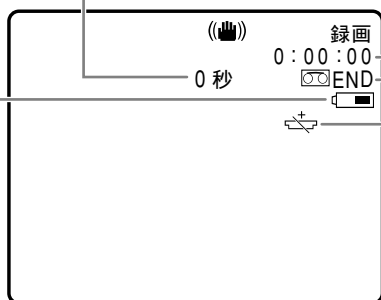
撮影を始めてから約10秒間、撮影時間を表示します。

- 1つの場面の撮影時間が短いと、落ち着きのない画面になりがちです。お知らせタイマーを見ながら、撮影すると便利です。

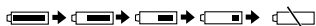
タイムコード（撮影時間表示）

撮影時間を「時：分：秒」で表示します。

- 再生時には、撮影したときの時間を「時：分：秒：フレーム」で表示します。

本機は30フレーム/秒でカウントするタイムコードと、フレーム周期が29.97/秒のNTSC映像信号の間に生じるズレを自動的に補正し、より高精度な編集ができるドロップフレーム方式を採用しています。

テープの残量表示と「 END」の点灯

テープの残量時間を「分」で表示します。撮影中／再生中にテープがなくなると「 END」が点灯し、停止します。撮影／再生時間が15秒以下のときは残量表示がでないことがあります。

- テープの残量表示は、テープの種類によっては、正しく表示されないことがあります。

「」の点滅

次の場合に が点滅します。

1. カセットが入っていないとき。
2. カメラモードで、録画できない状態のカセットがはいっているとき。

バッテリーパックの残量表示

バッテリーパックの残量の目安を表示します。

- バッテリーパックが消耗すると「」が点滅します。充電したバッテリーパックと交換してください。
- 消耗したバッテリーパックを装着すると、「」が出ずに、電源が入らなかったり、切れたりすることがあります。
- 残量と表示内容はビデオカメラ、バッテリーパックの状態により必ずしも一致しません。

「」の点滅

ボタン型リチウム電池が入っていなかったり、電池の容量が低下すると、「」が点滅します。新しいボタン型リチウム電池と交換してください。

- 交換用のボタン型リチウム電池は、CR1616タイプをお使いください。

よりよいビデオ撮影のために

ビデオカメラ本体の持ちかた

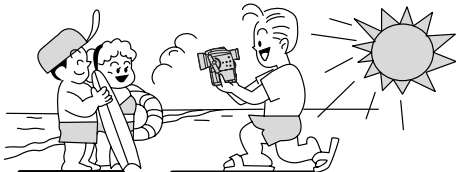
- ビデオカメラを持つときは、マイクやレンズに指がかからないようにしてください。

一番安定した構えかた

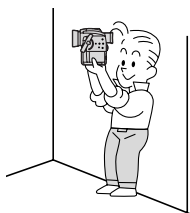
- 右手でグリップを持ち、右脇をしめる。
- 左手は軽くカメラの底にそえて安定させる。

- ハイアングルで撮る
- ローアングルで撮る

ライティング

戸外でのビデオ撮影では、太陽を背に撮影することをおすすめします。

安定した撮影をするためには

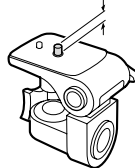
状況に合わせて構え方を変えましょう。

液晶画面は角度が変えられますので、姿勢に合わせて調整します。

- 壁に寄りかかる
- テーブルなどを利用して本体を置く

- ひじをたてて地面に伏せる
- 片膝立ちになる

- 三脚を使う

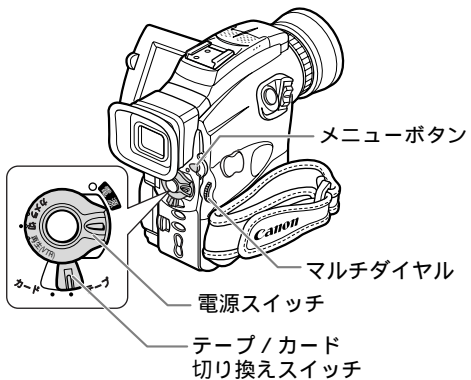
三脚を使うときには

- 直射日光がビューファインダー内に入ると、レンズが光を集めるためにファインダーの回りが溶けてしまいます。ビューファインダーを押し込んで直射日光が入らないようにしてください。
- 三脚は、必ず取り付けネジの長さが5.5mm未満のものをご使用ください。5.5mm以上のネジ長のものをご使用になると、本体を破損することがあります。

世界時計のエリアを選ぶ

はじめてお使いになる場合や、ボタン型リチウム電池を交換した場合には、画面に「エリア／日時を設定してください」が表示されます。日付／時刻を設定する前に世界時計のエリアを設定してください。

世界時計のエリアについて：
本機の世界時計機能では、主要都市を含む世界24ケ所の標準時間を表示できます。都市名（エリア）を選ぶと、日付などを設定し直すことなく、旅行先の現地の時刻を記録できます。

また、旅行先が夏時間（summer time〈サマー タイム〉または daylight saving time〈デイライト セイビング タイム〉）のときは、世界時計表示を夏時間に変更できます。

● 撮影を行う前に、変更してください。

● ここでは、テープ／カード切り換えスイッチが「テープ」で、はじめてお使いになるときの画面表示で説明しています。

基本編

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

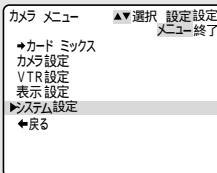
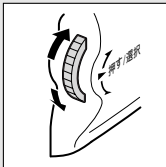
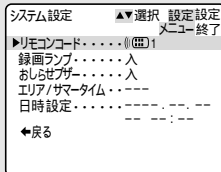
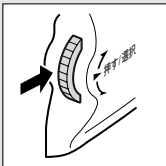
① 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「カメラ」に合わせます。

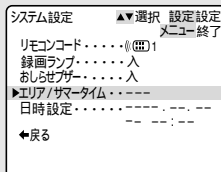
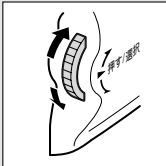
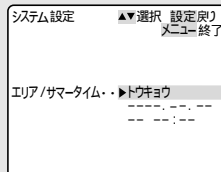
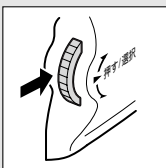
● 電源ランプが赤く点灯します。

② テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」に合わせます。

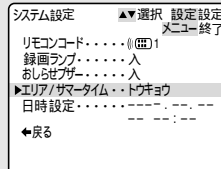
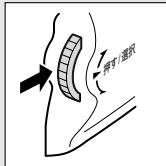
2 「カメラメニュー」を出す

● メニューボタンを押します。

3「システム設定」を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を「システム設定」に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、「システム設定」サブメニューが出ます。

4「エリア／サマータイム」を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を「エリア／サマータイム」に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、「エリア／サマータイム」だけの表示になります。

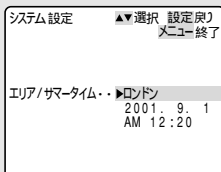
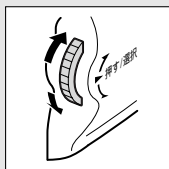
- はじめてお使いになる場合は「トウキョウ」が最初に表示されます。

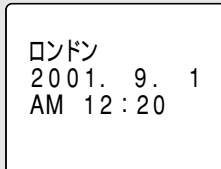
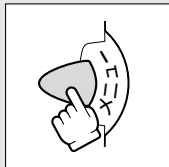
5「システム設定」サブメニューに戻る

- マルチダイヤルを押します。
- 「日付／時刻を設定する」操作4に進みます。（📖 44）

旅行先のエリアを選ぶ

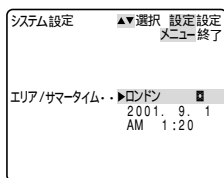
あらかじめ日時を設定しておくと、海外へ旅行したときに「エリア」の設定を旅行先に変えるだけで、日時は現地時間に変わります。

40ページの操作4のあと

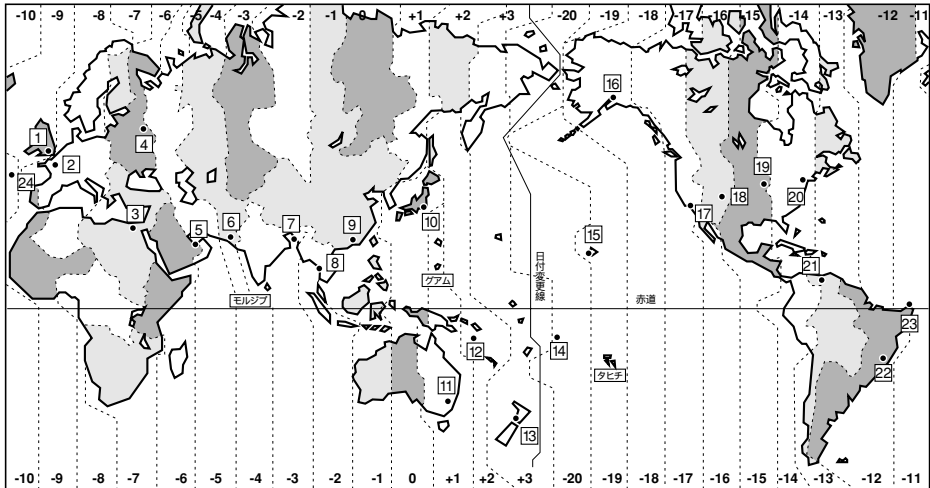
1 エリアを選ぶ

- マルチダイヤルを回します。
- 回すたびに都市名が変わり、その都市の日付／時刻になります。

2 メニューを消す

ロンドン
2001. 9. 1
AM 12:20

- メニューボタンを押します。

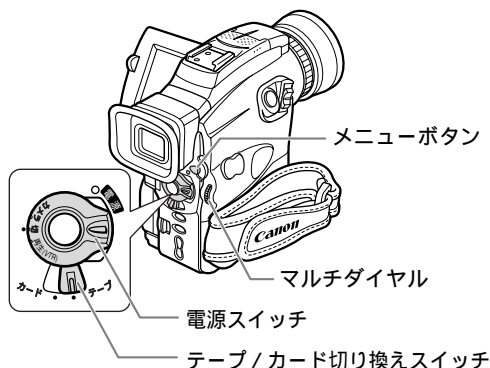
夏時間を設定するときは

- 都市名の右に☼マークの付くものを選んでください。

基本編

世界時計の都市と代表国

都市番号と都市名と日本との時差			代表国/代表地域
1	ロンドン	グリニッチ標準時 -9	イギリス（GMT：グリニッチ標準時）、ポルトガル
2	パリ	-8	イタリア、オランダ、スイス、スウェーデン、スペイン、ドイツ、中央ヨーロッパ標準時（CET）
3	カイロ	-7	エジプト、ギリシャ、トルコ
4	モスクワ	-6	イラク、ケニア、サウジアラビア、ロシア
5	ドバイ	-5	アラブ首長国連邦
6	カラチ	-4	パキスタン、モルジブ
7	ダッカ	-3	インド、バングラデシュ、ミャンマー
8	バンコク	-2	カンボジア、タイ、ベトナム、ジャカルタ島、バリ島
9	ホンコン	-1	オーストラリア西部（パース）、シンガポール、台湾、中国、フィリピン、ボルネオ島
10	トウキョウ	日本標準時（JST）	日本、韓国
11	シドニー	+1	オーストラリア東部（シドニー、ゴールドコースト）、グアム、サイパン
12	ソロモン	+2	ニューカレドニア
13	ウェリントン	+3	ニュージーランド、フィジー
14	サモア	-20	西サモア
15	ホノルル	-19	タヒチ、ハワイ/米国ハワイ標準時（HST）
16	アンカレジ	-18	アンカレジ/米国アラスカ標準時（AST）
17	ロサンゼルス	-17	サンフランシスコ、ロサンゼルス/米国太平洋標準時（PST）、カナダ西海岸
18	デンバー	-16	デンバー/米国山地標準時（MST）
19	シカゴ	-15	シカゴ、ダラス/米国中部標準時（CST）、メキシコ
20	ニューヨーク	-14	ニューヨーク、ワシントン/米国東部標準時（EST）、モントリオール/カナダ東海岸、ペルー
21	カラカス	-13	チリ、ベネズエラ
22	リオ	-12	アルゼンチン、ブラジル
23	フェルナンド	-11	フェルナンドデノロニヤ島（ブラジル）
24	アゾレス	-10	アゾレス諸島（ポルトガル）

日付／時刻を設定する

はじめてお使いになる場合や、ボタン型リチウム電池を交換した場合には、世界時計のエリアを選んでから、日付／時刻を設定します。

- はじめて日時を設定するときは、世界時計のエリア（📖 39）を設定したあと、操作4からはじめてください。
- 各月の日数やうるう年は自動的に判別します。

- ここでは、テープ／カード切り換えスイッチが「テープ」で、はじめてお使いになるときの画面表示で説明しています。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

① 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「カメラ」に合わせます。
- 電源ランプが赤く点灯します。

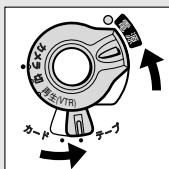
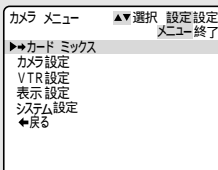
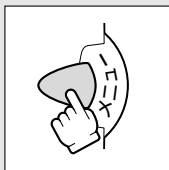
② テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」に合わせます。

2「カメラメニュー」を出す

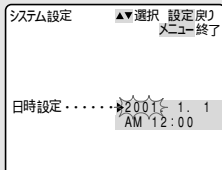
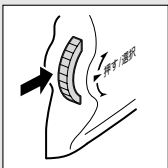
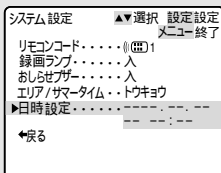
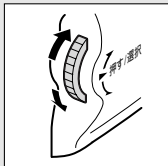
- メニューボタンを押します。

基本編

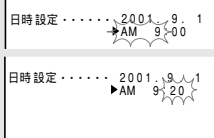
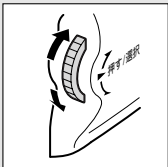
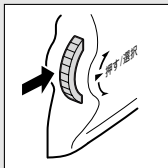
3「システム設定」を選ぶ

カメラ メニュー ▲▼選択 設定設定
メニュー終了
➡カード ミックス
カメラ設定
VTR設定
表示 設定
▶システム設定
⬅戻る

① マルチダイヤルを回して、▶を「システム設定」に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、「システム設定」サブメニューが出ます。

4「日時設定」を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を「日時設定」に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、「日時設定」だけの表示になります。

5 日付と時刻を設定する

例: 2001年9月1日午前9時20分に設定する。

① マルチダイヤルを押して、項目を選びます。選んだ項目が点滅します。

- 押すたびに、年→月→日→時→分と項目が変わります。

② マルチダイヤルを回して、数字を選びます。

- ①と②の操作をくり返して設定します。

日付・時刻は次のように変わります
（マルチダイヤルを上に回した場合）

年： 2001 → 2002 → … 2010 … → 2030
月： 1 → 2 → 3 → ………… → 12
日： 1 → 2 → 3 → ………… → 31
時： AM12 → AM1 → AM2 → ……… → AM11 → PM12 → PM1 → PM2 → ……… → PM11
分： 00 → 01 → 02 → ………… → 59

- 下に回した場合には、矢印と逆方向に変わります。

③ 時報に合わせて、メニューボタンを押します。内蔵時計が動き始めます。

- 日付／時刻を設定すると、電源を入れるたびに約４秒間エリア（トウキョウ以外に設定したとき）と日付／時刻が大きく表示されます。

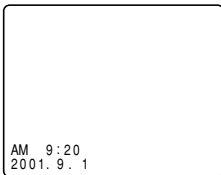
基本編

日付や時刻の一部を変更する

① 5の操作で、マルチダイヤルを押して、変更したい項目を選びます。
② マルチダイヤルを回して、数字を変更します。
③ メニューボタンを押して、メニューを閉じます。

撮影時に日時を表示する

撮影時の日時は、通常画面に表示されませんが、テープやメモリーカードには記録されます。本機では撮影中に現在の日時を画面の左下に表示することができます。表示される日時は、撮影している画面中には録画されません。（再生時に撮影したときの日時を表示したいとき 🕮 113）

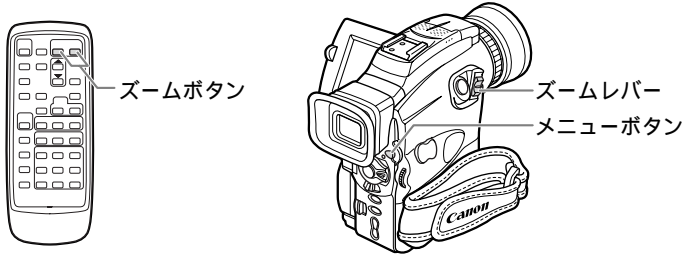
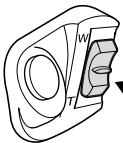
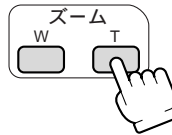
カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

「表示設定」サブメニューから「日時表示」を選び、「入」にします。（🕮86）

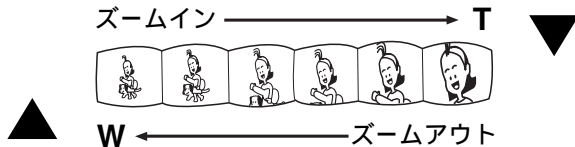
補足

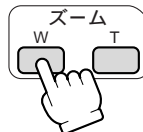
- 「日時表示」が「入」のときには、日時設定後にメニューを終了したときや電源を入れても画面に大きくエリアと日時を表示しません。

大きくしたり、小さくしたりして撮る(ズーム)

本機は、10倍の光学ズームに加え、200倍までのデジタルズームを装備しています（40倍、200倍までの選択が可能）*。ズームを使うと、ビデオカメラの位置を変えずに、被写体を大きくしたり、小さくしたりして撮影できます。
* カードカメラモードでは、8倍までの光学ズームのみです。デジタルズームは使用できません。

- ズームレバーを少し動かすと低速ズームに、さらに動かすと高速ズームになります。（ズームスピードは多段階になっています。）
  リモコンではズームスピードは一定です。
- ご購入時には、デジタルズームは「40×」に設定されています。

ズームインするとき

（本体）
ズームレバーを引く

（リモコン）
ズームボタンを押す

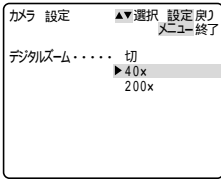
- 被写体が大きくなり、ズームインになります。
- Tはtelephoto（テレフォト）（望遠）の頭文字で、画面の一部を大きく拡大できます。

ズームアウトするとき

（本体）
ズームレバーを押す

（リモコン）
ズームボタンを押す

- 被写体が小さくなり、ズームアウトになります。
- Wはwide（ワイド）（広角）の頭文字で、広い範囲が撮影できます。

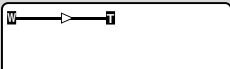
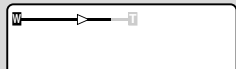
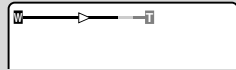
デジタルズームについて

光学ズームの10倍を越えると、自動的にデジタルズームになります。デジタル領域では、画像をデジタル処理するため画質が低下し、通常より画面が粗くなります。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

デジタルズームの設定を変える

「カメラ設定」サブメニューから「デジタルズーム」を選び、「切」または「200×」にします。（📖 86）

液晶画面／ビューファインダーの表示

光学ズームのとき（デジタルズーム「切」）

●ズームレバーを操作するとズームのおよその位置を表示します。離すと約４秒後に消えます。

●デジタルズームになると、ズーム表示が長くなります。デジタルズーム領域は、40倍までは水色、40倍から200倍までは青色で表示されます。

デジタルズーム「40×」のとき

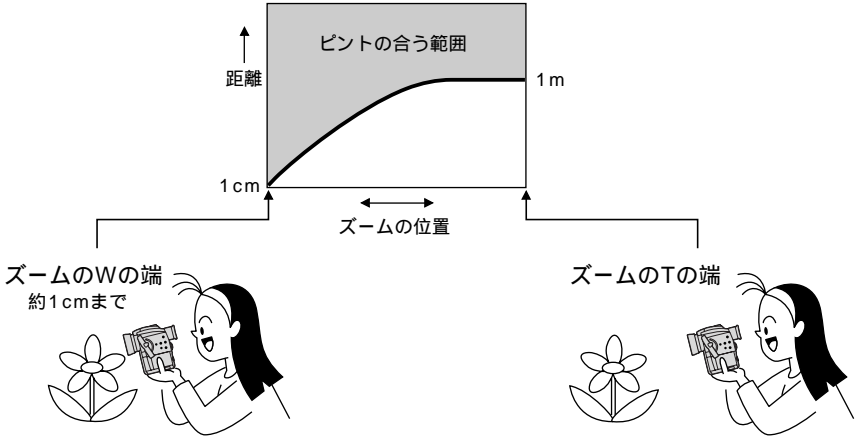
デジタルズーム「200×」のとき

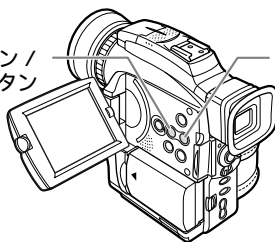
補 足

- マルチ画面（📖 105）とモザイク（📖 103）を設定しているとき、デジタルズームは使用できません。
- 撮影中ズームを使いすぎると、落ち着きのない画面になります。効果的にお使いください。
- ズームをしながら撮影するときは、広角～望遠までの全域で、被写体から1m以上離れてください。

基本編

ズームを使ったときに、どこまで近づいて撮影できるの？

ズームの位置によって、被写体にどこまで近づけるかが変わります。

● 近くのものにピントが合わないときには、ズームレバーをW側に動かして広角にします。

● 音声は聞こえません。

録画チェック

最後に撮影した場面(約3秒間)を再生して、液晶画面／ビューファインダーで確認できます。

カメラモード 再生(VTR)モード カードカメラモード カード再生モード

撮影一時停止中

- 録画チェックボタンをポンと押します。
- 撮影した最後の場面（3秒間分）が❷、❸の順番で再生され、撮影一時停止に戻ります。

録画サーチ

撮影した場面を正方向、逆方向に再生して撮り直しや続けて撮影したい場面を探せます。

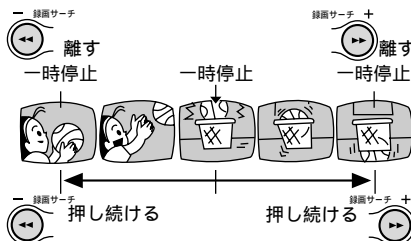
カメラモード 再生(VTR)モード カードカメラモード カード再生モード

撮影一時停止中

正方向の再生をする

- 録画サーチ＋ボタンを押し続けます。

逆方向の再生をする

- 録画サーチ－ボタンを押し続けます。
- 離すと、その場面で撮影一時停止になります。

補足

- 逆方向の再生中は画面が多少乱れます。

再生する

撮影したテープを液晶画面で見ます。ビューファインダーでも見ることができます。液晶画面で再生するときには、内蔵のスピーカーで音声を聞くことができ、音量も調整できます（📖 53）。

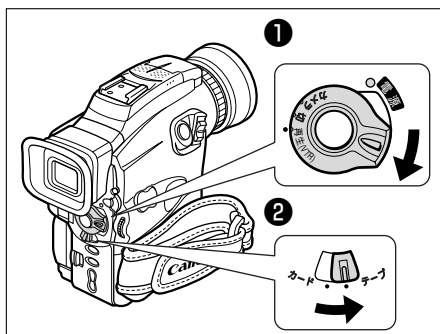
● 内蔵スピーカーでは音声はモノラルになります。（市販のヘッドホンを使用すると、ステレオで音声を確認できます。）

再生画面がおかしいときは

● ビデオヘッドが汚れている場合があります。市販の乾式のヘッドクリーニングカセットを使ってビデオヘッドをきれいにしてください。

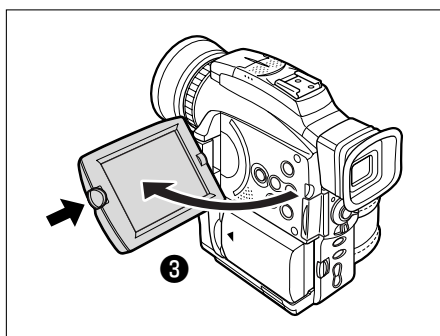
準備

● バッテリーパックなどの電源を取り付ける。

● カセットを入れる。

❶ 電源スイッチを「再生（VTR)」にする

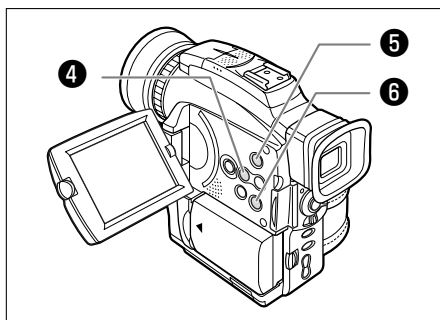
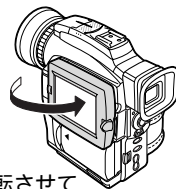
● 緑のボタンを押しながら、「再生（VTR)」に合わせます。

● 電源ランプが緑色に点灯します。

❷ テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

❸ 液晶画面を開く

● OPENボタンを押して開き、見やすい角度に調整します。

● 液晶画面を外側に向けて本体に収納することができます（この場合、リモコンで操作してください）。

180°回転させて閉じる

❹ テープを巻き戻す

● 巻き戻しボタンを押します。

❺ 再生する

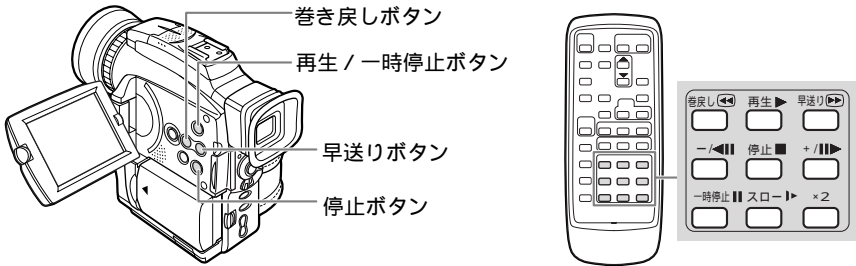
● 再生ボタンを押します。

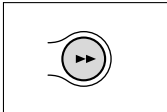
❻ 再生を終える

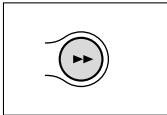
● 停止ボタンを押します。

- 再生画面は液晶画面を閉じると、ビューファインダーで見ることができます。（内蔵スピーカーから音声は出ません。）
- 再生時に撮影したときの日付/時刻を表示する場合は、113ページをご覧ください。

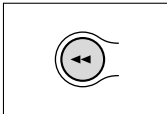
特殊再生

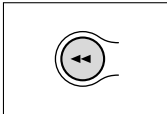
特殊再生時には、音声は聞こえません。

早送り再生：押している間だけ約9.5倍の早送り再生になります。

再生中

早送りボタンを押し続ける。離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り中

早送りボタンを押し続ける。離すと、早送りに戻る。

巻戻し再生：押している間だけ約9.5倍の巻き戻し再生になります。

再生中

巻き戻しボタンを押し続ける。離すと、ふつうの再生に戻る。

巻き戻し中

巻き戻しボタンを押し続ける。離すと、巻き戻しに戻る。

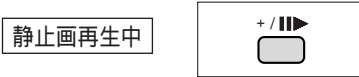
静止画再生

再生中

一時停止ボタンを押す。もう一度押すと、ふつうの再生に戻る。

基本編

正方向コマ送り

静止画再生中

+/II▶ ボタンを押す。
押すたびに1コマずつ送られる。
押し続けると、連続コマ送りになる。

正方向スロー再生

再生中

スローボタンを押す。通常の約1/5のスロー再生になる。再生ボタンを押すと、ふつうの再生に戻る。
スロー再生が30秒以上続くとふつうの再生に戻る（2倍、3倍録画モード時のみ）。

正方向2倍速再生

再生中

×2ボタンを押す。
再生ボタンを押すと、ふつうの再生に戻る。

逆方向再生

再生中

−/◀II ボタンを押す。再生ボタンを押すと、正方向（ふつうの）再生に戻る。

逆方向コマ送り

静止画再生中

−/◀II ボタンを押す。
押すたびに1コマずつ逆方向に送られる。
押し続けると、連続コマ送りになる。

逆方向スロー再生

再生中

−/◀II ボタンを押し、スローボタンを押す。
通常の約1／5の逆方向スロー再生になる。
再生ボタンを押すと、正方向（ふつうの）再生に戻る。
スロー再生が30秒以上続くと逆方向再生に戻る（2倍、3倍録画モード時のみ）。

逆方向2倍速再生

再生中

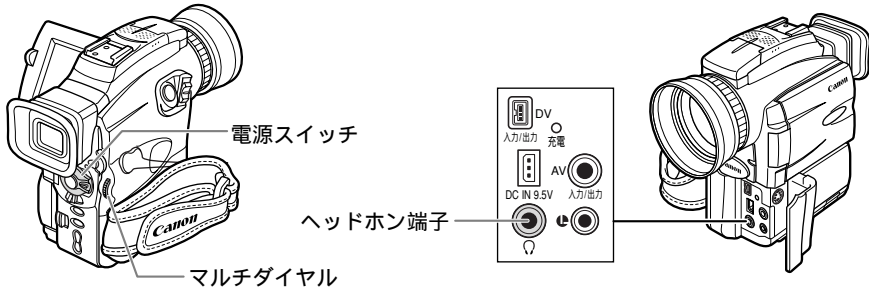
−/◀II ボタンを押し、×2ボタンを押す。
再生ボタンを押すと、正方向（ふつうの）再生に戻る。

補足

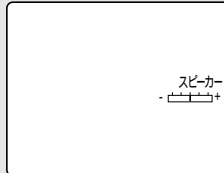
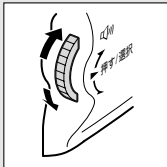
- 一部の特殊再生では、画面が多少乱れることがあります。
- 静止画再生が約5分以上続くと、自動的に停止状態になります。再生するときはもう一度再生ボタンを押します。逆方向再生中に一時停止ボタンを押したとき（逆方向静止画再生）は、約2分以上続くと停止状態になります。

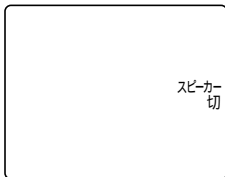
音量を調整する

撮影したテープを液晶画面で見るときに、同時に内蔵スピーカーで音声も聞くことができます。ヘッドホンを接続したときには、ビューファインダー使用時にもヘッドホンで音声の確認ができます。

再生（VTR）モードでは内蔵スピーカーとヘッドホン、カメラモードではヘッドホンの音量調整になります。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

基本編

1 再生中 音量を調整する

- マルチダイヤルを回して、調整します。
- 音量表示が出ます。（ヘッドホンが接続されているときは、「ヘッドホン」の表示が出ます。）調整を終えると、約４秒後に表示は消えます。

音声の消しかた

- マルチダイヤルを下に回し続けます。音量表示が消え、「切」が出ます。
- スピーカー／ヘッドホンから、音声は出ません。
- 再び音声を聞くときは、マルチダイヤルを上に回します。

注 意

- 大きな音で再生すると、歪んで聞こえることがあります。その場合は、音を小さくしてください。

ヒント

- ヘッドホンの音量は再生（VTR）モードだけでなく、カメラモードでも調整できます。再生（VTR）モード、カメラモードは同じ音量になります。
- 調整した音量は、電源を切っても記憶しています（スピーカーとヘッドホンの音量は別々に記憶します）。

テレビで見る

本機にACパワーアダプターを接続して、家庭用のコンセントで使うことをおすすめします。
● 接続は、各機器の電源を切って行ってください。

S(S1)-映像／音声入力端子付きのテレビにつないで見る ステレオ

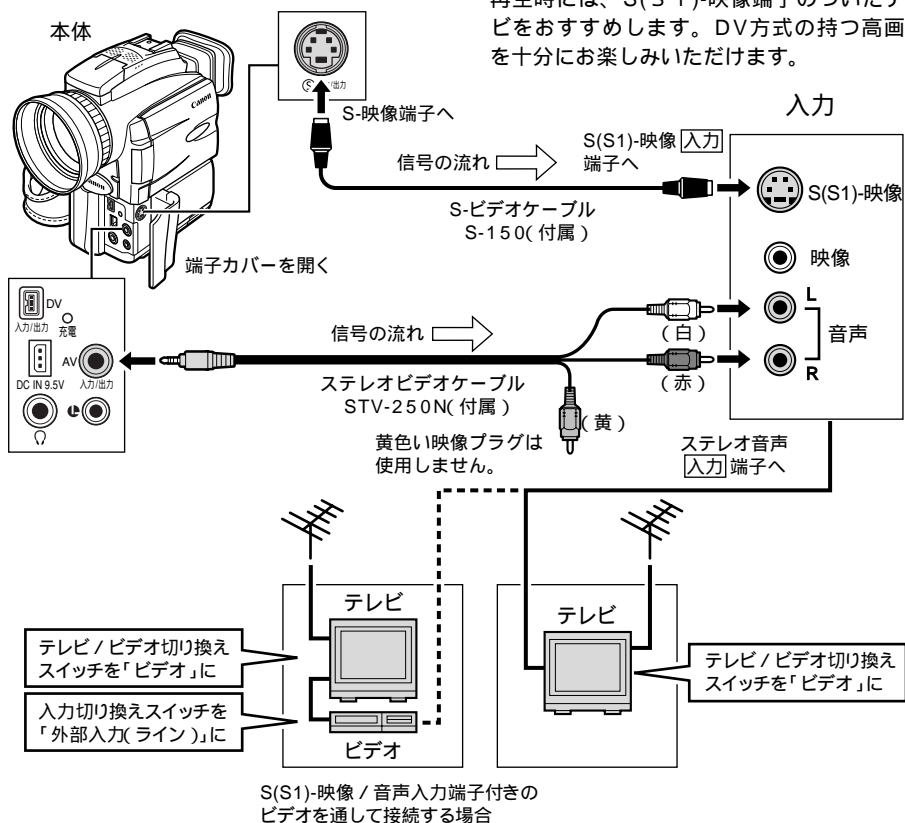
S-ビデオケーブル S-150、ステレオビデオケーブル STV-250Nを使います。

接続する機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

※黄色い映像プラグは使用しません。

テレビについて

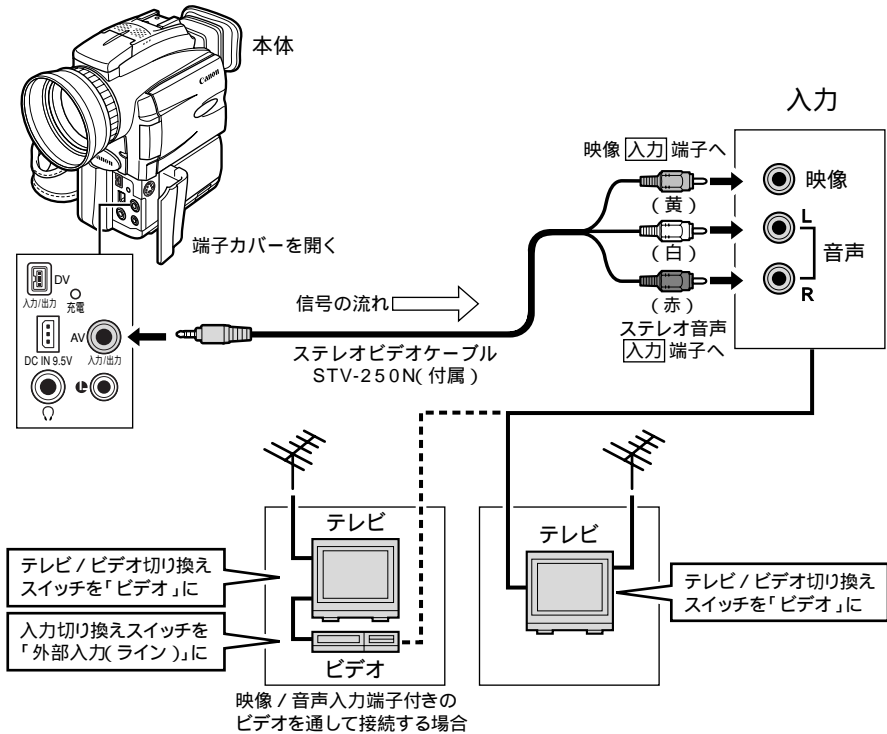
● 再生時には、S(S1)-映像端子のついたテレビをおすすめします。DV方式の持つ高画質を十分にお楽しみいただけます。

基本編

映像／音声入力端子付きのテレビにつないで見る

ステレオ

ステレオビデオケーブル STV-250Nを使います。

接続する機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

※S-映像プラグは使用しません。

ヒント

S1-映像入力端子付きのテレビの場合

● 本機のワイドテレビ用「16：9」機能（□ 75）で撮影した画像をテレビで見るときに、本機をS1-映像入力端子につないで再生すると、自動的にワイド画面に切り換わります。

ビデオ方式 IDシステム（ID-1）方式対応のテレビの場合

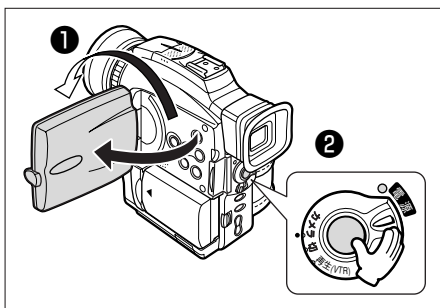
● 本機のワイドテレビ用「16：9」機能（□ 75）で撮影した画像をテレビで見るときに、Sまたは映像入力端子につないで再生すると、自動的にワイド画面に切り換わります。

液晶画面を相手に見せながら撮る（対面撮影）

液晶画面を相手に見せながら、ビューファインダーを使って撮影できます。セルフタイマー（📖 62）などでビデオカメラを固定して大勢で撮影したりするときにも便利です。

撮影一時停止中

❶ 液晶画面を回転させる

❷ 撮影する

- スタート／ストップボタンを押します。

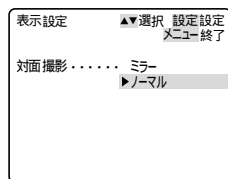
液晶画面に映る映像を選ぶ

液晶画面を回転させると、画面に映る映像は左右逆になります。ご購入時の設定を変えて、記録される映像と同じ状態で映すことができます。

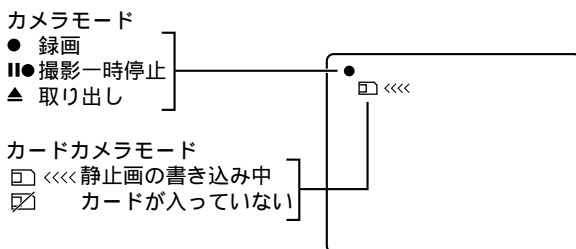
ミラー：　液晶画面に映る画像が左右逆になり、鏡を見ているような映像になります。

ノーマル：　記録される映像と同じ状態で液晶画面に映ります。液晶画面に映る文字などを読むことができます。

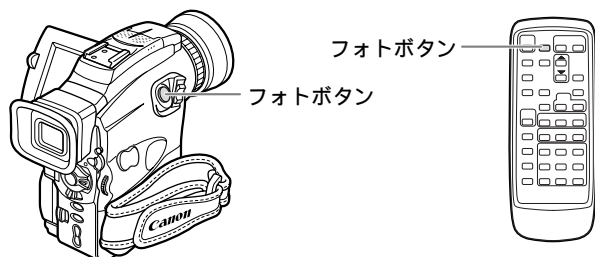
- ご購入時の設定は「ミラー」です。

カメラモード　再生(VTR)モード　**カードカメラモード**　カード再生モード

「表示設定」サブメニューから「対面撮影」を選び、「ノーマル」にします。（📖 86）

「ミラー」のときに液晶画面に出る表示

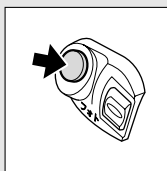
ビューファインダーでは、すべての表示が出ます。

静止画をテープに撮る（フォト撮影）

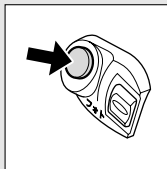
● 静止画をメモリーカードに記録する（📖 136）
● ストロボ撮影について（📖 60）

フォト撮影では写真を撮るように静止画を撮影できます。旅行先の案内板や地図などの静止画を、場面の初めに使うと効果的です。また、撮影の最初に静止画を入れておくと、録画を始めた部分をフォトサーチ機能で簡単に探し出せます（📖 111）。
本機では撮影一時停止からフォト撮影する方法と、動画を撮影中に撮影を中断せずにフォト撮影する方法の2種類があります。
● 静止画1枚のテープへの記録時間は約6.5秒です（2倍、3倍録画モード時は約8秒）。
● 撮影中の音声はそのまま記録されます。

撮影一時停止からフォト撮影する

● リモコンのフォトボタンを押したときは、すぐにフォト撮影が始まります。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 撮影一時停止中 フォトボタンを浅く押す

● ◘が白色に点滅した後、ピント調整が終わると緑色の点灯に変わります。
● 露出がロックされます。

2 フォトボタンを深く押す

● ◘が消えます。
● 液晶画面／ビューファインダーの映像も静止画になります。
● フォト撮影が始まると、撮影している時間（秒）が画面に表示され、約6.5秒後*に自動的に撮影一時停止になります。
* 2倍／3倍録画モード時は約8秒。

補足

フォト撮影時のピントと●表示について

オートフォーカスのとき：

● ピントが合うと●は白色の点滅から、緑色の点灯に変わります。

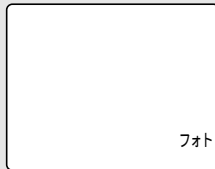
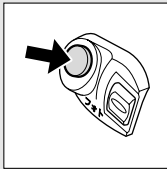
● オートフォーカスの苦手な被写体など（📖 69）を撮影していて、白色の点滅のまま変わらないときがあります。このようなときはフォトボタンを浅く押したまま、マルチダイヤルを回してピントを合わせてください（●は緑色の点灯に変わります）。

マニュアルフォーカスのとき：

● 最初から緑色の点灯になります。マルチダイヤルでピントを合わせてください。

動画を撮影中にフォト撮影する

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 撮影中 フォトボタンを深く押す

● 液晶画面／ビューファインダーの映像も静止画になります。

● フォト撮影が始まると、撮影している時間（秒）が画面に表示され、約6.5秒後*に自動的に撮影一時停止になります。

注意

フォト撮影は

● 約6.5秒後*に自動的に撮影一時停止になります。フォト撮影をしている約6.5秒間*に電源スイッチを「切」にしても、撮影が終わるまで電源は切れません。

● 液晶画面／ビューファインダーで被写体が確認できる明るさで撮影してください。

* 2倍／3倍録画モード時は約8秒。

内蔵のストロボを使う

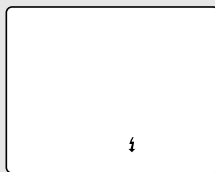
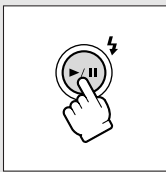
ストロボを使うと、夜景や室内など、周囲が暗い場所でも静止画をきれいに撮影できます。
さらに、夜や暗い室内などでストロボを使って人物を撮影したときに、目が赤く映る「赤目現象」を出にくくします（赤目緩和機能）。

- ⚡A（オート）：被写体の明るさに応じて、自動的に発光します。
- ◎（赤目緩和オート）：「オート」に加えて、撮影前に赤目緩和用の発光をします。
- ⚡（強制発光）：被写体の明るさに関係なく、発光します。
- ⊘（発光禁止）：発光しません。ストロボ撮影が禁止されている場所で撮影するときなどに使います。

ストロボの設定を変える

● ご購入時の設定は「オート」です。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

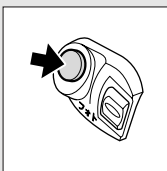
1 ストロボボタンを押す

- ボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。

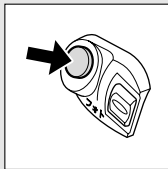
⚡A（オート）→ ◎（赤目緩和オート）→ ⚡（強制発光）→ ⊘（発光禁止）→ ⚡A（オート）

- 選んだ設定の表示が出ます。「⚡A（オート）」のみ、約4秒後に消えます。
- 「⚡A（オート）」を選んでいて表示が消えているときに、ストロボボタンを押すと、「⚡A」の表示が出ます。表示が出ている間にストロボボタンを押すと、設定を変えられます。

ストロボを使う

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

2 撮影一時停止中 フォトボタンを浅く押す

- ストロボが自動的に上がります。
- 「⚡」が緑色で表示されます。

3 フォトボタンを深く押す

● ストロボが発光します。
● 記録中は、液晶画面／ビューファインダーの映像も静止画になります。

ストロボを収納するとき

手で押し下げます。

● ストロボ発光中は、ストロボを収納しないでください。

補足

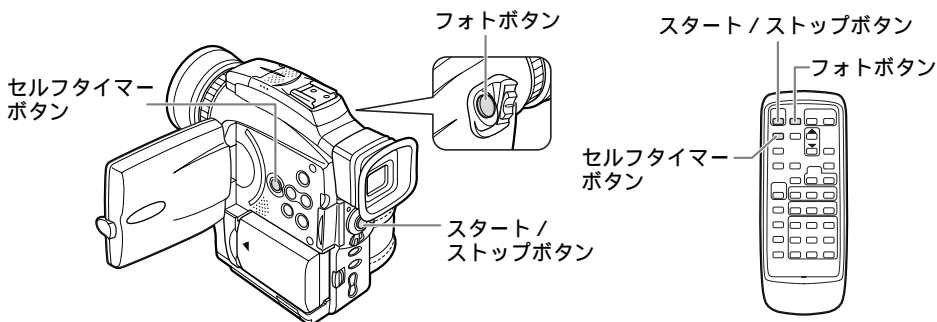
● ストロボ撮影可能距離は、約1〜3mです。撮影条件により、距離は変わります。
● 被写体の明るさに応じて、ストロボの発光量を調整します（ストロボ調光）。フォト撮影時のストロボ発光（本発光）の前に、調光用の発光を行います。「赤目緩和オート」の場合は、赤目緩和用発光と本発光の間に調光します。また、本発光は赤目緩和用発光の約1秒後に発光します。
● 「赤目緩和オート」では、写される人が赤目緩和用発光を見ていないと効果がありません。赤目緩和効果の度合は、写される人との距離によって異なり、また、個人差があります。
● 明るい場所で「強制発光」を行うと、ストロボ撮影の効果が得られにくいことがあります。
● 次の場合、ストロボは発光しません。
  - 「オート」と「赤目緩和オート」で、露出をロックしているとき。

  [ストロボの表示が紫色になる]
  - 本機に取り付けた別売のビデオライトVL-3が「OFF」以外に設定されているとき。
  - カメラモードで、シャッタースピードを1/2000秒以上の高速シャッターに設定しているとき。ただし、「強制発光」の場合は、設定しているシャッタースピードの表示が4秒間点滅（紫色）後に「1/1000」（黄色）になり、ストロボは発光します。

  [ストロボの表示が赤く点滅する]
  - ストロボの充電中に異常があるとき。（📖 180）

  [ストロボの表示が消える]
  - マルチ画面を設定しているとき。
  - 動画をテープに記録しているとき。
● フォトボタンを押しても「 ϟ 」が緑色で表示されないときは、発光しません。この場合でもストロボ撮影を行いたいときは、「強制発光」にしてください。
● レンズフードや別売のテレコンバーターなどを本機に取り付けているとき、ストロボを発光すると、レンズフードやテレコンバーターなどの影が映ることがあります。
● ストロボを使って撮影したテープをほかの製品で再生したとき、ちらついて見えることがあります。

セルフタイマーで撮る

動画、静止画のどちらでも使用できます。対面撮影などのときに便利です。

● 本体のスタート／ストップボタン、フォトボタンでは10秒後、リモコンでは2秒後に撮影を開始します。

動画を撮影するとき

カメラモード 再生(VTR)モード カードカメラモード カード再生モード

1 撮影一時停止中 セルフタイマーボタンを押す

セルフタイマー

● 「セルフタイマー」の表示が出ます。

2 撮影する

● スタート／ストップボタンを押します。
● 撮影開始までの時間が表示され（10～1秒)、録画ランプが点滅します。

静止画を撮影するとき

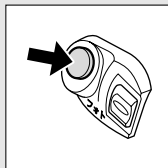
● ここでは、「カメラモード」で説明しています。

カメラモード 再生(VTR)モード **カードカメラモード** カード再生モード

1 撮影一時停止中
セルフタイマーボタンを押す

セルフタイマー

● 「セルフタイマー」の表示が出ます。

2 フォトボタンを深く押す

● 撮影開始までの時間が表示され（10～1秒）、録画ランプが点滅します。
● 本体で操作したときは、撮影開始2秒前に◘が白色で点滅し、緑色の点灯に変わります。
リモコンの場合は、すぐに点灯します。
撮影開始から約6.5秒後*に自動的に撮影一時停止になります。（カードカメラモードのときは、撮影している画像になります。）
* 2倍／3倍録画モード時は約8秒。

補足

● セルフタイマーの動作を開始する前に解除するときは、セルフタイマーボタンを押してください。
● 撮影開始までの時間が表示されている間にセルフタイマーを解除するときは、セルフタイマーボタンまたはスタート／ストップボタン、フォトボタンを押してください。
● メニューで「おしらせブザー」が「入」のときは、撮影開始までブザーが鳴ります。

撮影場面や目的に合わせて撮る（プログラムAE）

撮影モードの選択

撮影モードは、7種類あります。撮影シーンに合わせて、撮影モードを選んでください。
● 撮影モードによって、使用できる機能が異なります。

撮影モード 切り換え スイッチの位置	P ➡	P ⬅					
撮影モード	□(全自動) モード	オート モード	スポーツ モード	ポートレート モード	スポットライト モード	サーフ&スノー モード	ローライト モード
シャッタースピード	オート	○	オート				
ピント合わせ	オート	○					
ホワイトバランス	オート	○					
露出	オート	○					
手ぶれ補正（入/切）	入	○					
デジタルエフェクト	×	○					
16：9	×	○					

オート＝自動調整になります。　○＝操作できます。　×＝操作できません。

□（全自動）モード

すべてをカメラまかせ。
ズームとスタート／ストップボタンを押すだけで簡単に撮影できるモードです。

オートモード

すべてをカメラまかせで撮影できるモードですが、細かく設定できます。

スポーツモード

ゴルフやテニスなどのスポーツをしている人の撮影に適しています。
本機の特殊再生機能で、速い動きもクリアに再生できます。
フォーム分析などにも便利です。

こんな時に使います

- 晴天下でテニスやゴルフなどのスポーツをしている人の撮影
- 走っている自動車や列車などの中から外を撮影するとき
- ジェットコースターなどの動きの速い乗り物の撮影などの場合

- スポーツモードでは、シャッタースピードが高速に設定されます。晴天の屋外や照明の十分な屋内など、明るい場所での撮影にご使用ください。
- スポーツモードは、静止画再生やスロー再生などの特殊再生を目的としたモードです。このため、通常のスピードで再生すると、なめらかに見えないことがあります。

ポートレートモード

絞りを開くことにより、背景や周囲をボカし被写体を引き立たせることができます。背景や被写体の手前にあるものをぼんやりとボカして撮影します。ポートレートモードでは、シャッタースピードは自動で調整されます。

こんな時に使います

- 屋外で被写体を引き立てて撮影する場合
- 奥行きのある映像の中で被写体を引き立てて撮影する場合

- ズームの望遠（T）側にすると、背景のボケの効果がより大きくなります。
- シャッタースピードが速めに設定されるため、再生するとなめらかに見えないことがあります。

スポットライトモード

スポットライトなどの範囲の狭い照明が当たるシーンを鮮明に撮影することができます。

こんな時に使います

結婚式のスポットライトで照明されたシーンや、発表会の舞台などを撮影する場合

サーフ＆スノーモード

夏の海岸や冬の雪一面のスキー場など、周囲全体が明るい場所でも被写体が暗くなるのを防ぎ、鮮明に撮影することができます。

こんな時に使います

反射光が多くまぶしい海辺やスキー場などで撮影する場合

- 曇りや日陰など周囲が暗いときには被写体が明るくなり過ぎる場合があります。液晶画面/ビューファインダーで映像を確かめてください。
- シャッター速度が速めに設定されるため、再生するとなめらかに見えないことがあります。

ローライトモード

明るさが不足する場所で被写体を明るく撮影できます。

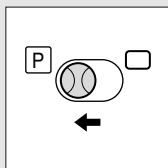
こんな時に使います

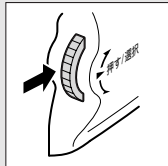
多少暗いところや暗くても照明が使えないところで、動きの少ない被写体を撮影する場合

- ローライトモードでは動きのある被写体は、尾を引いたような残像になります。
- ローライトモードでは明るく撮影できる分、通常の撮影に比べて画質が多少劣化することがあります。
- 自動ではピントの合いにくいときがあります。

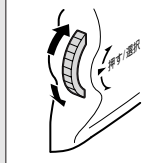
▭（全自動）以外の撮影モードの選びかた

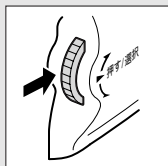
カメラモード 再生(VTR)モード **カードカメラモード** カード再生モード

1 Ⓟにする

● 撮影モード切り換えスイッチをⓅにします。

2 プログラムAEメニューを出す

▶オート
スポーツ
ポートレート
スポットライト
サーフ&スノー
ローライト

● マルチダイヤルを押します。

3 撮影モードを選ぶ

オート
スポーツ
▶ポートレート
スポットライト
サーフ&スノー
ローライト

① マルチダイヤルを回して、▶を撮影したいモードに合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、選んだモード表示が出ます。

応用編

補 足

● キラキラ光っていたり、極端に明るい被写体(一部に高輝度な部分を含む被写体)を撮影すると、縦に光の帯が出ることがあります。

プログラムAEを使うときは

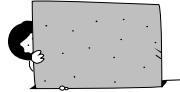
● 撮影中はプログラムAEモードを変えないでください。プログラムAEモードを変えると映像の明るさが一時的に大きく変化する場合があります。

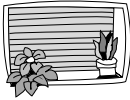
● AEは自動露出の意味です。（Auto-Exposure）

手動でピントを合わせる

まれに自動調整ではピントが合いにくい場合がありますので、そのときには手動でピントを合わせてください。

自動ではピントが合いにくい被写体

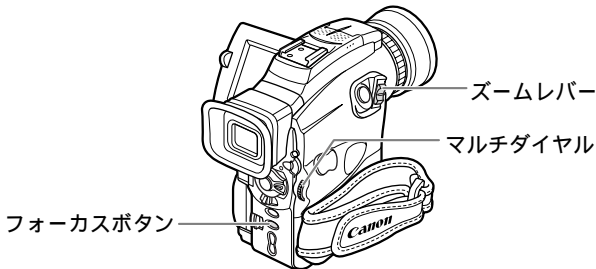
● 輝いたり、強い光が反射している

● 白い壁など、明暗の差がない

● 動きが速い

● 横じまがある

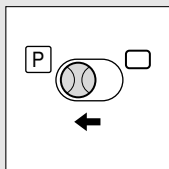
● 水滴や汚れの付いたガラス越し

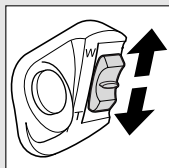
● 遠くと近くに同時にある

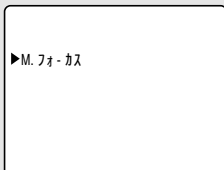
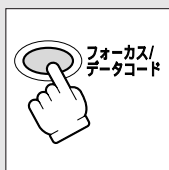
● 暗い

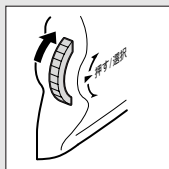
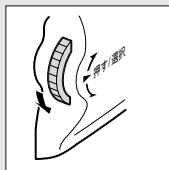
● 夜景

応用編

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 Ⓟにする

- 撮影モード切り換えスイッチをⓅにして、□（全自動）以外のモードにします。（📖 67）

2 被写体の大きさを決める

- ズームレバーを動かして被写体を撮りたい大きさにします。
- 手動でピントを合わせてから、ズームで大きさを変えると、ピントがずれることがあります。先にズームで大きさを決めてからピントを合わせます。

3 フォーカスボタンを押す

- 「▶M.フォーカス」（水色）の表示が出ます。

4 ピントを合わせる

- 遠くのものにピントを合わせるときは、マルチダイヤルを下に回します。
- 近くのものにピントを合わせるときは、マルチダイヤルを上に回します。
- ▶が「EXPロック」の前にあるときは、手動でピント合わせができません。もう一度、フォーカスボタンを押してください。

自動ピント合わせに戻すとき

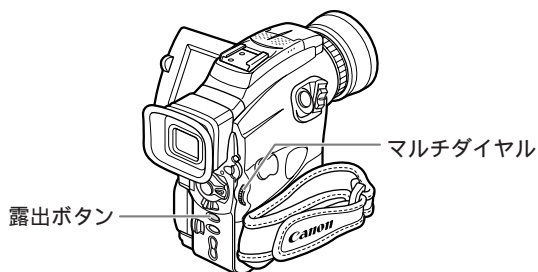
フォーカスボタンをもう１回押します。「▶M.フォーカス」表示が消えます。

補 足

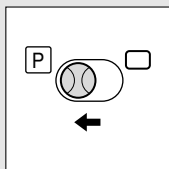
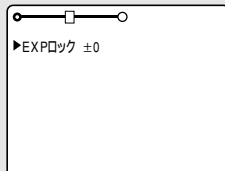
手動ピント合わせにしているとき

- 撮影モード切り換えスイッチを□（全自動）モードにすると、自動ピント合わせになります。ほかの撮影モードでは手動のままです。
- 電源を切ったときは、ピントを合わせ直してください。

手動で露出を調整する（露出ロック／露出補正）

被写体が太陽を背にしていたりする逆光の状態では、被写体が黒くつぶれてしまうことがあります。逆に、あまり強い光を被写体が受けると、白くとんでしまいます。このようなときには、露出の調整をします。
また、明るさを固定する（露出ロック）ことで、画面の明るさを変えずに晴れた屋外などを撮影することができます。

露出ロックを使う

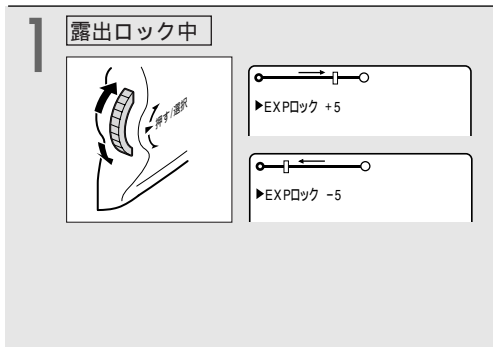
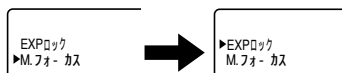
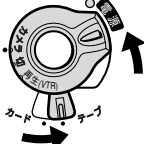
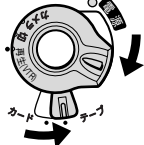
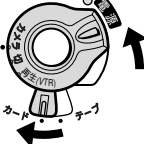
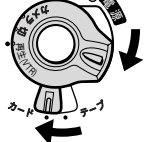
カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 Ⓟにする

- 撮影モード切り換えスイッチをⓅにして、□（全自動）以外のモードにします。（📖 67）

2 露出ボタンを押す

- 画面の明るさが固定されます。
- 「▶ＥＸＰロック」（水色）の表示が出ます。
- 露出ロック中にズームを操作すると、画面の明るさが変わることがあります。

露出を補正する

カメラモード　再生(VTR)モード　**カードカメラモード**　カード再生モード

1

- 明るめにするときは、マルチダイヤルを上に回します。
- 暗めにするときは、マルチダイヤルを下に回します。
- ▶が「M.フォーカス」の前にあるときは、手動で露出補正ができません。もう一度、露出ボタンを押してください。

自動調整に戻すとき

露出ボタンを押すか、撮影モードを変えます。「EXPロック」の表示が消えます。

応用編

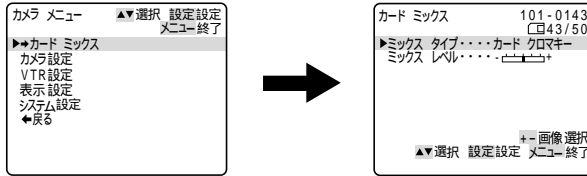
ご購入時の設定を変える（メニュー）

本機のさまざまな機能について、ご購入時の設定をメニューから変更することができます。
メニューは、４種類あります。
メニュー項目の一覧（📖 75〜85）、設定内容の変更のしかた（📖 86）は、各参照ページをご覧ください。

メインメニュー	メインメニューの画面表示	電源スイッチとテープ／カード切り換えスイッチの位置	📖
カメラメニュー	カメラ メニュー ▲▼選択 設定設定 メニュー終了 ▶➡カード ミックス カメラ設定 VTR設定 表示 設定 システム設定 ⬅戻る	カメラモード	75
VTRメニュー	VTR メニュー ▲▼選択 設定設定 メニュー終了 ▶VTR設定 カード設定 カード実行 表示 設定 システム設定 ⬅戻る	再生（VTR）モード	78
カード／カメラメニュー	カード/カメラメニュー ▲▼選択 設定設定 メニュー終了 カメラ設定 カード設定 表示 設定 システム設定 ⬅戻る	カードカメラモード	81
カード再生メニュー	カード再生 メニュー ▲▼選択 設定設定 メニュー終了 ▶カード実行 VTR設定 表示 設定 システム設定 ⬅戻る	カード再生モード	83

メニュー一覧について（📖 75〜85）

- メニュー一覧の設定内容について、ご購入時には、太文字の内容に設定されています。（例：**入**）
- 各メニューで「⬅戻る」を選ぶと、一つ前のメニュー画面に戻ります。

カメラメニュー① 「カードミックス」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
ミックスタイプ	**カードクロマキー**	カードミックスの種類を選ぶ。	153
	カードルミキー		
	カメラクロマキー		
ミックスレベル		ミックスレベルを調整する。	154

カメラメニュー② 「カメラ設定」サブメニュー

シャッター	**オート**	シャッタースピードを自動で調整する。	92
	オート以外	シャッタースピードを自分で設定する。	
デジタルズーム	切	デジタルズームを使わない。	47
	40×	40倍のデジタルズームを使用する。	
	200×	200倍のデジタルズームを使用する。	
手ぶれ補正	**入**	手ぶれを補正する。	89
	切	手ぶれ補正を解除する。	
16：9	入	ワイドテレビ用に撮影する。 ● 横長画面（画面の横、縦の比率が16:9）のワイドテレビ用に撮影したときは、テレビをワイドテレビモードに切り換えてください（詳しくはテレビの使用説明書もあわせてご覧ください）。通常（画面の横、縦の比率が4:3）のテレビで再生すると、縦に伸びた映像になります。S1映像入力端子やビデオID-1方式に対応しているテレビに接続すると、自動的にワイド画面に切り換わります。（📖 55、56） ● 16：9を「入」に設定していると、マルチ画面は使用できません。	
	切	通常の4：3のテレビ用に撮影する。	
ホワイトバランス	**オート**	色合いを自動で調整する。	94
	オート以外	色合いの調整を撮影する状況に合わせて設定する。	

応用編

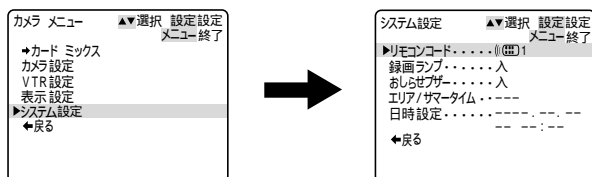
カメラメニュー③　「VTR設定」サブメニュー

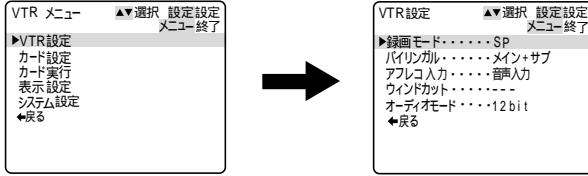
サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
録画モード	**SP**	SP(標準）モードで録画する。	91
	LP	LP(標準の1.5倍の録画時間）モードで録画する。	
	E SP	標準の2倍の録画時間で録画する。	
	E LP	標準の3倍の録画時間で録画する。	
ウィンドカット	入	内蔵マイクを使用時に風音などを低減する。	90
	切	風音などを低減しない。	
オーディオモード	16bit	1つのステレオ音声が高音質で記録できる。 ● 高音質で音声を録音するときに使います。 ● 2倍／3倍録画モードのときは設定できません。	
	12bit	2つのステレオ音声が記録できる。 ● アフレコなどをするときに使います。 ● 2倍／3倍録画モードのときは自動的に12bit（1つのステレオ音声のみ）になります。	

カメラメニュー④　「表示設定」サブメニュー

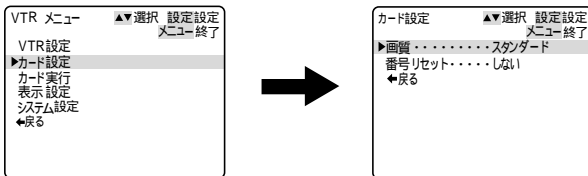
LCDあかるさ調整		液晶画面の明るさを調整する。マルチダイヤルを上に回して、明るさ表示の+にいくほど明るくなる。 ● 液晶画面上の画像が暗すぎたり、明るすぎたりしたときに調整します。 ● 画面の明るさの調整は、撮影する画像の明るさとは関係ありません。また、ビューファインダーの明るさは変わりません。	
対面撮影	**ミラー**	対面撮影するときに、液晶画面が鏡のように反転した画面になる。	57
	ノーマル	ビデオカメラが撮っているそのままの画面になる。	

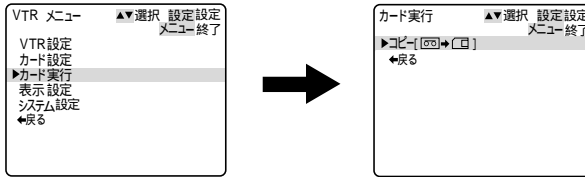
サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
オンスクリーン	**入**	液晶画面/ビューファインダーの情報を本機に接続したテレビ画面に表示する。 ● モニターテレビで情報を確認しながら撮影するときに使います。	
	切	液晶画面/ビューファインダーの情報を本機に接続したテレビ画面に表示しない。	
日時表示	入	撮影中にも日時を表示する。	45
	切	撮影中に日時を表示しない。	

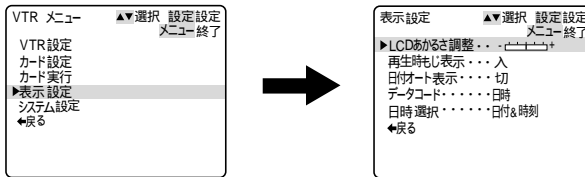
カメラメニュー⑤　「システム設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
リモコンコード	**1**	リモコンコードが「1」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	116
	2	コードが「2」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	
	切	リモコンの信号を受け付けない。	
録画ランプ	**入**	撮影中に録画ランプが点滅する。 ● 撮影者や被写体にカメラが撮影中であることを伝えるときに使います。	
	切	撮影中に録画ランプが点滅しない。 ● ガラス越しやクローズアップ撮影時など録画ランプがガラスや被写体に写ってしまうときに使います。	
おしらせブザー	**入**	電源を入れたり、録画を始めたり、結露などの警告を知らせるときなどにブザーが鳴る。	
	切	ブザーが鳴らない。 ● ブザー音を消すときに設定します。	
エリア/サマータイム		世界時計のエリアを設定する。	39
日時設定		日時を設定する。	43

VTRメニュー① 「VTR設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
録画モード	**SP**	SP(標準）モードで録画する。	91
	LP	LPモード（標準の1.5倍の録画時間）で録画する。	
	E SP	標準の2倍の録画時間で録画する。	
	E LP	標準の3倍の録画時間で録画する。	
バイリンガル	**メイン＋サブ**	ステレオ音声または主＋副音声を再生する。	129
	メイン	左音声または主音声を再生する。	
	サブ	右音声または副音声を再生する。	
アフレコ入力	**音声入力**	オーディオ機器を使ってアフレコする。	126
	マイク入力	内蔵/外部マイクを使ってアフレコする。	
ウィンドカット	入	内蔵マイクを使用時に風音などを低減する。	90
	切	風音などを低減しない。	
オーディオモード*	16bit	1つのステレオ音声が高音質で記録できる。	
	12bit	2つのステレオ音声が記録できる。 ● 2倍／3倍録画モードのときは自動的に12bit（1つのステレオ音声）になります。	

* アナログ入力やAVインサートを行う場合の設定です。DV入力を行う場合は、接続したビデオ機器の設定に合わせて自動的に切り換わります。

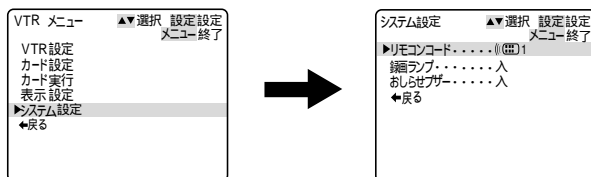
VTRメニュー② 「カード設定」サブメニュー

画質	ファイン	メモリーカードに高画質で記録する。	133
	スタンダード	メモリーカードに標準画質で記録する。	
番号リセット	する	ファイル番号をリセットする。	135
	しない	ファイル番号をリセットしない。	

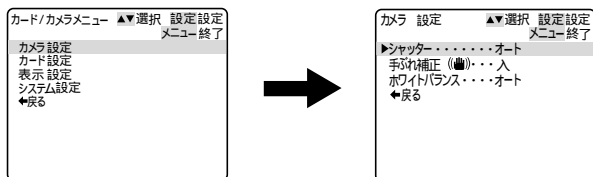
VTRメニュー③　「カード実行」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
コピー[📼→▢]	**キャンセル**	テープに記録した静止画をフォトサーチしてメモリーカードに記録する。	157
	実行		

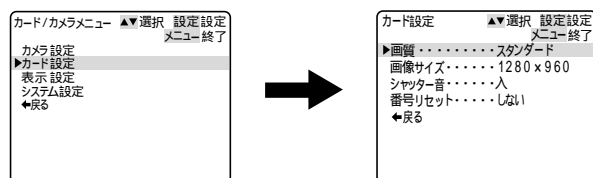
VTRメニュー④　「表示設定」サブメニュー

LCDあかるさ調整		液晶画面の明るさを調整する。マルチダイヤルを上に回して、明るさ表示の+にいくほど明るくなる。 ● 液晶画面上の画像が暗すぎたり、明るすぎたりしたときに使います。 ● 画面の明るさの調整は、再生または記録する画像の明るさとは関係ありません。また、ビューファインダーの明るさは変わりません。	
再生時もじ表示	**入**	再生時に画面に文字表示が出る。	
	切	再生時にデータコード以外の画面の文字を消す。 ●「切」にすると、再生中の文字表示を消すことができます。 ● 操作中は表示が出て、操作が終わると2秒後に消えます。 液晶画面のデータコード以外の文字を消すと、一部の警告文をのぞき、接続しているテレビの画面上の文字も消えます。	
日付オート表示	入	テープの再生を始めたとき、または再生中に日付/エリアが変わったときに約6秒間日付を表示する。 ●「入」のとき、「再生時もじ表示」が「切」になっていても、日付は約6秒間表示します。	
	切	(約6秒間の)日付表示をしない。	

応用編

サブメニュー項目	設定内容	意味	
データコード	**日時**	データコードボタンを押すと、日時のみ表示する。	113
	カメラデータ	カメラデータを表示する。	
	日時＆カメラデータ	日時とカメラデータを表示する。	
日時選択	日付	「データコード」で「日時」を選択したとき、日付を表示する。	113
	時刻	「データコード」で「日時」を選択したとき、時刻を表示する。	
	日付＆時刻	「データコード」で「日時」を選択したとき、日付と時刻を表示する。	

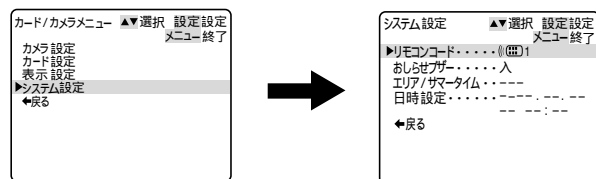
VTRメニュー⑤　「システム設定」サブメニュー

リモコンコード	**1**	リモコンコードが「1」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	116
	2	コードが「2」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	
	切	リモコンの信号を受け付けない。	
録画ランプ	**入**	本機のテープに記録中、録画ランプが点滅する。	
	切	本機のテープに記録中、録画ランプが点滅しない。	
おしらせブザー	**入**	電源を入れたり、録画を始めたり、結露などの警告を知らせるときなどにブザーが鳴る。	
	切	ブザーが鳴らない。 ● ブザー音を消すときに設定します。	

カードカメラメニュー① 「カメラ設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	
シャッター	**オート**	シャッタースピードを自動で調整する。	92
	オート以外	シャッタースピードを自分で設定する。	
手ぶれ補正	**入**	手ぶれ補正をする。	89
	切	手ぶれ補正を解除する。	
ホワイトバランス	**オート**	色合いを自動で調整する。	94
	オート以外	色合いの調整を撮影する状況に合わせて設定する。	

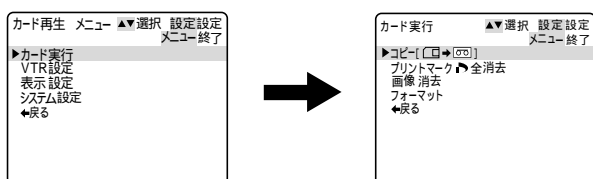
カードカメラメニュー② 「カード設定」サブメニュー

画質	ファイン	メモリーカードに高画質で記録する。	133
	スタンダード	メモリーカードに標準画質で記録する。	
画像サイズ	**1280×960**	メモリーカードに静止画を1280×960ピクセルの画像サイズで記録する。	134
	640×480	メモリーカードに静止画を640×480ピクセルの画像サイズで記録する。	
番号リセット	する	ファイル番号をリセットする。	135
	しない	ファイル番号をリセットしない。	
シャッター音	**入**	静止画を記録するときに確認のためにシャッターの音を出す。	
	切	静止画を記録するときに確認のためのシャッターの音を出さない。	

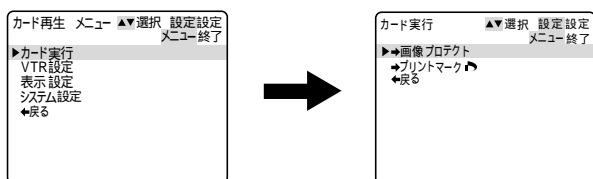
カードカメラメニュー③　「表示設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
LCDあかるさ調整		液晶画面の明るさを調整する。マルチダイヤルを上に回して、明るさ表示の+にいくほど明るくなる。 ● 液晶画面上の画像が暗すぎたり、明るすぎたりしたときに調整します。 ● 画面の明るさの調整は、撮影する画像の明るさとは関係ありません。また、ビューファインダーの明るさは変わりません。	
対面撮影	**ミラー**	対面撮影するときに、液晶画面が鏡のように反転した画面になる。	57
	ノーマル	ビデオカメラが撮っているそのままの画面になる。	
オンスクリーン	**入**	液晶画面/ビューファインダーの情報を本機に接続したテレビ画面に表示する。 ● モニターテレビで情報を確認しながら撮影するときに使います。	
	切	液晶画面/ビューファインダーの情報を本機に接続したテレビ画面に表示しない。	
日時表示	入	撮影中にも日時を表示する。	45
	切	撮影中に日時を表示しない。	

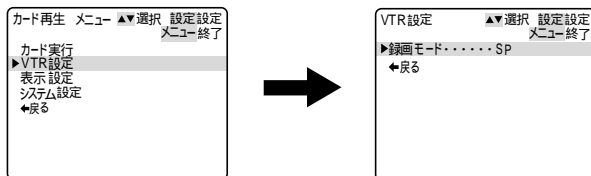
カードカメラメニュー④　「システム設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
リモコンコード	**1**	リモコンコードが「1」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	116
	2	コードが「2」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	
	切	リモコンの信号を受け付けない。	

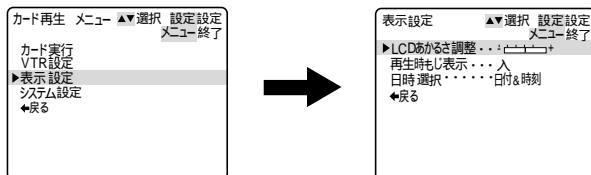
サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
おしらせブザー	**入**	電源を入れたり、録画を始めたり、結露などの警告を知らせるときなどにブザーが鳴る。	
	切	ブザーが鳴らない。 ● ブザー音を消すときに設定します。	
エリア/サマータイム		世界時計のエリアを設定する。	39
日時設定		日時を設定する。	43

カード再生メニュー ①-1「カード実行」サブメニュー(静止画を1枚表示しているとき)

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
コピー[→]	**キャンセル**	画像のコピーを行わない。	159
	実行	メモリーカードの静止画をテープに順次コピーする。	
プリントマーク 全消去	**キャンセル**	プリントマークの消去を行わない。	150
	実行	プリントマークをすべて消去する。	
画像消去	**キャンセル**	画像の消去を行わない。	151
	1枚消去	1枚の画像を消去する。	
	全消去	メモリーカードにあるすべての画像を消去する(プロテクト設定したものを除く)。	
フォーマット	**キャンセル**	メモリーカードのフォーマット(初期化)を行わない。	160
	実行	メモリーカードをフォーマット(初期化)する。	

カード再生メニュー ①-2「カード実行」サブメニュー(インデックス画面を表示しているとき)

サブメニュー項目	意味	📖
➡画像プロテクト	画像プロテクト設定画面へ	148
➡プリントマーク	プリントマーク設定画面へ	149

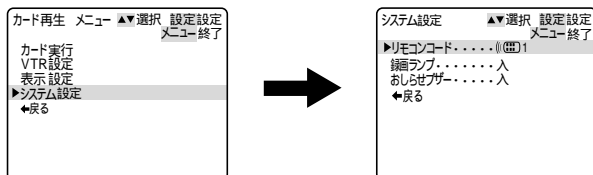
応用編

カード再生メニュー② 「VTR設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
録画モード	**SP**	SP(標準）モードで録画する。	91
	LP	LP(標準の1.5倍の録画時間）モードで録画する。	

カード再生メニュー③ 「表示設定」サブメニュー

カード再生 メニュー ▲▼選択 設定設定
メニュー終了
カード実行
VTR設定
▶表示 設定
システム設定
←戻る

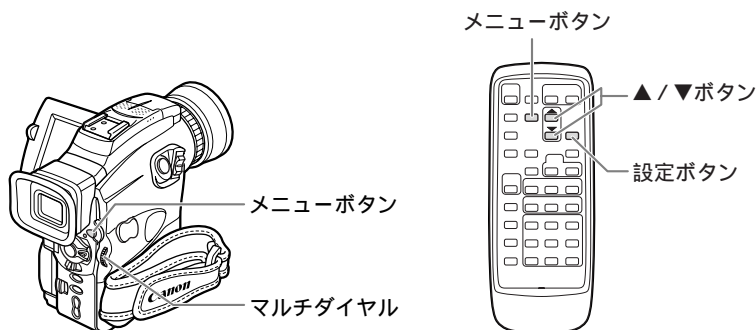
表示設定 ▲▼選択 設定設定
メニュー終了
▶LCDあかるさ調整・・－▭▭▭＋
再生時もじ表示・・・入
日時選択・・・・・・日付&時刻
←戻る

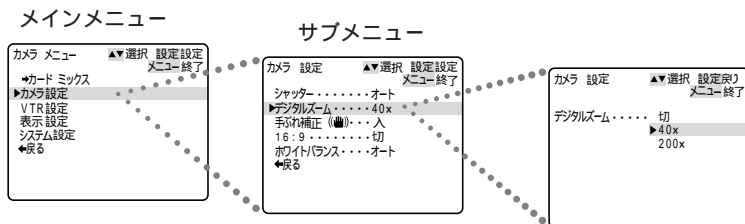
サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
LCDあかるさ調整		液晶画面の明るさを調整する。マルチダイヤルを上に回して、明るさ表示の+にいくほど明るくなる。 ● 液晶画面上の画像が暗すぎたり、明るすぎたりしたときに調整します。 ● 画面の明るさの調整は、再生する画像の明るさとは関係ありません。また、ビューファインダーの明るさは変わりません。	
再生時もじ表示	**入**	再生時に画面に文字表示が出る。	
	切	再生時にデータコード以外の画面の文字を消す。 ●「切」にすると、再生中の文字表示を消すことができます。 ● 操作中は表示が出て、再生が終わると2秒後に消えます。ただし、インデックス画面のときは、表示は消えません。 液晶画面のデータコード以外の文字を消すと、一部の警告文をのぞき、接続しているテレビの画面上の文字も消えます。	
日時選択	日付	日付を表示する。	113
	時刻	時刻を表示する。	
	日付＆時刻	日付と時刻を表示する。	

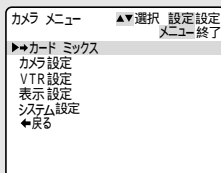
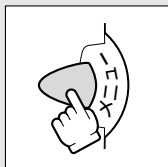
カード再生メニュー④　「システム設定」サブメニュー

サブメニュー項目	設定内容	意味	📖
リモコンコード	**1**	リモコンコードが「1」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	116
	2	コードが「2」に設定されたリモコンの操作を受け付ける。	
	切	リモコンの信号を受け付けない。	
録画ランプ	**入**	本機のテープに記録中、録画ランプが点滅する。	
	切	本機のテープに記録中､録画ランプが点滅しない。	
おしらせブザー	**入**	電源を入れたり、録画を始めたり、結露などの警告を知らせるときなどにブザーが鳴る。	
	切	ブザーが鳴らない。 ● ブザー音を消すときに設定します。	

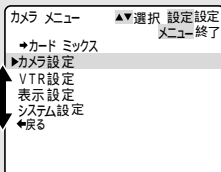
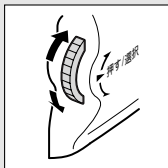
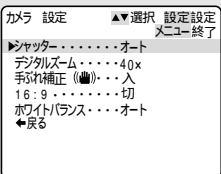
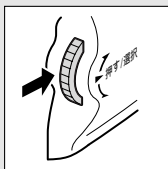
応用編

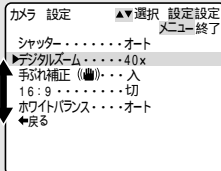
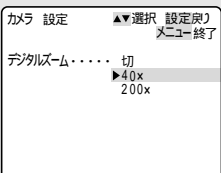
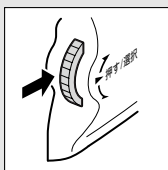
メニューの使いかた

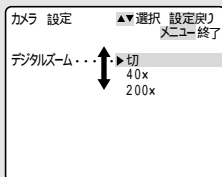
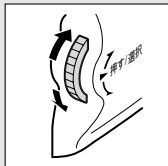
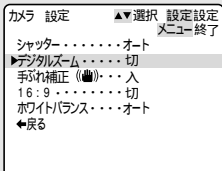
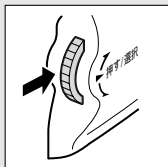
本体のマルチダイヤルとリモコンの▲、▼、設定ボタンは、同じ操作になります。

本体のマルチダイヤル		リモコン		
	上に回す		押す	メニュー項目や機能の設定内容を選びます。
	下に回す		押す	
	押す	設定	押す	選んだ項目や設定内容を決定したり、次の画面に移ったりします。

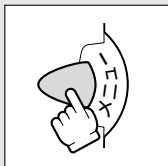
● メニューで設定を変えるときは、順番に項目を選んでいきます。
例：カメラメニュー

● テープやカードの状態、他の機能の設定などにより設定できない項目は、紫色で「ーーーー」と表示されます。
● ここでは、カメラモードのときに、本体で操作する場合で説明しています。
例：「デジタルズーム」を「切」に設定する

1 メインメニューを出す

● メニューボタンを押します。

2 項目を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を設定する項目に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、選んだ項目のサブメニューが出ます。

3 機能を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を設定する機能に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、選んだ機能だけの表示になります。

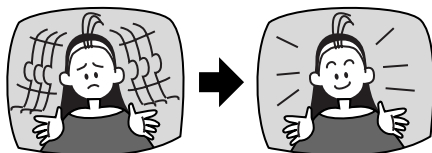
4 設定内容を選び、決定する

① マルチダイヤルを回して、▶を決定する設定内容に合わせます。

② マルチダイヤルを押すと、サブメニューに戻ります。

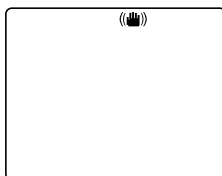
5 メニューを消す

- メニューボタンを押します。
- シャッタースピードとホワイトバランス以外の機能は、4-②の操作の代りに、メニューボタンを押しても設定できます。

補足

- メニュー中の「⬅戻る」を選択すると、ひとつ前のメニューに戻ります。メインメニューのときはメニューを終了します。
- メニューボタンを押すと、メニューはいつでも終了します。

手ぶれ補正を解除する（手ぶれ補正機能）

手ぶれ補正機能が動作していると、ズームの望遠側で撮るときなど手ぶれの少ない安定した画面で撮影できます。

通常の撮影では、手ぶれ補正は解除する必要はありませんが、必要に応じて解除することもできます。ビデオカメラを左右に動かして撮影するときなどには、その動きを補正しようとします。手ぶれ補正を解除するとその補正が効かなくなります。また、撮影モードが□（全自動）のときは、手ぶれ補正は解除できません。

カメラモード 再生(VTR)モード **カードカメラモード** カード再生モード

ご購入時には、「手ぶれ補正」は「入」に設定されています。
「カメラ設定」サブメニューから「手ぶれ補正」を選び、「切」にします。（□ 86）

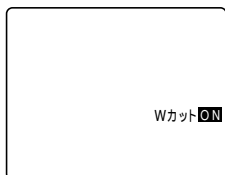
- ((✋))が消えます。

補足

- 一度「切」にした手ぶれ補正機能を「入」にするには、メニューで設定し直すか、撮影モード切り換えスイッチを□（全自動）にしてください。
- 三脚などを使用して撮影をするときは手ぶれ補正を切ることをおすすめします。
- 手ぶれ補正が「入」の場合でも、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。

風音低減機能（ウィンドカット）

常に風の影響を受ける屋外で撮影する際、風の「ボコボコ」という音の影響を低減することができます。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

ご購入時には、「ウィンドカット」は「切」に設定されています。
「VTR設定」サブメニューから「ウィンドカット」を選び、「入」にします。（📖 86）

- 「WカットON」の表示が出ます。

補足

- ウィンドカット機能が作動すると、収録する低い音の一部も風の音と一緒に低減されます。通常は、「切」で撮影することをおすすめします。
- 撮影中は、モードの変更はできません。変更するときは、スタート／ストップボタンを押して撮影一時停止にして行います。
- 撮影時だけでなく、再生（VTR）モードでアフレコをするときにも、ウィンドカット機能は入／切できます。（「VTR設定」サブメニューで「アフレコ入力」を「マイク入力」に設定しているとき）
- マイク端子に外部マイクを接続したり、アドバンストアクセサリーシューに指向性ステレオマイクロホンDM-50（別売）を取り付けたときは、ウィンドカット機能は使用できません。

録画モードを選ぶ

本機には、4種類の録画モードがあります。SP（標準）モードと、SPモードの1.5倍／2倍／3倍の長時間録画が選択できます。

録画時間について

標準	長時間録画		
SP	LP	E SP	E LP
80分	1.5倍（120分）	2倍（160分）	3倍（240分）

（　）は、80分テープを使用したときに録画できる時間です。

● 2倍（ESP）／3倍（ELP）録画モードでは、テープに記録する画像情報をSP／LPモードの1/2に圧縮しています。

注 意

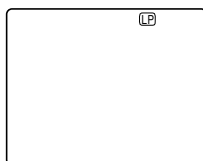
長時間録画について

● 長時間録画での録画／再生は、テープの特性や使用環境に影響されやすく、再生時、画面にモザイク状のノイズが発生したり、音声が途切れたりする場合があります。
大切な撮影にはSPモードをお使いください。
● パソコンに画像を取り込むときは、SPモードで録画することをおすすめします。
● SPモード以外で記録したテープは、アフレコとAVインサートができません。
● テープの途中で録画モードを切り換えて録画すると、切り換え部分で再生画像が乱れます。また、タイムコードが正しく更新されないことがあります。
● 本機でLPモード／3倍録画モードで録画したテープをほかのデジタルビデオ機器で再生したり、ほかのデジタルビデオ機器でLPモードで録画したテープを本機で再生すると、画像が乱れたり、音声が途切れたりすることがあります。

2倍（ESP）／3倍（ELP）録画モードについて

● 2倍／3倍録画モードで撮影した画像は、SP、LPモードより画質が低下し、画面が粗くなります。
● 2倍／3倍録画モードで撮影したテープは、同様の長時間録画機能を搭載しているデジタルビデオ機器以外では、再生できません。
● 本機が2倍／3倍録画モードに設定されているときにDV端子を使ってダビングすると、正しく動作しない場合があります。
● デジタルビデオ機器と接続しているときに、本機の録画モードを2倍／3倍録画モードに変更すると、録画モードが正しく表示されないことがあります。
● カメラモードのとき録画モードを2倍／3倍録画モードに切り換えると、2倍／3倍録画モードでの記録に適した設定に画像が変わります。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

LP

ご購入時には、「録画モード」は「SP」に設定されています。
「VTR設定」サブメニューから「録画モード」を選び、録画モードの種類を選びます。（□ 86）
● 画面に選んだ録画モードの表示が出ます。
● カード再生モードで使用できる長時間録画モードは、LPモードのみです。

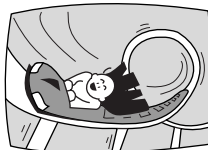
速い動きを撮る（シャッタースピード）

プログラムAEのオートモード時に、シャッタースピードを手動で設定し、スポーツや乗り物などの動きの速い被写体をぶれの少ない画面で撮影することができます。
8段階のシャッタースピード（1/60秒、1/100秒、1/250秒、1/500秒、1/1000秒、1/2000秒、1/4000秒、1/8000秒）*がありますので、下記の目安を参考にして選んでください。
* カードカメラモードのとき、シャッタースピードは1/500秒までしか使用できません。カメラモードで1/1000秒以上の高速シャッターに設定していても、カードカメラモードに切り換えたときに、自動的に1/500秒になります。

高速シャッターで撮影するときの目安

※1/1000秒以上の高速シャッターでは、画面内に太陽を入れないでください。

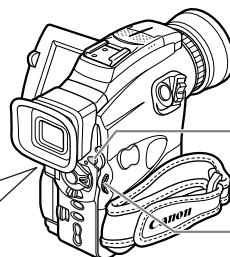
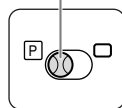
- 晴天下で、テニスやゴルフなどスポーツをしている人を撮影するとき
- 自動車や列車などから外を撮影するとき
- ジェットコースターなど動きの速い乗り物を撮影するとき
- 屋内でスポーツをしている人を撮影するとき

1/2000秒または1/4000秒（さらに、瞬間を鮮明に撮影するときは1/8000秒）

1/1000秒、1/500秒または1/250秒

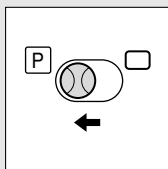
1/100秒

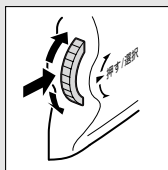
- 高速シャッターのときは、画像がパラパラとちらついて、なめらかに見えないことがあります。

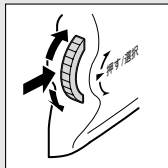
蛍光灯の下での撮影について

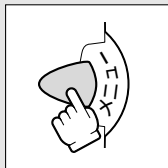
カメラモードの□（全自動）モードとプログラムAEのオートモードでは、蛍光灯のちらつきを自動的に検出し、自動的にシャッタースピードが切り換わりますので、通常ちらつきはでませんが、液晶画面／ビューファインダーの明るさがちらつくときは、オートモードを選び1/100秒の高速シャッターを選んでください。

● ここでは「カメラモード」で説明しています。
● ご購入時の設定は、「オート」です。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 撮影一時停止中 撮影モードを「オート」にする

● 撮影モード切り換えスイッチをⓅにし、オートモードを選びます。（📖 67）

2 「カメラ設定」サブメニューから「シャッター」を選ぶ（📖 86）

● メニューボタンを押すと、「カメラメニュー」が出ます。
● マルチダイヤルで「カメラ設定」を選び、次に「シャッター」を選びます。

3 シャッタースピードを選ぶ

● マルチダイヤルを回して▶を設定するシャッタースピードに合わせ、マルチダイヤルを押します。
● 「カメラ設定」サブメニューに戻ります。

4 メニューを消す

● メニューボタンを押します。
● 選んだシャッタースピードの表示が出ます。

補足

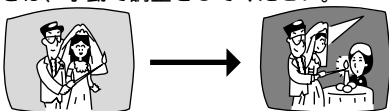
● プログラムAEモードを切り換えたり、撮影モード切り換えスイッチを▭（全自動）にすると、シャッタースピードは「オート」に戻ります。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

白い紙は、いつも白く見えているようですが、蛍光灯、太陽光など光が変わると色は微妙に変わっています。人の目は順応性がありますので、その微妙な色の違いを同じ色として見ています。ビデオカメラではこのような順応性がないため、そのままでは光によって、画面が青くなったり、赤くなってしまいます。そこで、白い紙が白く映るように調整するのが、ホワイトバランスの調整です。

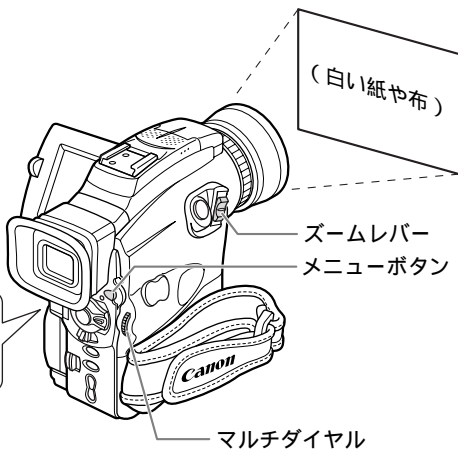
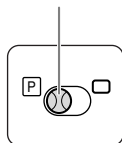
本機では、自動的に自然な色合いに調整するオートホワイトバランスのほかに、手動で調整するホワイトバランスセット、さらに屋内（☼）と屋外（☀）を選択することができます。

自動では色合いの調整がしにくい場合

次のような場合は自動では色合いを調整できないことがあります。液晶画面／ビューファインダーで色が不自然に見えるときは、手動で調整をしてください。

● 照明条件が急に変わるとき

● クローズアップ撮影をするとき

● 単一の被写体（空、海、森など）を撮影するとき

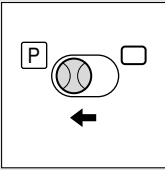
● 水銀灯と一部の蛍光灯で撮影するとき

補足

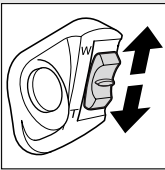
● エフェクトのネガ、シロクロ、セピアのいずれかを実行しているとき、ホワイトバランスは設定できません。

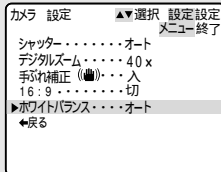
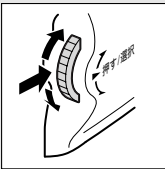
ホワイトバランスセットの設定のしかた

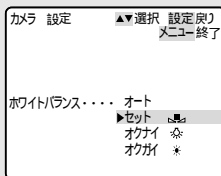
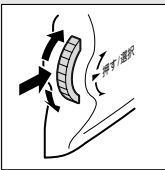
- ここでは「カメラモード」で説明しています。
- ご購入時の設定は「オート」です。

カメラモード 再生(VTR)モード **カードカメラモード** カード再生モード

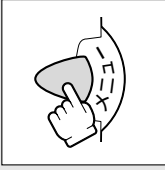
1 撮影一時停止中 Ⓟにする

- 撮影モード切り換えスイッチをⓅにして、撮影モードを選びます。（📖 67）

2 白い紙を画面いっぱいに写す

- ズームなどを使って白い紙や布を液晶画面／ビューファインダーいっぱいに写します。
- ボタンをT側へ押します。
- 操作5が終るまで、白い紙を写し続けてください。

3 「カメラ設定」サブメニューから「ホワイトバランス」を選ぶ（📖 86）

- メニューボタンを押すと、「カメラメニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カメラ設定」を選び、次に「ホワイトバランス」を選びます。

4 「セット ▪」を選ぶ

- マルチダイヤルを回して▶を「セット ▪」に合わせ、マルチダイヤルを押します。
- 「カメラ設定」サブメニューに戻ります。
- 「セット ▪」が点滅し、色合いの調整が完了すると点灯に変わります。

応用編

5 メニューを消す

- メニューボタンを押します。
- の表示が出ます。

補 足

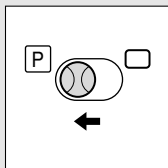
- ごくまれに、光源によっては点灯に変わらない（ゆっくりとした点滅）ことがありますが、この場合でも自動調整よりも適切なホワイトバランスになりますので、そのまま撮影できます。
- 撮影モード切り換えスイッチを□（全自動）にした場合、ホワイトバランスは「オート」に戻ります。
- 一度設定したホワイトバランスは、電源を切っても憶えています。

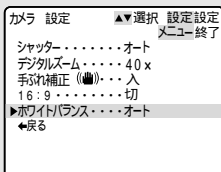
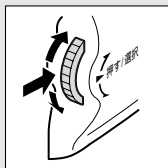
手動で色合いの調整をするときは

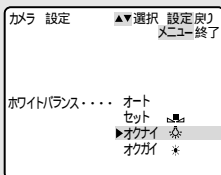
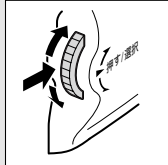
- 照明の十分な場所で行ってください。また、光源が変わったときは、セットし直してください。
- 「カメラ設定」サブメニューで「デジタルズーム」を「切」にしてください。

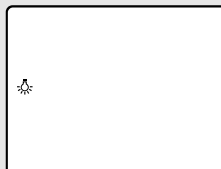
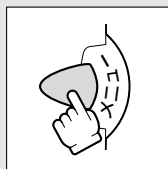
屋内、屋外用の設定のしかた

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 撮影一時停止中 Ⓟにする

- 撮影モード切り換えスイッチをⓅにして、撮影モードを選びます。（📖 67）

2 「カメラ設定」サブメニューから「ホワイトバランス」を選ぶ（📖 86）

- メニューボタンを押すと、「カメラメニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カメラ設定」を選び、次に「ホワイトバランス」を選びます。

3 設定を選ぶ

- 撮影する場所に合わせて、「オクナイ」または「オクガイ」を選びます。
- マルチダイヤルを回して▶を選んだ設定に合わせ、マルチダイヤルを押します。
- 「カメラ設定」サブメニューに戻ります。

4 メニューを消す

- メニューボタンを押します。
- 選んだ設定の表示が出ます。

応用編

「オクナイ」「オクガイ」はこんなときに使います

「オクナイ」

- パーティ会場など照明条件が変化する場所で撮るとき
- スタジオなどビデオライトの照明で撮るとき
- ナトリウムランプの照明で撮るとき

「オクガイ」

- 夜景や花火などを撮るとき
- 朝日や夕焼けなどを撮るとき

＊ 通常の屋外では「オート」を使った方がきれいに撮影できます。

場面の切り換えと特殊効果（デジタルエフェクト）

デジタルエフェクトには、3種類の機能があります。

- フェーダー　：テレビや映画のように画面と画面の切り換えができます。（📖 100）
  オートフェード、ワイプ▮▮、ストライプ▮▮、ストライプ〓、チェッカー、ウィンドウ
- エフェクト　：色を変えたり特殊効果を加えることができます。（📖 103）
  ネガ、アート、シロクロ、セピア、モザイク
- マルチ画面　：画面を4/9/16分割して、静止画を表示します。映像を取り込むスピードを選択できます（はやい、ふつう、おそい）。（📖 105）

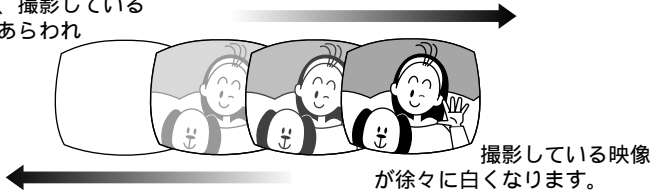
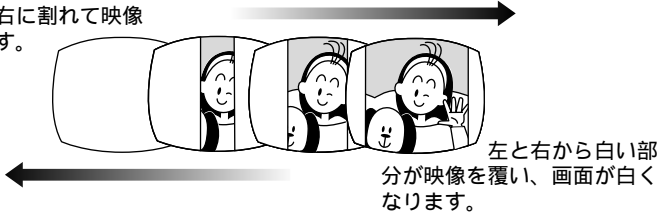
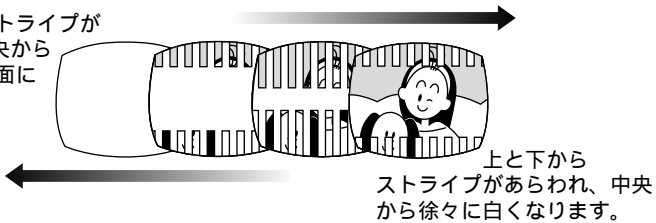
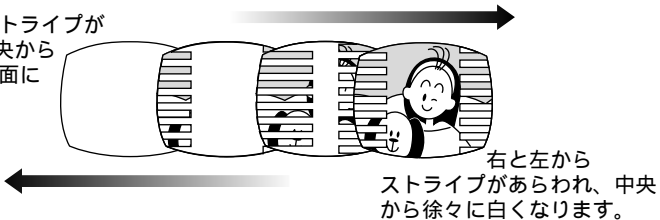
● デジタルエフェクトは、カメラモード時のみ使用できます。

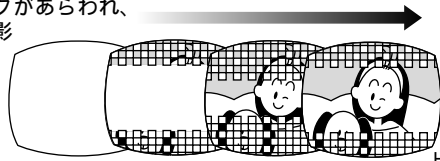
<table>
<tr><th rowspan="2">撮影モード</th><th colspan="2">□（全自動）</th><th colspan="2">□（全自動）以外</th></tr>
<tr><th>動画</th><th>静止画（フォト）</th><th>動画</th><th>静止画（フォト）</th></tr>
<tr><td>フェーダー</td><td colspan="2" rowspan="3">×</td><td rowspan="3">○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>エフェクト</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>マルチ画面</td></tr>
</table>

○＝使用できます
×＝使用できません

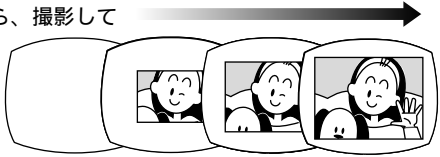
補 足

- デジタルエフェクトを使用しないときは、「OFF」に設定します。
  ① デジタルエフェクトボタンを押して、デジタルエフェクトメニューを出す。
  ② 「D.エフェクト OFF」を選んで、デジタルエフェクト入／切ボタンを押す。
- 一度設定したデジタルエフェクトは、電源スイッチを切っても憶えています。
- デジタルエフェクトの設定は、リモコンでもできます。
  リモコンの▲はマルチダイヤルを上に回す、▼は下に回す、設定ボタンはマルチダイヤルを押すことと同じ機能です。（📖 86）

フェーダー
オートフェード
白い画面から、撮影している映像が徐々にあらわれます。
撮影している映像が徐々に白くなります。
ワイプ Ⅱ
白い画面が左右に割れて映像があらわれます。
左と右から白い部分が映像を覆い、画面が白くなります。
ストライプ Ⅱ
上と下からストライプがあらわれ、中央から徐々に撮影画面になります。
上と下からストライプがあらわれ、中央から徐々に白くなります。
ストライプ ニ
右と左からストライプがあらわれ、中央から徐々に撮影画面になります。
右と左からストライプがあらわれ、中央から徐々に白くなります。

チェッカー

上と下からチェックがあらわれ、中央から徐々に撮影画面になります。

上と下からチェックがあらわれ、中央から徐々に白くなります。

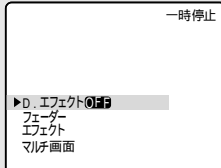
ウィンドウ

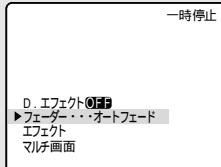
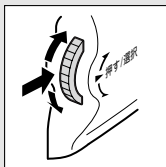
白い画面の中央から、撮影している映像が徐々にあらわれます。

白い枠が画面の中央に向かって徐々に大きくなり、白くなります。

フェーダーの操作のしかた

フェードイン（白い画面から徐々に映像と音声を出す）：撮影一時停止中に設定する
フェードアウト（映像と音声を徐々に消す）：撮影中に設定する

● フェーダーを使用するときは、撮影モード切り換えスイッチをⓅにしてください。

1 デジタルエフェクトメニューを出す

● デジタルエフェクトボタンを押します。

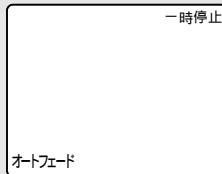
2 「フェーダー」を選ぶ

● マルチダイヤルを押すと、フェーダーだけの表示になります。

応用編

3 種類を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を設定するフェーダーに合わせます。

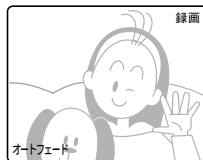
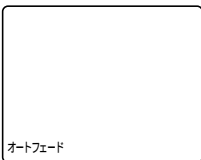
② デジタルエフェクトボタンを押すと、メニューが消え、選んだ機能表示が点滅します。

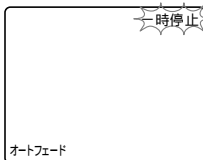
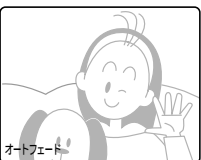
4 フェーダーを入／切する

① 入／切ボタンを押すと、表示が点灯に変わります。

- 入/切ボタンをもう一度押すと、フェーダーは解除されます。

② 撮影一時停止中（フェードイン）
スタート／ストップボタンを押します。

撮影中（フェードアウト）
スタート／ストップボタンを押します。

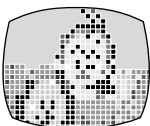
フェードイン

撮影が始まり、映像と音声が徐々にあらわれます。

フェードアウト

映像と音声が徐々に消えて、撮影一時停止になります。

エフェクト

ネガ
画面がネガフィルムのようになります。

モザイク
画面全体がモザイクでおおわれたようになります。

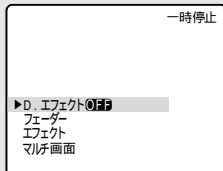
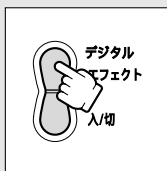
アート
映像に絵画調の着色効果を加えます。

セピア
画面がセピアの色調になります。

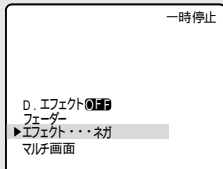
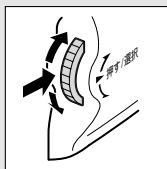
シロクロ
画面が白黒になります。

エフェクトの操作のしかた

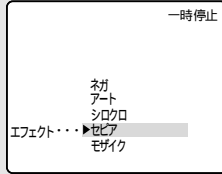
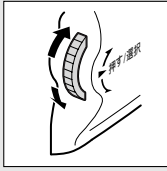
- 音声はそのまま記録されます。
- エフェクトを使用するときは、撮影モード切り換えスイッチをⓅにしてください。

1 デジタルエフェクトメニューを出す

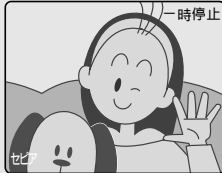
一時停止
▶D.エフェクトOFF
フェーダー
エフェクト
マルチ画面

- デジタルエフェクトボタンを押します。

2「エフェクト」を選ぶ

- マルチダイヤルを押すと、エフェクトだけの表示になります。

応用編

3 種類を選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を設定するエフェクトに合わせます。

② デジタルエフェクトボタンを押すと、メニューが消え、選んだ機能表示が点滅します。

4 エフェクトを入／切する

① 入／切ボタンを押すと、表示が点灯に変わり、画面がその効果になります。

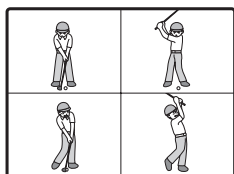
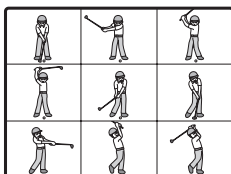
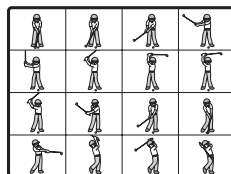
- 入/切ボタンをもう一度押すと、画面のエフェクト効果は解除されます。

補足

- モザイクを設定しているとき、デジタルズームは使用できません。

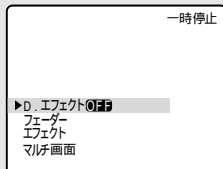
マルチ画面を使う

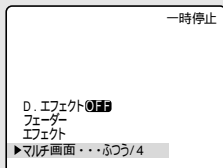
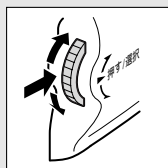
マルチ画面は、遊園地やスポーツシーンなどで動いている被写体を一度に最大16画面連続して表示できます。テニスやゴルフのスイングなどをチェックするときに便利です。音声はそのまま記録されます。

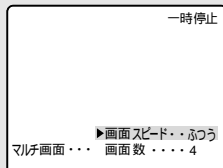
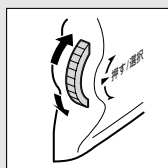
分割する画面数（4／9／16）や映像を取り込むスピード（はやい／ふつう／おそい）を選べます。
はやい： 4フレームごと　　ふつう： 6フレームごと　　おそい： 8フレームごと

4分割

9分割

16分割

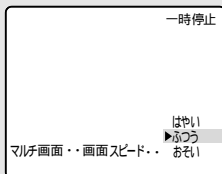
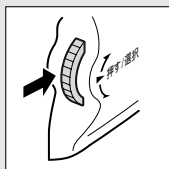
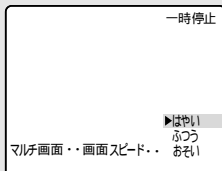
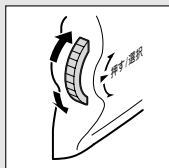
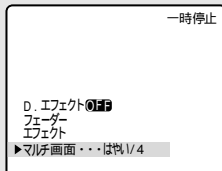
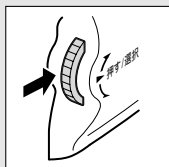
● マルチ画面を使用するときは、撮影モード切り換えスイッチをⓅにしてください。

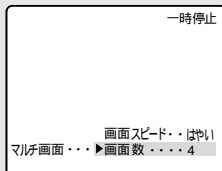
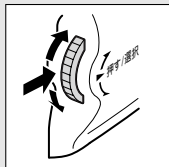
カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

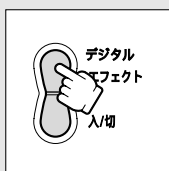
1 デジタルエフェクトメニューを出す

- デジタルエフェクトボタンを押します。

2 「マルチ画面」を選ぶ

- マルチダイヤルを押すと、マルチ画面の項目が出ます。

3 取り込みスピードを選ぶ

① マルチダイヤルを回して、▶を「画面スピード」に合わせます。

応用編

② マルチダイヤルを押すと、画面スピードだけの表示になります。

③ マルチダイヤルを回して、▶を設定するスピードに合わせます。

④ マルチダイヤルを押すと、デジタルエフェクトメニューに戻ります。

4 画面数を選ぶ

① 2、3の操作をくり返します。

- 3ー①で「画面数」を選びます。
- 3ー③で4、9、16のいずれかを選びます。

② デジタルエフェクトボタンを押すと、メニューが消え、「マルチ画面」が点滅します。

5 マルチ画面を入／切する

① 入／切ボタンを押すと、表示が点灯に変わります。

- 選んだスピードで選んだ画面数の画像を取り込みます。
- 入/切ボタンを押すと、マルチ画面は解除されます。

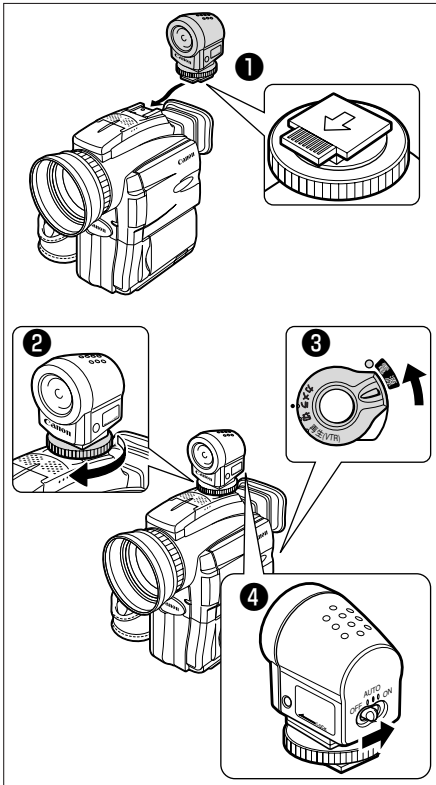
補足

- 録画中でも、操作できます。
- マルチ画面を設定しているとき、デジタルズームは使用できません。

別売のビデオライトVL-3を使う

暗い室内で撮影するときは、別売のビデオライトVL-3を本機のアドバンストアクセサリーシューに取り付けて使用すると、きれいに撮れます。ビデオライトの使用説明書もあわせてご覧ください。

ビデオライトの取り付けかた

● ビデオライトを取り付け／取りはずすときは、ビデオカメラの電源を切ってください。

❶ ビデオライトをアクセサリーシューにカチッと音がするまで差し込む

❷ 締め付けねじで固定する
- 締め付けねじを回しているときに、ビデオライトが抜けないようにご注意ください。

❸ 本機の電源スイッチを「カメラ」にする

❹ ビデオライトの電源スイッチを「OFF」以外にする
- 「C（CONNECTION＝接続）」の表示が出ます。
- ON：　ビデオライトが点灯する。
- AUTO：暗くなると自動的に点灯し、明るくなると自動的に消灯する。（露出ロック中を除く）

応用編

注意

- ビデオライトの点灯中や消灯直後は、ランプの周辺は高温になっていますので、燃えやすいものを置いたり、手でさわったりしないでください。
- ビデオライトの点灯中、ランプを直接見ないでください。
- ビデオライトを取り付けたときは、ライトを持って本機を持ち運ばないでください。

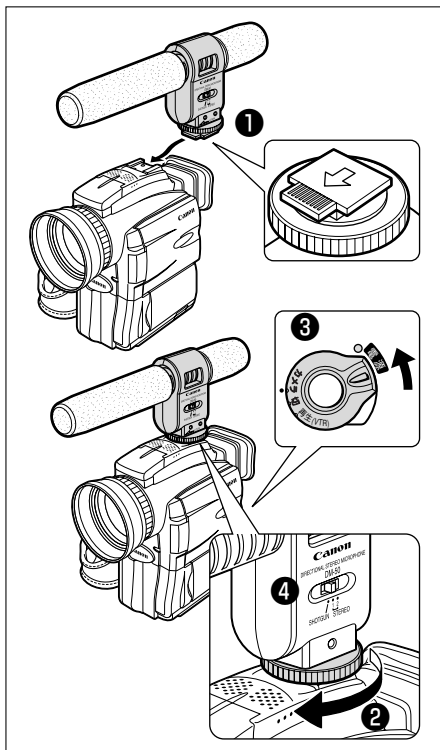
補足

- 内蔵ストロボが上がっていると、ビデオライトの光がストロボに遮られます。

別売のマイクDM-50を使う

本機のアドバンストアクセサリーシューに、別売の指向性 ステレオ マイクロホンDM-50を取り付けると、撮影時だけでなく、アフレコをする（📖 126）ときも効果的な録音ができます。
詳しくは、指向性 ステレオ マイクロホンの使用説明書もあわせてご覧ください。

マイクの取り付けかた

● マイクを取り付け／取りはずすときは、ビデオカメラの電源を切ってください。

❶ マイクをアクセサリーシューにカチッと音がするまで差し込む

❷ 締め付けねじで固定する
- 締め付けねじを回しているときに、マイクが抜けないようにご注意ください。

❸ 本機の電源スイッチを「カメラ」にする
- 「 C（CONNECTION＝接続）」の表示が出ます。

❹ マイクの切り換えスイッチを切り換える
- SHOTGUN（ショットガン）：
  正面の音を明瞭に記録する（モノラル記録）
- ステレオ１：
  正面の音と周囲の音を適度に記録する
- ステレオ２：
  ステレオ１より広く周囲の音を記録する

注意

● マイクを取り付けたときは、マイクを持って本機を持ち運ばないでください。

補足

市販のマイクを使うときには

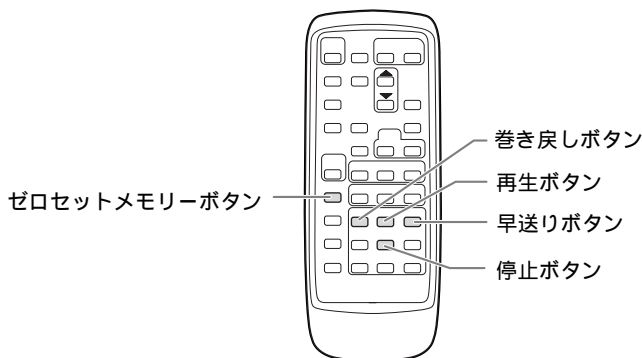
● 電源内蔵タイプのマイク（コンデンサーマイク）をご使用ください。
端子がφ3.5mmのステレオマイクであれば、ほとんどのマイクを接続することが可能ですが、マイクにより音量レベルは内蔵マイクと異なります。

● 長いマイクを使うとマイクが画面に映ることがあります。

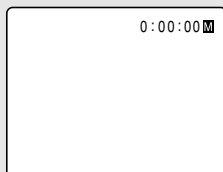
● 本機のマイク端子に他のマイクが接続されているときは、DM-50から録音ができません。

見たい場面にすばやく戻る（ゼロセットメモリー）

あとでもう1度見たいと思う場面があったときに、ゼロセットメモリーを設定しておくと、早送りまたは巻き戻しをしたときに、設定した場面で自動的に停止します。

● ゼロセットメモリーは、カメラモードでも設定できます。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

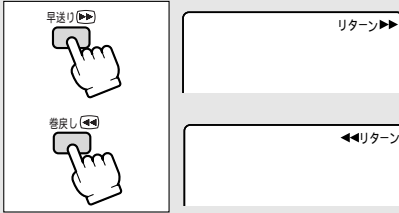
1 テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

2 再生中 ゼロセットメモリーの設定をする

- あとで見たい場面が出てきたら、ゼロセットメモリーボタンを押します。
- カウンター表示が「0：00：00」になり、Mの表示が出ます。
- ゼロセットメモリーボタンをもう1回押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。

3 再生が終わったら、停止する

- 停止ボタンを押します。

応用編

4 早送りする、または巻き戻す

- カウンター表示に「ー」がついているときは早送りボタンを、「ー」がついていないときは巻戻しボタンを押します。
- カウンター表示が「0：00：00」付近で自動的に停止します。カウンター表示がタイムコードに戻り、Mが消えます。

5 再生する

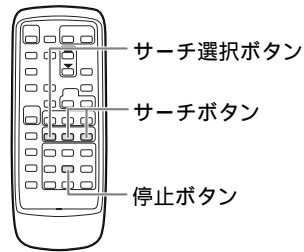
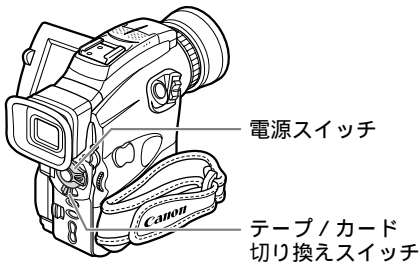
- 再生ボタンを押します。

補足

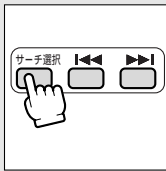
ゼロセットメモリー機能は

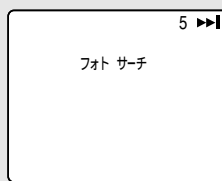
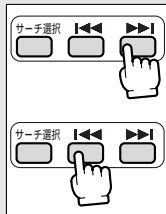
- カウンター表示は、タイムコード（撮影時間表示）とテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- タイムコードが連続して記録されていないと、ゼロセットメモリー機能が正しく働かないことがあります。
- カセットを取り出すと、ゼロセットメモリーが解除され、カウンター表示がタイムコードに戻ります。

テープに記録した静止画を探す（フォトサーチ）

テープに記録した静止画を探すことができます。また撮影の最初に静止画を入れておくと、録画を始めた部分を簡単に探し出せます。

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

2「フォトサーチ」を選ぶ

- リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトサーチ」を選びます。
- 「フォトサーチ」表示が出ます。

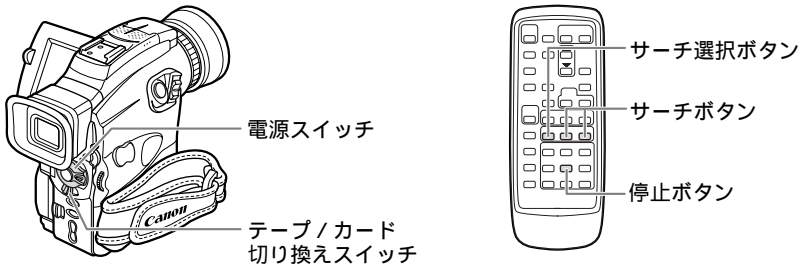
3 サーチを始める

- 正方向のサーチをするときは▶▶Iを、逆方向のサーチをするときはI◀◀を押します。
- 押した数だけ前／後ろの静止画（最多10枚まで）の頭出しになります。
- サーチの方向を変えるときは、▶▶IまたはI◀◀を押します。
- サーチを止めるときは停止■ボタンを押します。

補足

- サーチを始めた部分のすぐ近くの静止画は探し出せないことがあります。

応用編

撮影した日の変わり目を探す（日付サーチ）

撮影時の日付／時刻を自動的に記録するデータコード（🕮 113）を使って撮影時の日付の変わり目を探せます。世界時計でエリアを設定したときには、エリアの変わり目もサーチします。

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

2 「日付サーチ」を選ぶ

- リモコンのサーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選びます。
- 「日付サーチ」表示が出ます。

3 サーチを始める

- 正方向のサーチをするときは▶▶Iを、逆方向のサーチをするときはI◀◀を押します。
- 押した数だけ前／後ろの日付の変わり目（最多10）の頭出しになります。
- サーチの方向を変えるときは、▶▶IまたはI◀◀を押します。
- サーチを止めるときは停止■ボタンを押します。

補足

- 日付サーチを行うときは1日／１エリア当たり1分以上の記録部分が必要です。
- 日付サーチでは、再生を始める位置が多少ずれることがあります。
- データコードが正しく表示されていないときは、日付サーチは正しく動作しません。

再生時に日時、カメラデータを表示する（データコード）

あらかじめ日付と時刻を設定しておくと、撮影している映像とは別に、撮影時の日付／時刻を自動的に記録します。また撮影時のシャッタースピードと絞り値(F値)も同様に記録します（これをカメラデータと呼びます）。
テープを再生するときには、撮影時の日付／時刻、カメラデータを自由に表示することができます（カード再生時は、日付／時刻のみの表示になります）。

● 本機で撮影したテープを他のデジタルビデオ機器で再生したときにはデータコードが表示できないことがあります。
● データコードは、正方向再生、逆方向再生*、2倍速再生（正逆両方向）*、スロー再生（正逆両方向）、静止画再生（正逆両方向）、早送り再生*、巻き戻し再生*中に表示します。ただし、カメラデータは*マークのついた動作中は、まれに「––––」になることがあります。

● ここでは「再生（VTR）モード」で説明しています。

日時の表示内容を選ぶ（日付／時刻／日付＆時刻）

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

2 「表示設定」サブメニューから「日時選択」を選ぶ（□86）

● メニューボタンを押すと、「VTRメニュー」が出ます。
● マルチダイヤルで「表示設定」を選び、次に「日時選択」を選びます。

3「表示内容」を選ぶ

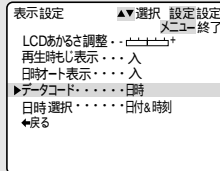
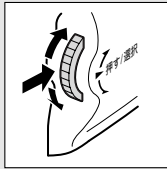
- マルチダイヤルを回して▶を設定する内容に合わせ、マルチダイヤルを押します。

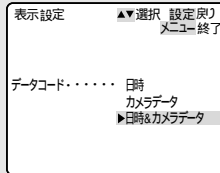
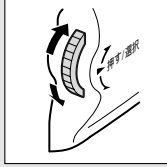
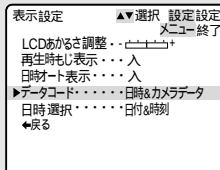
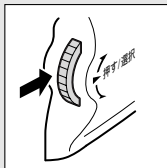
- 「表示設定」サブメニューに戻ります。

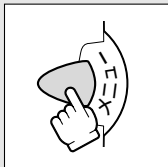
● カード再生モードのとき、4〜6の操作は不要です。7へ進んでください。

データコードの表示内容を選ぶ

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

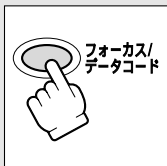
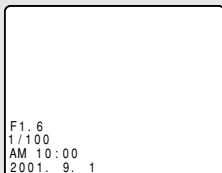
4「表示設定」サブメニューから「データコード」を選ぶ（📖86）

- メニューボタンを押すと、「VTRメニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「表示設定」を選び、次に「データコード」を選びます。

5 表示内容を選ぶ

- マルチダイヤルを回して▶を設定する内容に合わせ、マルチダイヤルを押します。

- 「表示設定」サブメニューに戻ります。

6 メニューを消す

● メニューボタンを押します。

データコードを表示する

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

7 データコードを表示する

● テープを再生し、データコードボタンを押します。

データコード表示について

● メニューで設定する「日時選択」と「データコード」の内容により、データコードの表示内容は変わります。

「データコード」の設定

「日時選択」の設定	「日時」	「カメラデータ」	「日時&カメラデータ」
「日付」	2001. 9. 1	F1.6 1/100	F1.6 1/100 2001. 9. 1
「時刻」	AM 10:00:00	F1.6 1/100	F1.6 1/100 AM 10:00:00
「日付&時刻」	AM 10:00 2001. 9. 1	F1.6 1/100	F1.6 1/100 AM 10:00 2001. 9. 1

応用編

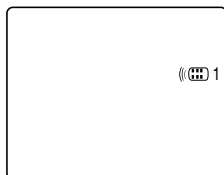
2台のキヤノンビデオカメラを操作する（リモコンコード）

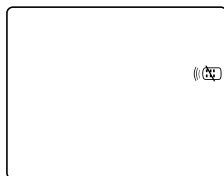
キヤノン製のほかのビデオカメラもお使いになっているときは、２台のリモコンコードを別にしてお使いください。

- ご購入時には、リモコンコードは「1」に設定されています。誤動作を防ぐためにはリモコンコードを「2」に変更してください。「切」を選ぶと、リモコンの信号を受け付けません。
- 本機のリモコンコードの設定（受信コード）を変更したら、必ずリモコンも設定（送信コード）を変更してください。

本機の受信コードを変更する

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

撮影一時停止中／再生停止中

「システム設定」サブメニューで「リモコンコード」を「1」（または「2」）にします（□ 86）

- 「1」（または「2」）表示が約４秒間出ます。

「システム設定」サブメニューで「リモコンコード」を「切」にします（□ 86）

- 「切」を選ぶと、「」の表示が出ます。

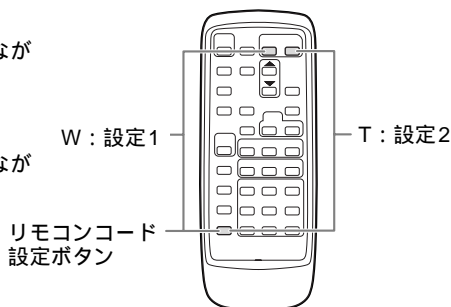
リモコンの送信コードを変更する

本機とリモコンで設定されているリモコンコードが異なる場合には、リモコンは使用できません。リモコンコード設定ボタン以外のボタンを押すと、画面に本機で設定されているリモコンコードが4秒間、点滅して表示され、確認できます。

設定１にする

リモコンのリモコンコード設定ボタンを押しながら、Wボタンを約2秒間押します。

設定２にする

リモコンのリモコンコード設定ボタンを押しながら、Ｔボタンを約2秒間押します。

補足

- リモコンコードの設定を確認しても、リモコンで操作できない場合には、リモコンの電池を交換してください。

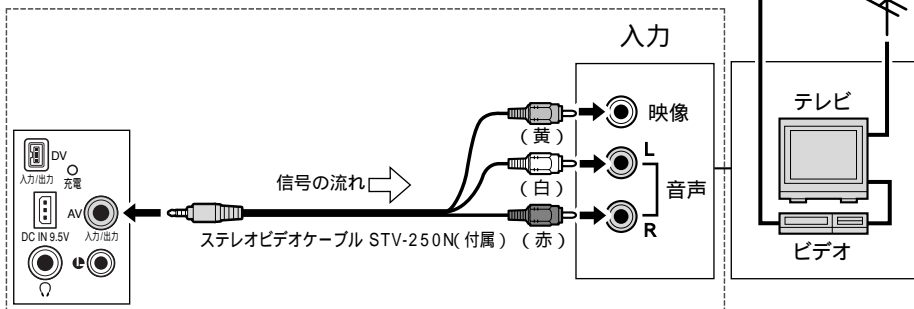
ほかのビデオデッキへ録画する

本機を再生機として、ビデオデッキを録画機として使うことで、本機で撮影したテープをダビング編集できます。録画側のビデオは、どの方式でも使えます。
また録画側のビデオがDV端子付きのデジタルビデオの場合は、デジタル信号のまま、画質、音質劣化のほとんどないダビング編集ができます。

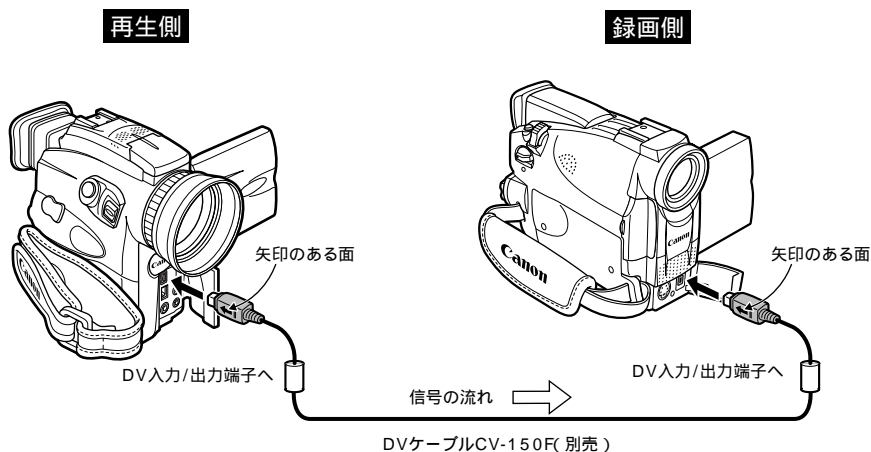
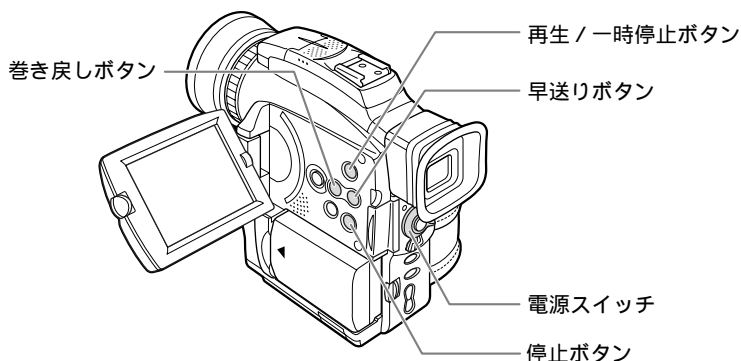
接続のしかた

① S(S１*)-映像端子付きビデオへ録画する

接続するほかの映像機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

応用編

② DV端子付きビデオへ録画する

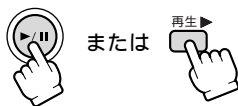
本機と、DV端子を持つほかのビデオ機器をDVケーブルで接続し、ダビング編集することができます。接続するほかの映像機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

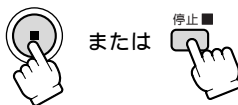
● DVケーブルで本機と接続できるのは1台のみです。
● DVケーブルはつなぎかえることなく、本機を録画機または再生機として使えます。（□122）

● 再生機が無記録部分を再生すると、異常な映像が記録されることがあります。
● 本機で、2倍／3倍録画モードで撮影したテープを再生した場合、同様の長時間録画機能を搭載しているデジタルビデオ機器以外では、正しく録画できません。
● DVケーブルを正しく接続していても、映像が出ないことがあります。このようなときはDVケーブルを接続し直すか、電源を入れ直してください。

本機 再生機 の操作

1 **電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする**

● 再生するカセットを入れます。

2 **巻き戻しボタンまたは早送りボタンを押して、再生を始める少し手前の位置を探す**

または
3 **再生を始める**

または
● 再生ボタンを押します。

4 **再生を終える**

または
● 停止ボタンを押します。

ビデオデッキまたはDV端子付きビデオ 録画機 の操作

1 **録画用のカセットを入れる**

2 **録画一時停止状態にする**

3 **録画を開始する場面で録画を始める**

4 **録画を終える**

ダビング編集すると

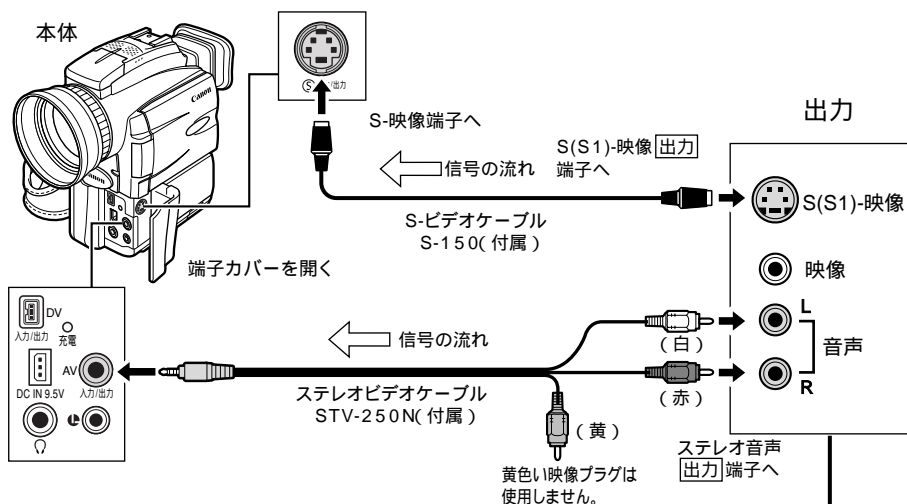
● DV端子のないビデオ機器へダビングした映像は、多少画質が劣ります。

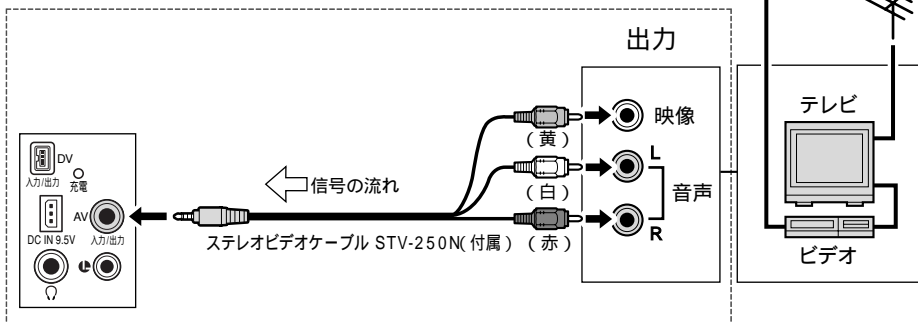
ほかのビデオやテレビの画像を録画する（アナログ入力）

本機を録画機として使用して、ほかのビデオの画像やテレビ番組をダビングしたり、編集することができます。
テレビやビデオから出力される信号が乱れていると、テレビでは著しく乱れて映っていなくても、異常な画像が記録されたり、画像が記録されないことがあります。また、「コピー禁止です」の表示が出ることがあります。
著作権保護信号が記録されているテープからは、ダビング録画できません。

接続のしかた

S（S1）-映像端子付きビデオから録画する

接続するほかの映像機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

映像／音声端子付きビデオから録画する

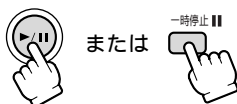
接続するほかの映像機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

本機を録画機として使用する場合

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

本機 録画機 の操作

1 **電源スイッチを「再生（VTR)」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする**

- 録画用のカセットを入れます。

2 **録画一時停止にする**

または

- 録画一時停止ボタンを押します。
- 録画一時停止中、録画中は液晶画面/ビューファインダーで映像の確認ができます。

3 **録画を始める**

または

- 録画を開始する場面で一時停止ボタンを押します。

4 **録画を終える**

または

- 停止ボタンを押します。

一時停止をする

または

- 一時停止ボタンを押します。
- 録画を再開するときはもう一回押します。

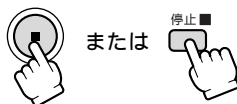
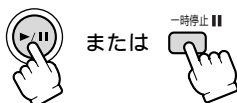
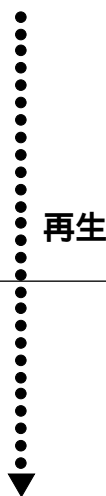
再生機 の操作

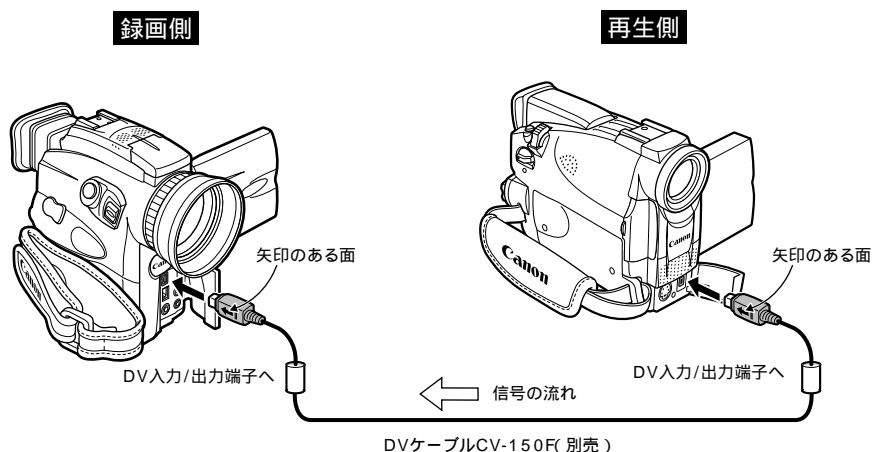
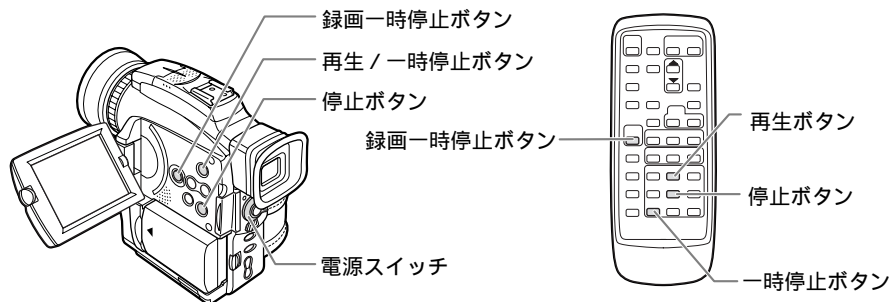
1 **再生するカセットを入れる**

2 **再生を始める**

3

4 **再生を終える**

応用編

DV端子付きビデオから録画する

本機と、DV端子を持つほかのビデオ機器をDVケーブルで接続し、ダビング編集することができます。接続するほかの映像機器の使用説明書もあわせてご覧ください。
ビデオから出力される信号が乱れていると、テレビでは著しく乱れて映っていなくても、異常な画像が記録されたり、画像が記録されないことがあります。
著作権保護信号が記録されているテープからは、ダビング録画できません。

- DVケーブルで本機と接続できるのは1台のみです。
- DVケーブルはつなぎかえることなく、本機を録画機または再生機として使えます。
- 再生機が無記録部分を再生すると、異常な映像が記録されることがあります。
- DVケーブルを正しく接続していても、映像が出ないことがあります。このようなときはDVケーブルを接続し直すか、電源を入れ直してください。

本機を録画機として使用する場合

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

本機 録画機 の操作

1 **電源スイッチを「再生（VTR)」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする**

- 録画用のカセットを入れます。
- 液晶画面/ビューファインダーに「DV入力」の表示が出ます。

2 **録画一時停止にする**

または
- 録画一時停止ボタンを押します。
- 録画一時停止中、録画中は液晶画面/ビューファインダーで映像の確認ができます。

3 **録画を始める**

または
- 録画を開始する場面で一時停止ボタンを押します。

4 **録画を終える**

または
- 停止ボタンを押します。

一時停止をする

または
- 一時停止ボタンを押します。
- 録画を再開するときはもう一回押します。

再生機 の操作

1 **再生するカセットを入れる**

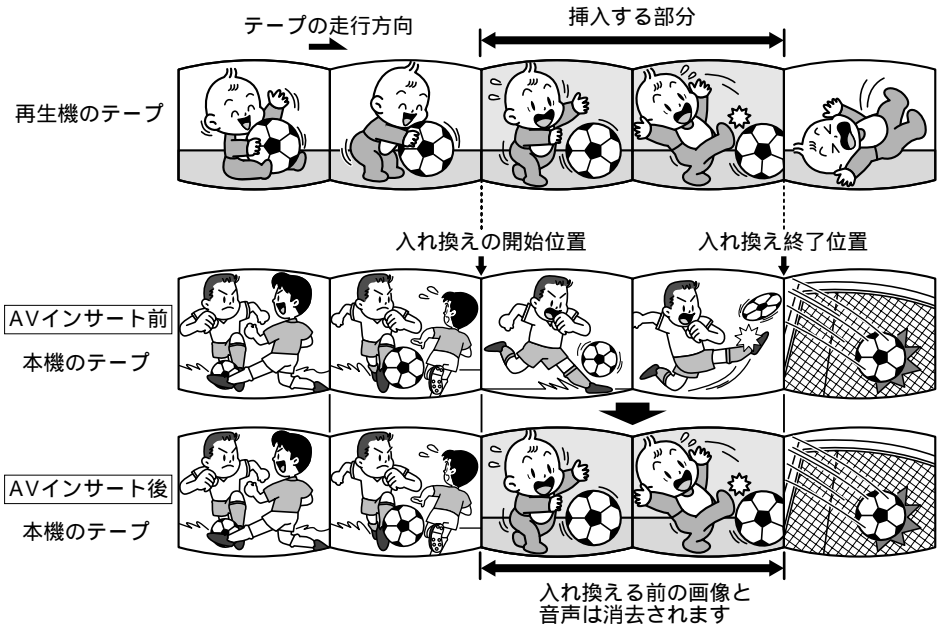
2 **再生を始める**

3

4 **再生を終える**

応用編

撮影したテープの映像と音声を入れ換える（AVインサート）

本機で撮影したテープの映像／音声を、ほかのビデオ機器からの映像／音声と入れ換えることができます（AVインサート）。AVインサートは、アナログ入力（📖 120）、DV入力（📖 122）のいずれも可能です。
テープを再生する機器を本機に接続してください。

AVインサートするときは

本機

本機で、SPモードで記録したテープを使用してください。
テープの途中に、無記録部分やSP以外の録画モードで記録された部分があるテープでAVインサートを行うと、記録が中断されます。

再生機

無記録部分のないテープを使用してください。
途中に無記録部分や録画モードを変更している部分があると、本機で正しくAVインサートできない場合があります。
次のような場合には、AVインサートできません。

- 記録状態が悪いビデオテープを再生する
- 再生機が、早送り、巻き戻し、静止画再生、スロー再生などの特殊再生中（アナログ入力時）

テレビ

- 受信状態の悪いテレビ番組など、同期信号に乱れがある場合、AVインサートはできません。

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

1 本機／再生機に撮影済みテープを入れる

- カセットの誤消去防止つまみが録画できる状態（REC）になっていることを確認してください。

2 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

3 再生機 再生を開始したいシーンの約3秒手前の位置で再生一時停止にする

4 本機 ① AVインサートを開始する位置を探す

- 再生ボタンを押して再生します。

② **再生一時停止にする**

- 一時停止ボタンを押します。

- 本機のAVインサートしたい場面を探すときに、特殊再生機能を使うと便利です（🕮 51、52）。

5 リモコンのAVインサートボタンを押す

- 「AV インサート」の表示が出ます。

6 再生機 テープを再生する

7 本機 AVインサートを始める

- 再生中のテープのAVインサートを開始したい位置で一時停止ボタンを押します。

8 本機 AVインサートを終える

- AVインサートを終了する位置で、停止ボタンを押します。

9 再生機 テープを停止する

補足

- あらかじめAVインサートを終了したい位置でゼロセットメモリーボタンを押してからAVインサートを開始すると、その位置で自動的に停止します。

撮影したテープに音声を追加する（アフレコ）

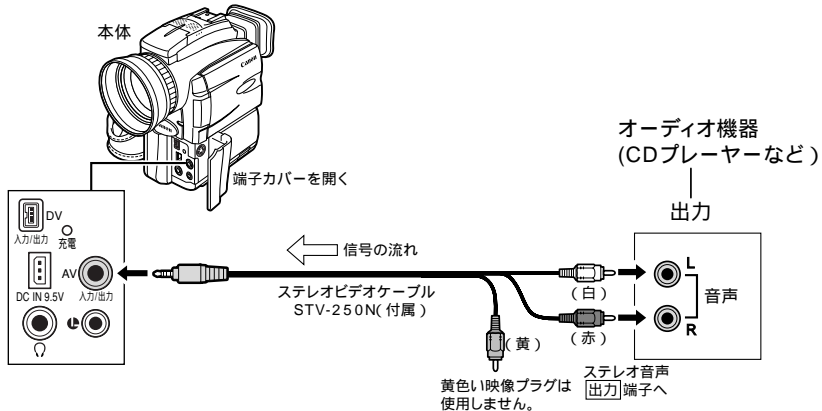
本機は、撮影したテープにあとから音声を追加することができます。CDプレーヤーなどのオーディィオ機器などから録音したり（音声入力）、本機の内蔵マイクまたは、外部マイクを使って音声を録音します（マイク入力）。

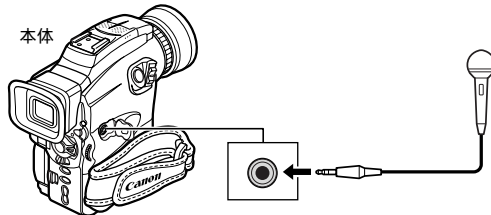
アフレコするときは

本機で、SPモード、オーディオ12bitで記録したテープを使用してください。
テープの途中に、無記録部分やSP以外の録画モード、16bitで記録された部分、12bit同時4チャンネルで記録された部分があるテープでは、アフレコが中断されます。

- このような場合には、本機で、SPモード、オーディオ12bitでアナログ入力録画してからアフレコすることをおすすめします。
- 12bitと16bitが混在して記録されているテープは、アフレコできません。
- アフレコするとき、または、アフレコしている間は、本機に接続しているケーブルを抜き差ししないでください。

映像／音声端子に接続してアフレコする（音声入力）

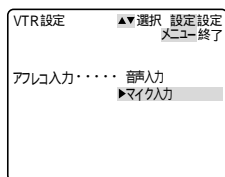
接続する機器の使用説明書もあわせてご覧ください。

- 映像／音声端子から映像は出力されません。S-映像端子に接続したテレビや、液晶画面またはビューファインダーで画像を確認できます。アフレコする音声は、スピーカーやヘッドホンで確認できます。

マイクを使ってアフレコする（マイク入力）

- **市販の外部マイクを使うとき➡**マイク端子に接続する。
  指向性ステレオマイクロホンDM-50を使うとき➡マイク端子にはなにも接続しない。
  内蔵マイクを使うとき➡マイク端子にはなにも接続しない。
  アドバンストアクセサリーシューにDM-50を接続しない。
- S-映像、映像／音声端子にテレビをつなぐと、テレビで画像を確認できます。音声は、ヘッドホンで確認できます。（📖 53、55）

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

1 本機に撮影済みカセットを入れる

2 電源スイッチを「再生（VTR)」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

3 「VTR設定」サブメニューから「アフレコ入力」を選び、次に「音声入力」または「マイク入力」を選ぶ（📖 86）

4 メニューを消す

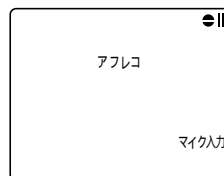
- メニューボタンを押します。

5 音声を追加する場面の開始位置を探す

- 再生ボタンを押して再生します。
- 音声を追加する場面を探すときに、特殊再生機能を使うと便利です（📖 51、52）。

6 再生一時停止にする

- 一時停止ボタンを押します。

7 リモコンのアフレコボタンを押す

- 「アフレコ」の表示が出ます。
- 別売のマイクDM-50を接続しているときは、「C」表示が出ます。

8 アフレコを始める

- 一時停止ボタンを押します。
- マイクに向かって話してください。「音声入力」を選んだときは、オーディオ機器を再生してください。

9 アフレコを終える

- アフレコを終了する位置で、停止ボタンを押します。

補足

- あらかじめアフレコを終了したい位置でゼロセットメモリーボタンを押してからアフレコを開始すると、その位置で自動的に停止します。
- DV端子からのアフレコはできません。
- ほかのビデオカメラで録画されたテープでアフレコした場合、音質が劣化することがあります。
- テープの同じ場所で3回以上くり返してアフレコを行うと、音質が劣化することがあります。
- アフレコした音声を聞くときは、次ページをご覧ください。

応用編

音声を切り換える

撮影時の音声とアフレコした音声を再生する(12bit記録テープ)

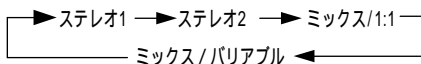
アフレコしたテープを再生するときに、ステレオ1（撮影時の音声）とステレオ2（アフレコした音声）の、どちらかあるいは両方の音声を再生でき、さらに2つの音声のバランスを調整できます。

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

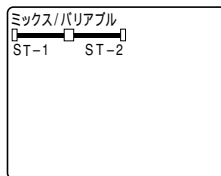
2 リモコンの音声選択ボタンを押す

- 選んだ音声表示が出ます。
- ボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。

→ステレオ1 → ステレオ2 → ミックス/1:1 → ミックス／バリアブル →（ステレオ1に戻る）

- **ステレオ1** -------------------------撮影時の音声のみ再生する
- **ステレオ2** -------------------------アフレコされた音声のみ再生する
- **ミックス／1：1** ----------------ステレオ1とステレオ2を同じバランスで再生する
- **ミックス／バリアブル** --------ステレオ1とステレオ2の音声のバランスを変えて再生する

補足

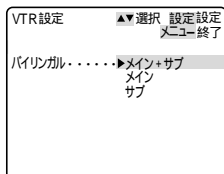
「ミックス／バリアブル」を選んだ場合

ステレオ1（ST-1）とステレオ2（ST-2）のバランスを調整する表示が出ます。表示は、約4秒で消えます。

- **ステレオ1の音量を大きくする**
  リモコンのミックスバランス ステレオ1ボタンを押します。
- **ステレオ2の音量を大きくする**
  リモコンのミックスバランス ステレオ2ボタンを押します。

● 一度調整した音声のバランスは電源を切っても憶えていますが、電源を切るとオーディオ12bit出力は「ステレオ1」に戻ります。続けて「ミックス／バリアブル」で再生するときは、リモコンの音声選択ボタンで選択してください。

二重音声で記録したテープを再生する

二重音声を記録したテープを再生するとき、必要に応じて音声の切り換えをすることができます。

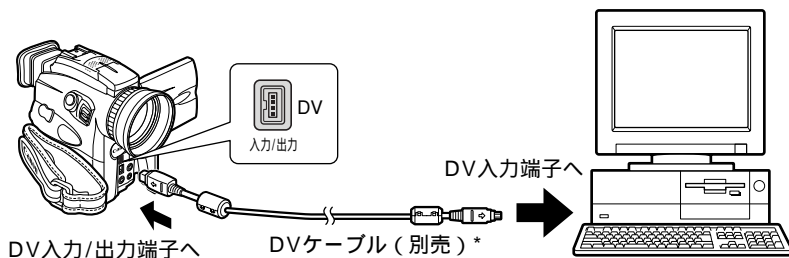
カメラモード　**再生(VTR)モード**　カード再生モード　カード再生モード

「VTR設定」サブメニューから「バイリンガル」を選び、次に再生される音声を選びます。（📖 86）

● 下記の表を参考にして、選びます。

「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「メイン＋サブ」	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」	左音声	主音声
「サブ」	右音声	副音声

パソコンに接続する

本機と、DV端子（IEEE1394準処）を標準で搭載しているパソコン／DV端子付きキャプチャーボードを搭載したパソコンをDVケーブルで接続すると、本機で撮影した動画や静止画をパソコンに取り込むことができます。

- ACパワーアダプターを使って、家庭用コンセントから電源をとることをおすすめします。
- 接続は、各機器の電源を切って行ってください。
- 別途ソフトウエアが必要です。
- パソコンの使用説明書もあわせてご覧ください。

* 別売のDVケーブルCV-150F（4ピン－4ピン）またはCV-250F（4ピン－6ピン）

注意

- 使用するソフトウエア、パソコンの仕様／設定などによっては、正しく動作しないことがあります。

メモリーカードについてのガイドマップ

下記の順番で説明しています。

準備 メモリーカードを入れ、画質などを設定します 📖132～📖135

静止画を記録する ビデオカメラから、テープから、ＤＶ端子から 📖136 ～📖140

静止画を見る
１枚１枚、カードジャンプ、スライドショー、インデックス 📖141 ～📖143

静止画のいろいろな設定
静止画を消えないようにしたり（プロテクト）、印刷用の印をつけたり（プリントマーク）、消したりする（消去）。 📖144 ～📖152

メモリーカードの静止画とカメラで撮影している画像を合成する
カードクロマキー、カードルミキー、カメラクロマキー 📖153 ～📖156

テープの静止画をメモリーカードにコピーする 📖157 ～📖158

メモリーカードの静止画をテープにコピーする 📖159

メモリーカードを初期化する 📖160

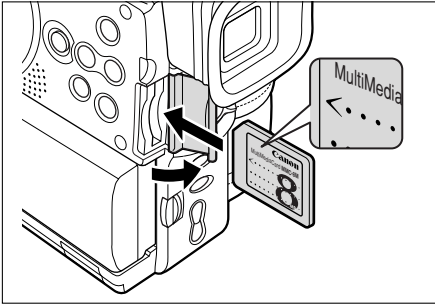
- アクセサリーキットAK-540に付属のマルチメディアカード以外のメモリーカードを使用する際には、本機でフォーマットしてください。
- 本機はDCFに準拠しています。DCFは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、デジタルカメラ等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

必ず守ってください

メモリーカードの出し入れはビデオカメラの電源を切ってから行ってください。本機は、マルチメディアカードとSDメモリーカード(SD *)専用です。ほかのメモリーカードは使用できません。

＊“ SD ”ロゴは商標です。

メモリーカードを入れる／出す

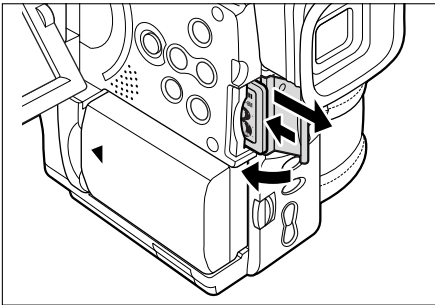
メモリーカードの入れかた

❶ 電源スイッチを「切」にする

❷ カバーを開ける

❸ メモリーカードを奥までしっかり入れる

❹ カバーを閉じる

メモリーカードの出しかた

● メモリーカードを抜くときは、無理に出さないで、必ず３の操作を行ってください。

❶ 電源スイッチを「切」にする

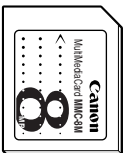
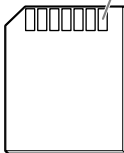
❷ カバーを開ける

❸ メモリーカードの端を押す
- メモリーカードが出てきます。

❹ メモリーカードを抜く

❺ カバーを閉じる

■マルチメディアカード
マルチメディアカードは、小型・軽量で、静止画を記録できるカードです。

表

裏　端子

マルチメディアカードMMC-8M　主な仕様

記憶容量	8MB
使用温度	0˚～＋40˚C
外形寸法	約32×24×1.4mm
質量	約1.5g

■SDメモリーカード
SD（Secure Digital＝著作権保護システム）メモリーカードには、誤消去防止のつまみが付いています。サイズは、マルチメディアカードとほぼ同じで、本機ではマルチメディアカードと同じ場所に入れて使用できます。

注 意

● 電源を切らずにメモリーカードを出し入れすると、故障の原因となることがあります。
● メモリーカードの端子に触れないでください。

記録時の画質や画像サイズを選ぶ

メモリーカードに記録する静止画の画質や画像サイズを選びます。

画質　　　　：ファイン／スタンダード

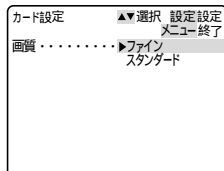
画像サイズ　：1280×960ピクセル／640×480ピクセル

- ご購入時には、「画質」は「スタンダード」に、「画像サイズ」は「1280×960」に設定されています。
- 画質や画像サイズの設定により、1枚のメモリーカードに記録できる静止画の枚数は、異なります。枚数の目安は、つぎのとおりです。

画質＼画像サイズ	1280×960	640×480
スタンダード	約32枚	約106枚
ファイン	約17枚	約61枚

* 記録できる枚数は8Mバイトのマルチメディアカードでの目安です。撮影条件や被写体によって変わります。また、サンプル画像が入っているメモリーカード（アクセサリーキット AK-540に付属）の場合は上記の枚数よりも少なくなります。

画質を選ぶ

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

「カード設定」サブメニューから「画質」選び、「ファイン」にします。（📖86）

- 本機では画像をJPEG(Joint Photographic Experts Group)方式で圧縮して記録します。
- 画像によっては、画質の設定を切り換えても画質に差が現れない場合があります。
- カードの表示について

カードがないとき：　　　赤色の点滅

記録可能枚数6枚以上：　6 緑色表示

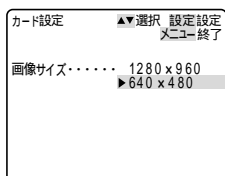
記録可能枚数1～5枚：　5 黄色表示＊

記録可能枚数0枚：　　　0 赤色表示＊

＊ カード再生時はすべて緑色表示になります。

＊ 記録可能枚数表示は、記録時の状況により、一定ではありません。記録しても、枚数表示が減らなかったり、1回の記録で2枚減ることがあります。

画像サイズを選ぶ

カメラモード　再生(VTR)モード　**カードカメラモード**　カード再生モード

「カード設定」サブメニューから「画像サイズ」を選び、「640×480」にします。（📖 86）

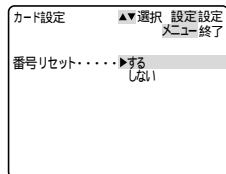
- 「**640**」の表示が出ます。

注 意

- 本機で1280×960ピクセルの画像サイズで静止画を記録したとき、1280×960ピクセルの画像サイズで記録ができないほかのデジタルビデオ機器では、画像が正しく再生されないことがあります。

ファイル番号をリセットする

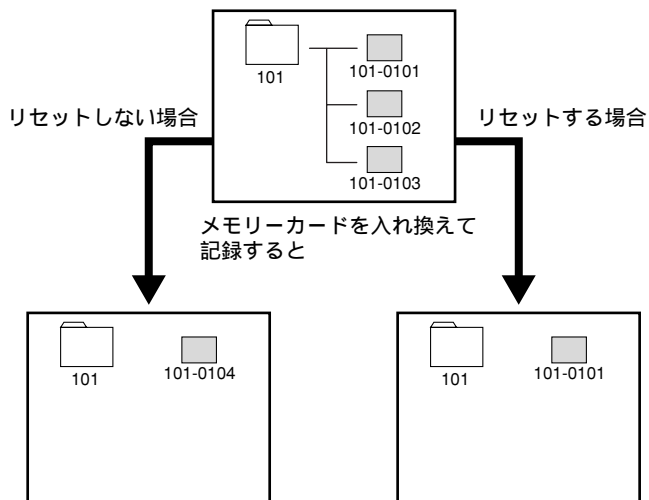
記録した静止画は、自動的に0101～9900までのファイル番号が付けられ、ひとつのフォルダに100枚ずつ保存されます。それぞれのフォルダには101～998までの番号が付けられ、メモリーカードに記録します。（サンプル画像が入っているメモリーカード（アクセサリーキットAK-540に付属）では、サンプル画像は100canonのフォルダに入っています。）
本機では、メモリーカードを換えたときファイル番号を連続して付けたり、番号をリセットしたりできます。
● ご購入時には、「番号リセット」は「しない」に設定されています。

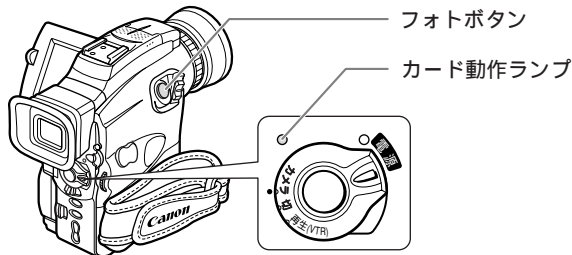
カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　カード再生モード

「カード設定」サブメニューから「番号リセット」を選び、「する」にします。（📖 86）

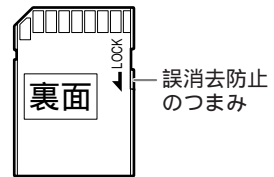
● 番号をリセットしない
別のメモリーカードに入れ換えても、最後に記録した静止画の続き番号が、次の静止画に付けられます。（メモリーカード内のファイル番号のほうが大きい場合は、その続き番号が付けられます。）
ファイル番号をリセット「しない」に設定して記録すると、記録した静止画のファイル番号が重複しないため、パソコンでまとめて管理するときなどに便利です。
通常はリセット「しない」に設定しておくことをおすすめします。

● 番号をリセットする
別のメモリーカードに入れ換えると、ファイルの番号が101-0101から始まります。すでに静止画が記録されているメモリーカードを入れたときは、その続きのファイル番号になります。

例えば、3枚記録したメモリーカード
（アクセサリーキットAK-540に付属のメモリーカードの場合）

応用編

静止画をメモリーカードに記録する

メモリーカードに静止画を記録します。メカニカルシャッターを搭載し、美しい静止画をメモリーカードに記録できます（プログレッシブフォト機能）。
また、ビデオカメラで撮影している画像のほかに、テープに記録されている画像、DV端子から入力している画像をメモリーカードに記録できます。

● 内蔵のストロボの使いかたについては、60ページをご覧ください。
● メモリーカードには、動画と音声、アナログ入力からの画像は記録できません。

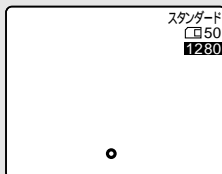
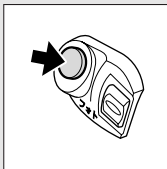
● あらかじめ記録可能なメモリーカードを入れておいてください。
● SDメモリーカードには、誤消去防止のつまみがついています。SDメモリーカードに静止画を記録するときには、記録できる状態になっていることを確認してください。

● カード動作ランプが点滅している間は、データの破損などの原因となりますので、バッテリーパックなどの電源を取りはずさないでください。

ビデオカメラで撮影している画像を記録する

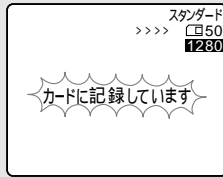
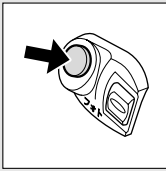
● リモコンのフォトボタンを押したときは、すぐにフォト撮影が始まります。

カメラモード　再生(VTR)モード　**カードカメラモード**　カード再生モード

1 電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「カード」にする

2 フォトボタンを浅く押す

● ◉が白色に点滅したあと、ピント調整が終わると緑色の点灯に変わります。

● 露出がロックされます。

3 フォトボタンを深く押す

- ◘マークが消えます。カシャというシャッター音と同時にシャッターを切るように画面が一度途切れます。
- カード動作ランプが点滅し、「カードに記録しています」の表示が出ます。
- ボタンを押したときの静止画がメモリーカードに記録されます。
- 液晶画面/ビューファインダーの映像も静止画になります。

補足

- 2の操作の前に、セルフタイマーボタンを押してから、フォトボタンを押すと、セルフタイマーで静止画をメモリーカードに記録できます。（📖 62）
- カメラモードのときテープ／カード切り換えスイッチを「カード」に切り換えると、カードへの記録に適した設定に画像が変わります。
- 電源スイッチが「カメラ」のとき、テープ/カード切り換えスイッチを操作すると、被写体の大きさが少し変わります。
- カードカメラモードのとき、被写体が明るすぎて露出オーバー（露出過度）になると、「EXPオーバー」の表示が点滅します。この場合、別売のフィルターセットFS-43Uに付属のNDフィルターを取り付けることをおすすめします。（そのままでも撮影できます。）
  露出ロックを行うと「EXPオーバー」の表示は出ません。

テープの画像を記録する

撮影したテープの画像を選んでメモリーカードに記録できます。
テープに記録した静止画を自動記録するときは「テープの静止画をメモリーカードにコピーする」（🕮 157）をご覧ください。

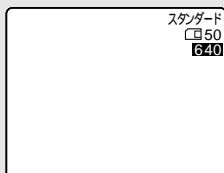
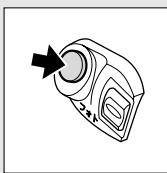
● テープからカードに記録される静止画の画像サイズは、640×480です。
● テープの画像をカードに記録したときの日付/時刻が、日時としてカードに記録されます。

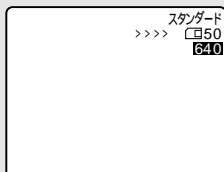
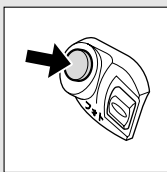
カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

2 テープを再生する

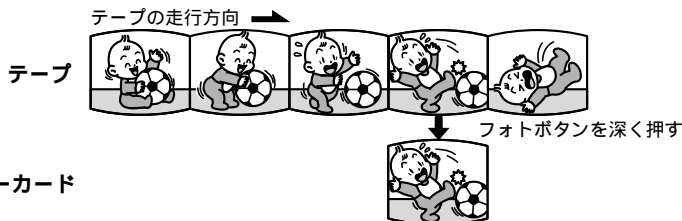
● 再生ボタンを押します。

3 再生中 フォトボタンを浅く押す

● 液晶画面/ビューファインダーに記録可能枚数などのメモリーカードの情報が表示され、静止画再生（再生一時停止）になります。

4 フォトボタンを深く押す

● カード動作ランプが点滅します。
● 液晶画面/ビューファインダーに出ている画像がメモリーカードに記録されます。
● 再生一時停止中にフォトボタンを深く押しても静止画を記録できます。

テープの走行方向

テープ

フォトボタンを深く押す

メモリーカード

● 16：9で撮影した映像を静止画としてメモリーカードに記録すると縦に伸びた画像になります。
● 再生（VTR）モードでは、シャッター音はしません。

ＤＶ端子から入力する画像を記録する

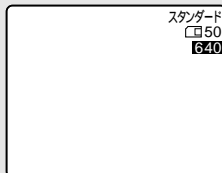
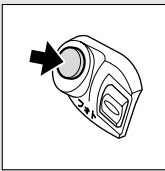
ＤＶ端子に接続したデジタルビデオ機器からの画像を選んで、メモリーカードに記録できます。
接続のしかたなどは１２２ページをご覧ください。

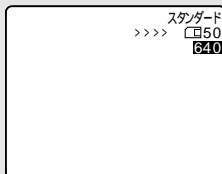
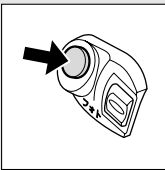
- メモリーカードに静止画を記録するだけであれば、本機にカセットを入れる必要はありません。カセットが入っているときは、停止ボタンを押して停止状態にしてください。
- テープからカードに記録される静止画の画像サイズは、６４０×４８０です。
- ＤＶ端子から入力した画像をカードに記録したときの日付/時刻が、日時としてカードに記録されます。

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

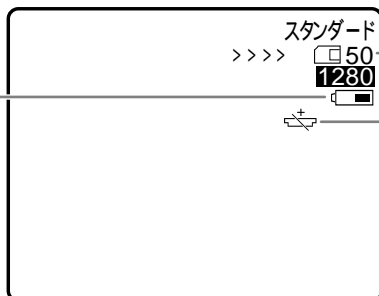
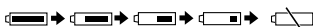
2 接続したビデオ機器の電源を入れ、再生する

3 フォトボタンを浅く押す

- 液晶画面／ビューファインダーに記録可能枚数などのメモリーカードの情報が表示され、画像が静止画になります。

4 フォトボタンを深く押す

- カード動作ランプが点滅します。
- 液晶画面／ビューファインダーに出ている画像がメモリーカードに記録されます。

補足

- １６：９で撮影した映像を静止画としてメモリーカードに記録すると縦に伸びた画像になります。
- 再生（VTR）モードでは、シャッター音はしません。

カード記録中の液晶画面の表示について

記録可能枚数表示

カードがないとき： 赤色の点滅
記録可能枚数6枚以上： 6 緑色表示
記録可能枚数1～5枚： 5 黄色表示＊
記録可能枚数0枚： 0 赤色表示＊
＊記録可能枚数表示は、記録時の状況により、一定ではありません。記録しても、枚数表示が減らなかったり、1回の記録で2枚減ることがあります。

「 」の点滅
カードが入っていないときに赤色に点滅します。

「＞＞＞」書き込み表示
静止画をメモリーカードに書き込んでいるときに表示します。

バッテリーパックの残量表示

バッテリーパックの残量の目安を表示します。

- バッテリーパックが消耗すると「 」が点滅します。充電したバッテリーパックと交換してください。
- 消耗したバッテリーパックを装着すると、「 」が出ずに、電源が入らなかったり、切れたりすることがあります。
- 残量と表示内容はビデオカメラ、バッテリーパックの状態により必ずしも一致しません。

「 」の点滅

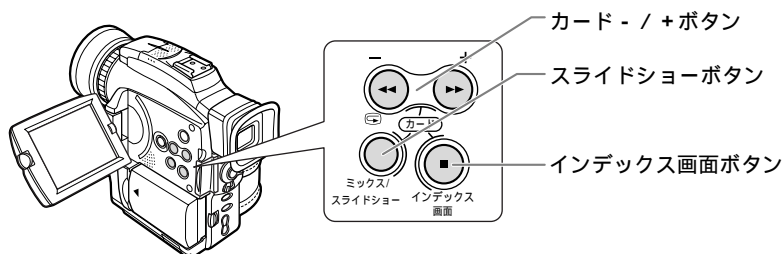
ボタン型リチウム電池が入っていなかったり、電池の容量が低下すると、「 」が点滅します。新しいボタン型リチウム電池と交換してください。

- 交換用のボタン型リチウム電池は、CR1616タイプをお使いください。

静止画を見る

メモリーカードに記録した静止画は液晶画面やビューファインダー、接続したテレビなどで見られます（テレビとの接続について 📖 55）。
本機では、静止画を１枚ずつ見たり、連続して順番に見たり（スライドショー）、６枚を１度に見たり（インデックス画面）できます。さらに、見たい静止画をすばやく探し出せるカードジャンプ機能があります。

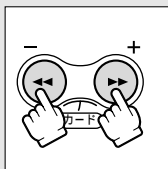
- カード再生モード時、データコードボタンを押したときは、日付／時刻のみ表示されます。
- 他社のビデオカメラで記録したメモリーカードの静止画は、再生やコピーができないことがあります。
- あらかじめ静止画を記録したメモリーカードを入れておいてください。
- カード動作ランプが点滅している間は、データの破損などの原因となりますので、バッテリーパックなどの電源を取りはずさないでください。

メモリーカードに記録されたすべてのデータは、パソコンで書き換えないでください
パソコンで作成／加工した静止画をメモリーカードに書き込んだり、本機で記録した静止画をパソコンで直接加工したり、ファイル名を変更した場合、本機で再生できなくなる場合があります。

静止画を１枚ずつ見る

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「カード」にする

- 最後に記録した静止画が出ます。

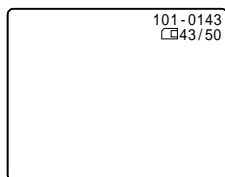
2 静止画を選ぶ

- 前の静止画を見るときは**−**、次の静止画を見るときは**＋**ボタンを押します。
- 最後の静止画で「**＋**」を押すと最初の画像が出ます。
- 最初の静止画で「**−**」を押すと最後の画像が出ます。

応用編

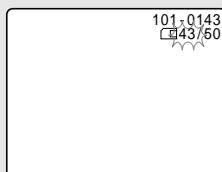
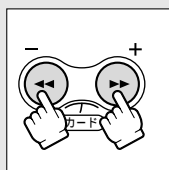
静止画をすばやく探し出す（カードジャンプ機能）

静止画を一枚ずつ再生せずに、離れた静止画まで一気にジャンプすることができます。

● カード再生モード時の画面の右上に出る数字は、記録した静止画の合計枚数（全枚数）と再生している静止画が何枚目になるか（表示番号）を表しています。

（表示番号）／（全枚数）

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中

カード＋／－ボタンを押し続ける

- 画面に出ている静止画より、前に記録した静止画を見たいときは－、後の場合は＋ボタンを押します。
- 表示番号が送られます。
- ボタンを離すと、表示番号の静止画が出ます。

静止画を順番に再生する（スライドショー）

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中

スライドショーボタンを押す

- 出ている静止画から順番に画像が再生されます。

スライドショーを止めるとき

スライドショーボタンを押します。スライドショーボタンを押すたびに切り換わります。

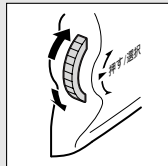
インデックス画面で静止画を選ぶ

最大６画像ずつ表示されますので、目的の画像をすばやく探し出せます。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中 インデックス画面にする

- インデックス画面ボタンを押します。
- ６つの静止画が出るインデックス画面になります。

2 静止画を選ぶ

- マルチダイヤルを回して「☞」を選択する静止画に合わせます。
- マルチダイヤルを上に回すと、「☞」がひとつ先の静止画に進みます。
- マルチダイヤルを下に回すと、「☞」がひとつ前の静止画に戻ります。

- インデックス画面の最後の静止画で上に回すと次の画面になります。
- インデックス画面の最初の静止画で下に回すと前の画面になります。

- カード＋、カード－ボタンでインデックス画面を切り換えることができます。
  －：前のインデックス画面を見ます。
  ＋：次のインデックス画面を見ます。

3 選んだ静止画を出す

- インデックス画面ボタンを押すと、インデックス画面が終了し、選んだ１枚の静止画が画面いっぱいに出ます。

メモリーカードに記録した静止画の設定について

メモリーカードに静止画を記録したとき、電源スイッチで動作モードを切り換えることなく、すぐに画像を確認できます（カード静止画像チェック）。また、メモリーカードに記録した静止画を見ながら、不要な画像を消去したり、画像を消さないようにプロテクト（誤消去防止）したり、印刷用にプリントマークを付けたりすることが簡単に設定できます（画像設定）。
● カード静止画像チェックはカードカメラモードで、画像設定はカード再生モードで操作します。

静止画を消えないようにする（プロテクト O┳ ）

大切な静止画を誤って消去しないようにするために、静止画に誤消去防止（プロテクト）の設定ができます。
● メモリーカード（アクセサリーキットAK-540に付属）に入っているサンプル画像はプロテクト設定がされています。
● プロテクト設定しても、カードをフォーマットすると静止画は消去されます。

● 静止画のプロテクトの設定と解除のしかたは、つぎのとおりです。

① カードカメラモード ➡ 静止画記録中／記録後 ➡「カード静止画像チェック」メニュー（□145）
② カード再生モード ➡ 静止画再生中 ➡「画像設定」メニュー（□146）
③ カード再生モード ➡ インデックス画面表示中 ➡「カード実行」サブメニュー（□148）

印刷したい静止画を指定する（プリントマーク ）

メモリーカードに記録した静止画に印刷用の印を付けることができます。本機は印刷フォーマットのDPOF（Digital Print Order Format）に対応していますので、キヤノンのDPOF対応のプリンターで自動印刷できます。
● プリントマークは50枚の画像まで設定できます。
● プリントマークは1枚印刷の設定になります。

● プリントマークの付けかたと消去のしかたは、つぎのとおりです。

プリントマークを付ける／消去する

① カード再生モード ➡ 静止画再生中 ➡「画像設定」メニュー（□146）
② カード再生モード ➡ インデックス画面表示中 ➡「カード実行」サブメニュー（□149）

すべてのプリントマークを消去する

③ カード再生モード ➡ 静止画再生中 ➡「カード実行」サブメニュー（□150）

静止画を消す（消去）

不要になった静止画を消去できます。
静止画を1枚消去したり、すべての静止画を一度に消去したりできます。
● プロテクト設定している静止画（メモリーカード（アクセサリーキットAK-540に付属）に入っているサンプル画像を含む）は消去できません。
● 一度消去した静止画はもとに戻せません。消去する前に静止画を確認してください。

● 静止画の消去のしかたは、つぎのとおりです。

静止画を1枚消去する

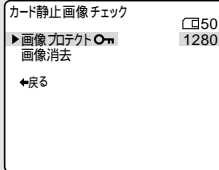
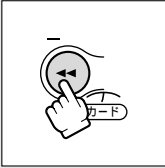
① カードカメラモード ➡ 静止画記録中／記録後 ➡「カード静止画像チェック」メニュー（□145）
② カード再生モード ➡ 静止画再生中 ➡「画像設定」メニュー（□146）

静止画を1枚消去／全消去する

③ カード再生モード ➡ 静止画再生中 ➡「カード実行」サブメニュー（□151）

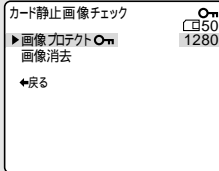
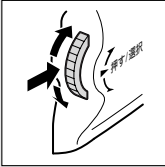
記録した静止画をすぐに確認する（カード静止画像チェック）

カメラモード　再生(VTR)モード　**カードカメラモード**　カード再生モード

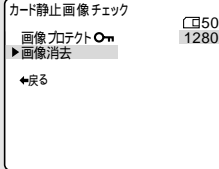
1 静止画を記録中／記録した後に カードーボタンを押す

- 「カード静止画像チェック」メニューが出て、「画像プロテクト 」、「画像消去」の選択画面になります。
- 静止画を記録中に ー ボタンを押すと、すぐにメニュー画面になります。
- 静止画を記録した後に ー ボタンを押したときは、最後に記録した静止画が出ます。
- 「⬅戻る」を選ぶと静止画が消えて、撮影している画像になります。

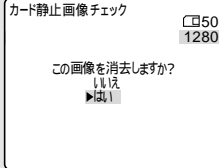
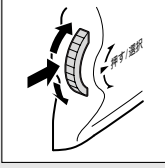
画像をプロテクトするとき

2 「画像プロテクト 」を選ぶ

カード静止画像チェック
50
1280
▶画像プロテクト
画像消去
戻る

- マルチダイヤルを押すと「 」が出て、消去できなくなります。
- もう一度押すと、解除できます。
- 「⬅戻る」を選ぶと静止画が消えて、撮影している画像になります。

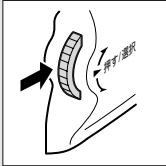
画像を消去するとき

2 「画像消去」を選ぶ

- 「⬅戻る」を選ぶと静止画が消えて、撮影している画像になります。

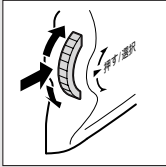
3 「はい」を選び、消去する

- 「この画像を消去しますか？」、「はい」、「いいえ」の選択画面になります。
- マルチダイヤルを押すと、画像が消去されて、撮影している画像になります。

静止画を見ながら設定する（画像設定）

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中 マルチダイヤルを押す

- 「画像設定」メニューが出て「画像プロテクト 」、「プリントマーク 」、「画像消去」の選択画面になります。
- 「⬅戻る」を選ぶと、メニューが消えます。

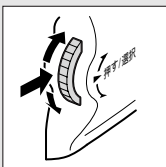
画像をプロテクトするとき

2 「画像プロテクト 」を選ぶ

- マルチダイヤルを押すと「 」が出て、消去できなくなります。もう一度押すと、解除できます。
- 「⬅戻る」を選ぶと、メニューが消えます。

プロテクトを解除する（消去可能にする）とき

プロテクト設定されている画像を選びます。２の操作でマルチダイヤルを押すと、「 」が消えて、消去可能になります。

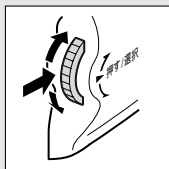
プリントマークを付けるとき

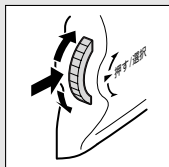
2 「プリントマーク 」を選ぶ

- マルチダイヤルを押すと「 」のプリントマークが付きます。もう一度押すと、プリントマークを消去できます。
- 「⬅戻る」を選ぶと、メニューが消えます。

プリントマークを消去するとき

プリントマークが付いている画像を選びます。２の操作でマルチダイヤルを押すと、「 」が消えます。

画像を消去するとき

2 「画像消去」を選ぶ

- 「⬅戻る」を選ぶと、メニューが消えます。

3 「はい」を選び、消去する

- 「この画像を消去しますか？」、「はい」、「いいえ」の選択画面になります。
- マルチダイヤルを押すと、画像が消去されます。
- 消去した画像の１つ前の静止画が出ます。

応用編

静止画を消えないようにする（プロテクト）

ここでは、カード再生モードで、インデックス画面を表示しているときに「カード実行」サブメニューからプロテクトの設定／解除する操作を説明します。

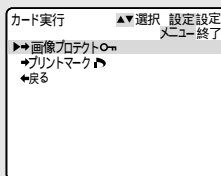
- 「カード静止画像チェック（📖 145）」と「画像設定（📖 146）」での操作については、参照ページをご覧ください。
- あらかじめ静止画を記録したメモリーカードを入れておいてください。

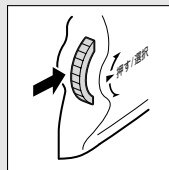
インデックス画面で静止画をプロテクトする

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中 インデックス画面にする

- インデックス画面ボタンを押します。
- ６つの静止画が出るインデックス画面になります。
- プロテクトする静止画で選びます。（「インデックス画面で静止画を選ぶ」操作2 📖 143）

2 「カード実行」サブメニューから「➡画像プロテクト🔑」を選ぶ（📖 86）

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「➡画像プロテクト🔑」を選びます。

3 プロテクトする

- マルチダイヤルを押すと、「🔑」が出て、消去できなくなります。もう一度押すと、解除できます。

プロテクトを解除する（消去可能にする）とき

プロテクト設定されている画像を選びます。3の操作でマルチダイヤルを押すと🔑が消え、消去可能になります。

印刷したい静止画を指定する（プリントマーク）

ここでは、カード再生モードの「カード実行」サブメニューでの操作を説明します。

- インデックス画面を表示しているときに「カード実行」サブメニューからプリントマークを付ける／消去します。
- 静止画を１枚表示しているときに「カード実行」サブメニューからすべてのプリントマークを消去します。

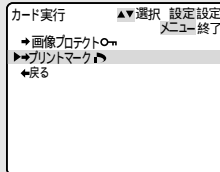
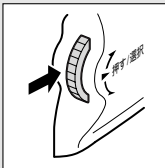
- 「画像設定（📖 146）」での操作については、参照ページをご覧ください。
- あらかじめ静止画を記録したメモリーカードを入れておいてください。

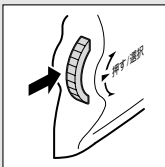
インデックス画面でプリントマークを付ける

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中 インデックス画面にする

- インデックス画面ボタンを押します。
- ６つの静止画が出るインデックス画面になります。
- プリントする静止画を選びます。（「インデックス画面で静止画を選ぶ」操作2 📖 143）

2 「カード実行」サブメニューから「➡プリントマーク」を選ぶ（📖 86）

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「➡プリントマーク」を選びます。

3 プリントマークを付ける

- マルチダイヤルを押すと、「」のプリントマークが付きます。もう一度押すと、プリントマークを消去できます。
- 撮影枚数によっては、プリントマークの設定に時間がかかることがあります。

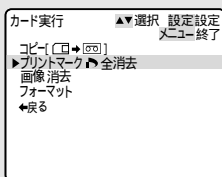
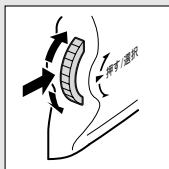
プリントマークを解除するときは

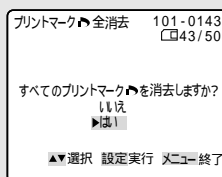
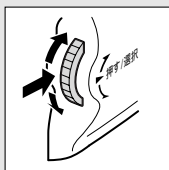
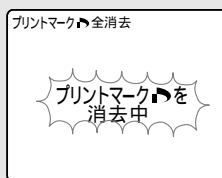
プリントマークが付いている画像を選びます。3の操作でマルチダイヤルを押すと が消えます。

応用編

すべてのプリントマークを消去する

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中 「カード実行」サブメニューから「プリントマーク 全消去」を選ぶ（📖86）

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「プリントマーク 全消去」を選びます。

2 「はい」を選び、プリントマークを消去する

- 「すべてのプリントマーク を消去しますか？」と「はい」、「いいえ」の選択画面になります。
- マルチダイヤルを押すとすべてのプリントマークが消去されます。

静止画を消す（消去）

ここでは、カード再生モードで、静止画を１枚表示しているときに「カード実行」サブメニューから１枚消去／全消去する操作を説明します。

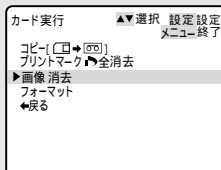
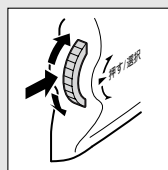
● 「カード静止画像チェック（📖 145）」と「画像設定（📖 146）」での操作については、参照ページをご覧ください。
● あらかじめ静止画を記録したメモリーカードを入れておいてください。

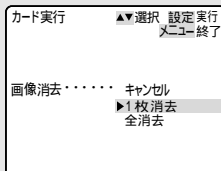
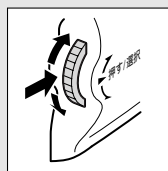
選んだ１枚の画像を消去する（１枚消去）

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中
消去する静止画を選ぶ

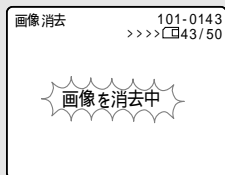
- インデックス画面やカードジャンプ機能などを使います。インデックス画面を使った場合は、静止画を選んだ後にインデックス画面を終了します。

2 「カード実行」サブメニューから「画像消去」を選ぶ（📖 86）

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「画像消去」を選びます。

3 「1枚消去」を選ぶ

- 「キャンセル」、「１枚消去」、「全消去」の選択画面になります。
- 誤って「画像消去」の項目を選んでしまったときなど、画像消去しないときは「キャンセル」を選んで、マルチダイヤルを押してください。

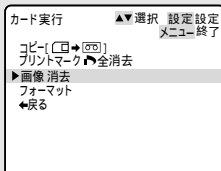
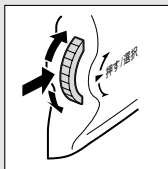
4 「はい」を選び、消去する

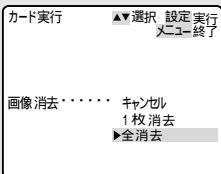
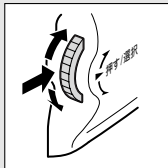
- 「この画像を消去しますか？」と「いいえ」、「はい」の選択画面になります。
- マルチダイヤルを押すと、画像が消去されます。
- 続けて別の画像を消去するときは、＋または－ボタンで消去する画像を選びます。次に「はい」を選び、マルチダイヤルを押すと、画像は消去されます。

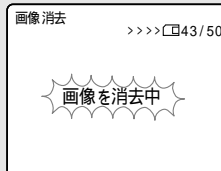
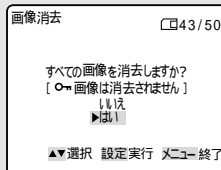
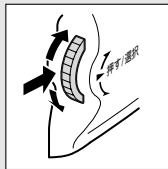
応用編

- 「いいえ」を選んだときには、「キャンセル」、「１枚消去」、「全消去」の選択画面に戻ります。

すべての静止画を消去する（全消去）

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 静止画再生中
「カード実行」サブメニューから「画像消去」を選ぶ（86）

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「画像消去」を選びます。

2 「全消去」を選ぶ

- 「キャンセル」、「１枚消去」、「全消去」の選択画面になります。
- 誤って「画像消去」の項目を選んでしまったときなど、画像消去しないときは「キャンセル」を選んで、マルチダイヤルを押してください。

3 「はい」を選び、消去する

- 「すべての画像を消去しますか？」と「いいえ」、「はい」の選択画面になります。
- マルチダイヤルを押すと、（プロテクトした）画像を除いたすべての静止画が消去されます。
- 「いいえ」を選んだときには、「キャンセル」、「１枚消去」、「全消去」の選択画面に戻ります。

メモリーカードの静止画とカメラで撮影している画像を合成してテープに記録する（カードミックス）

メモリーカードに記録してある静止画とカメラで撮影している画像を合成できますので、タイトルやフレームを付けたりしてビデオを楽しく演出できます。

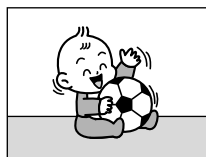
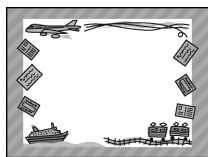
カードクロマキー

イラストやフレームの静止画とカメラの画像を合成します。
静止画の中の青い部分にカメラで撮影している画像が写ります（例では画面の中心が青になります）。

● ミックスレベルの調整：静止画の青い部分の調整

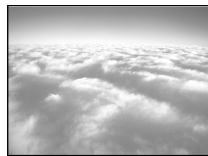
カードルミキー

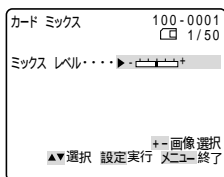
イラストやタイトルなどの静止画とカメラの画像を合成します。
静止画の中の明るい部分にカメラで撮影している画像が写ります（例では白い紙が明るい部分、イラストや枠の部分の文字が暗い部分になります）。
旅行やイベントなどのタイトルなどに使うときはあらかじめメモリーカードに記録しておいてください。

● ミックスレベルの調整：静止画の明るい部分の調整

カメラクロマキー

静止画とカメラの画像を合成します。
カーテンなど青い背景の前で撮影します。被写体など青以外の部分が静止画の上に写ります。

● ミックスレベルの調整：カメラで撮影している画像の青い部分の調整

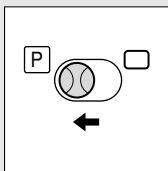
応用編

ミックスレベル

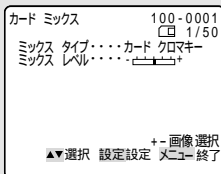
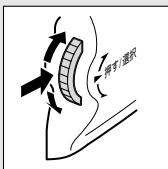
ミックスレベルは指標を参考に、画面を見ながら調整してください。

アクセサリーキットAK-540に付属のメモリーカードではサンプル画像をカードクロマキーで8枚、カードルミキーで5枚、カメラクロマキーで2枚用意してあります（サンプル画像はプロテクト設定してあります）。

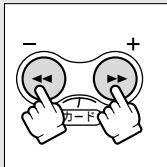
● あらかじめ静止画を記録したメモリーカードと記録可能なテープを入れておいてください。

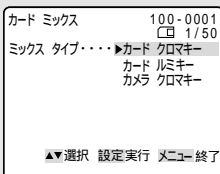
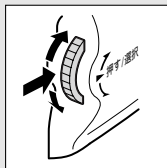
カメラモード 再生(VTR)モード カードカメラモード カード再生モード

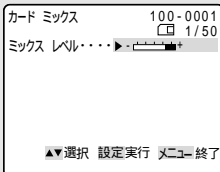
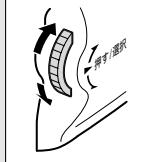
1 電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カードり換えスイッチを「テープ」にする

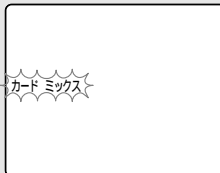
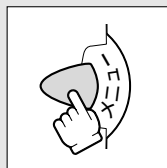
2 Ⓟにする

- 撮影モード切り換えスイッチをⓅにして、撮影モードを選びます。（📖66）

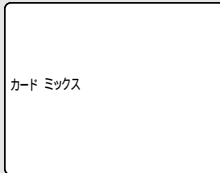
3 「カードミックス」サブメニューを出す（📖86）

- メニューボタンを押すと、「カメラメニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カードミックス」を選びます。

4 カードの静止画を選ぶ

- カード ✚ またはカード ━ ボタンを押します。

5「ミックスタイプ」を選ぶ

- 静止画とカメラで撮影している画像が、合成された画面になります。

6「ミックスレベル」を調整する

- 画面を見ながら、マルチダイヤルを回して調整します。

7 メニューを消す

- メニューボタンを押します。
- 「カードミックス」表示が点滅します。

8 カードミックスを入／切する

カード ミックス

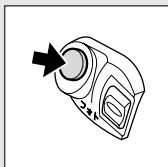
- カードミックスボタンを押します。
- 「カードミックス」表示が点灯に変わり、合成された画面になります。

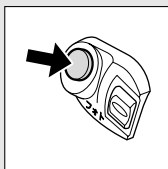
応用編

合成した画像を動画でテープに録画するときは

1 スタート／ストップボタンを押す

合成した画像を静止画でテープに録画するときは

1 フォトボタンを浅く押す

- ◉が白色に点滅したあと、緑色の点灯に変わります。

2 フォトボタンを深く押す

- ◉が消え、静止画撮影が始まります。
- 約6.5秒後（2倍／3倍録画モード時は約8秒後）に撮影一時停止になります。

補足

- 電源スイッチを切り換えたときは、カードミックスで使用する静止画を選びなおしてください。
- カードミックスを行うときは、154〜155ページの1〜4の操作を必ず行ってください。

テープの静止画をメモリーカードにコピーする

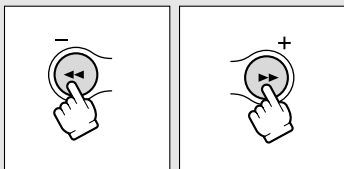
テープに記録してある静止画をフォトサーチで検索しながら、メモリーカードに自動的にコピーできます。

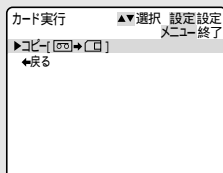
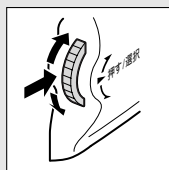
- 選んだ静止画以降のすべての静止画をメモリーカードにコピーします。
- テープからカードに記録される静止画の画像サイズは、640×480です。
- テープの静止画をカードにコピーしたときの日付/時刻が、日時としてカードに記録されます。

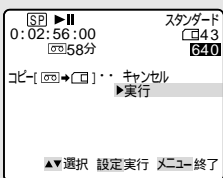
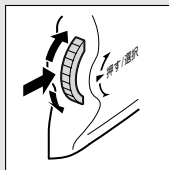
- あらかじめ記録可能なメモリーカードと録画したテープを入れておいてください。

カメラモード　**再生(VTR)モード**　カードカメラモード　カード再生モード

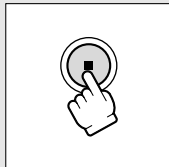
1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする

2 静止画を探す

- 早送り、巻き戻しボタンなどで、メモリーカードにコピーしたい静止画の手前で停止、または一時停止します。
- テープに記録している静止画すべてをコピーするときは、テープを最初まで巻き戻してください。

3 「カード実行」サブメニューから「コピー 📼 → 🗂 」を選ぶ（📖86）

- メニューボタンを押すと、「VTRメニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「コピー 📼 → 🗂 」を選びます。

4 「実行」を選ぶ

- マルチダイヤルを押すと、コピーが始まります。
- コピーを行わないときは「キャンセル」を選んでください。

応用編

5 コピーを終える

- 希望の静止画のコピーが終わったら、停止ボタンを押します。

補 足

- テープがおしまいになったり、メモリーカードの容量がいっぱいになると*、コピーは終了します。
  *「カードがいっぱいです」の表示が出ます。

メモリーカードの静止画をテープにコピーする

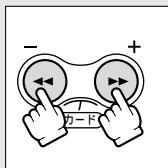
メモリーカードに記録してある静止画をテープにコピー（フォト記録）できます。
- 選んだ静止画以降のすべての静止画をテープにコピーします。
- カードの静止画をテープにコピーしたときの日付/時刻が、日時としてテープに記録されます。
- カードの静止画をテープにコピーするときは、2倍／3倍録画モードは選択できません。

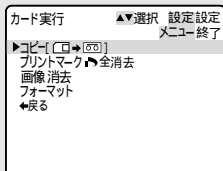
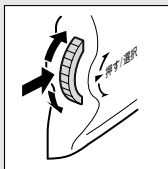
- あらかじめ静止画を記録したメモリーカードと記録可能なテープを入れておいてください。

カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「カード」にする

- 最後に記録した静止画が出ます。

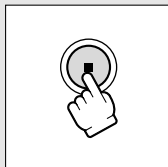
2 静止画を選ぶ

- カード＋、カード−ボタンを押してコピーをする始めの静止画を選びます。
- メモリーカードに記録している静止画すべてをコピーするときは、最初の静止画を選んでください。

3 「カード実行」サブメニューから「コピー □ → ▭」を選ぶ（□86）

カード実行　▲▼選択　設定設定　メニュー終了
▶コピー [□➜▭]
プリントマーク全消去
画像消去
フォーマット
←戻る

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「コピー □ → ▭」を選びます。

4 「実行」を選ぶ

- マルチダイヤルを押すと、コピーが始まります。
- 現在画面に出ている静止画がテープにフォト記録（１枚の静止画あたり約6.5秒）され、記録が終わると次の静止画の記録になります。
  メモリーカードの最後の静止画をフォト記録し終わったり、テープがおしまいになると、コピーは終了します。

5 コピーを終える

- 希望の静止画のコピーが終わったら、■ボタンを押します。

応用編

メモリーカードを初期化（フォーマット）する

フォーマットは、新しいメモリーカードを使うときや、「カードエラーです」という警告表示が出たときに行います。また、メモリーカード内の静止画などの情報すべてを消去するときにも行います。*

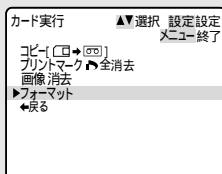
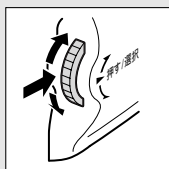
* フォーマットを行うと、プロテクト設定した静止画（メモリーカード（アクセサリーキットAK-540に付属）に入っているサンプル画像も含む）まで、すべての情報が消えてしまいます。

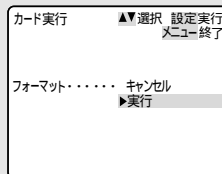
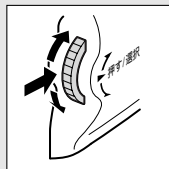
- フォーマットして一度消去した静止画などはもとに戻せません。フォーマットする前に確認してください。
- アクセサリーキットAK-540に付属のマルチメディアカード以外のメモリーカードを使用する際には、本機でフォーマットしてください。

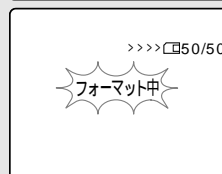
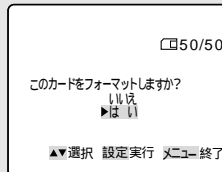
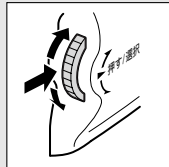
カメラモード　再生(VTR)モード　カードカメラモード　**カード再生モード**

1 電源スイッチを「再生（VTR）」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「カード」にする

- 最後に記録した静止画が出ます。

2 「カード実行」サブメニューから「フォーマット」を選ぶ（📖86）

- メニューボタンを押すと、「カード再生メニュー」が出ます。
- マルチダイヤルで「カード実行」を選び、次に「フォーマット」を選びます。

3 「実行」を選ぶ

- 「キャンセル」、「実行」の選択画面になります。
- 誤って「フォーマット」の項目を選んでしまったときなどは「キャンセル」を選んで、マルチダイヤルを押してください。

4 「はい」を選び、フォーマットする

- 「このカードをフォーマットしますか？」と「いいえ」、「はい」の選択画面になります。
- マルチダイヤルを押すと、メモリーカードはフォーマットされ、すべての情報が消去されます。
- 「いいえ」を選んだときには、「キャンセル」、「実行」の選択画面に戻ります。

その他

本機でメモリーカードに記録した画像は、市販のマルチメディアカード、またはSDメモリーカード専用の製品によりお手持ちのパソコンに取り込むことができます。

- PCカードアダプター：　パソコン（主にノートパソコン）にあるPCカードスロットにマルチメディアカード／SDメモリーカードを入れるためのアダプター
- USBカードリーダー：　パソコンのUSB端子に接続して、マルチメディアカード／SDメモリーカードを直接読むためのアダプター
- FDアダプター：　パソコンのフロッピーディスクドライブにマルチメディアカードを入れるためのアダプター

● アクセサリーキットAK-540に付属のメモリーカードに入っているサンプル画像を消去してしまったときは、下記のアドレスのホームページからダウンロードできます。＊

http://www.canon-sales.co.jp/Product/video/mmc.html

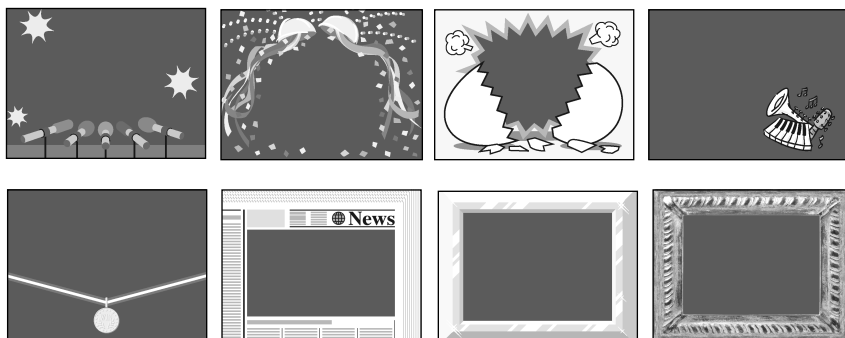
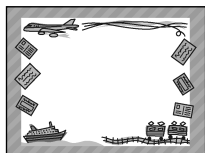
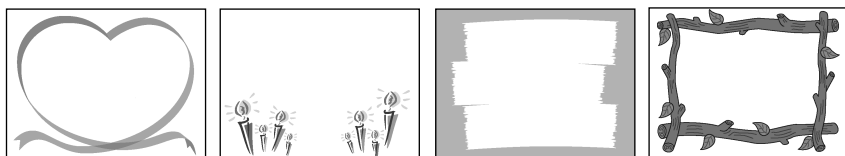
＊ パソコンからメモリーカードにサンプル画像を入れるためには、ＰＣカードアダプターなどが必要になります。

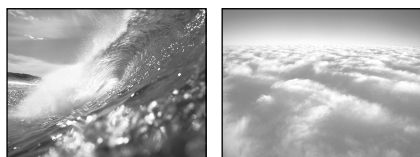
マルチメディアカード、SDメモリーカード　取り扱い上のご注意

- 新規にメモリーカード（マルチメディアカード、SDメモリーカード）を購入した際には、本機でフォーマットを行ってください。パソコンなど本機以外でフォーマットしたメモリーカードは、正常に使えないことがあります。
- メモリーカードに記録した画像などのデータは、パソコンでMOなどの外部記憶機器やハードディスクを使ってバックアップを取っておいてください。メモリーカードの故障、静電気などにより記録したデータが破損したり、消えることがあります。その場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- カード動作ランプが点滅中は絶対にメモリーカードを出したり、ビデオカメラなどの電源を切ったり、ビデオカメラの電源を取りはずしたりしないでください。
- 強い磁気の発生する場所で使わないでください。
- 高温、多湿の場所に放置しないでください。
- 分解しないでください。
- ぬらしたり、曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 温度差のある場所へ急に移動するとカードの内部、表面に結露することがあります。結露したときは、そのまま使用せず、水滴が自然に消えるまで、常温で放置してください。
- カードの裏にある端子部分にごみや水などの異物を付着させたり、手で触れたりしないでください。
- カードの保管、持ち運ぶときは端子部分の保護のため、付属のケースに入れてください。
- メモリーカードには表裏、前後の区別があります。正しくない方向に無理に入れないでください。破損の恐れがあります。
- ラベルをはがしたり、他のシールなどを貼ったりしないでください。目的別に使い分けるときは、ケースにシールなどを貼ってください。

サンプル画像

アクセサリーキットAK-540に付属のメモリーカードに入っているサンプル画像です。
メモリーカードにはカードクロマキー用に8枚、カードルミキー用に5枚、カメラクロマキー用に2枚、合計15枚入っています。

カードクロマキー用

カードルミキー用

- アクセサリーキットAK-540に付属のメモリーカード（マルチメディアカード）に記録されている画像データは、お買い上げになったビデオカメラでの画像合成を個人で楽しむ目的以外には使用しないでください。

カメラクロマキー用

PhotoEssentials - イメージライブラリ
PhotoEssentialsは、使用権/著作権、肖像権の問題のない高品質なイメージ画像を収録したCD-ROMで、広告宣伝、カタログ、レポート、マルチメディアドキュメント、Webサイト、本、パッケージなどの幅広い用途にお使いいただけます。
PhotoEssentialsについてより詳しい情報をお知りになりたい方は、下記にご連絡ください。
株式会社データクラフト
（http://www.datacraft.co.jp）

電源スイッチを切り換えても憶えている項目

電源スイッチを切り換えたときでも、次の機能の設定は憶えています。
◯：設定を憶えています。　×：設定を憶えていません。「　」内の状態に戻ります。

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th colspan="2">電源スイッチを「切」にする</th><th></th></tr>
<tr><td colspan="5">カメラモード、カードカメラモード</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>カメラモード</td><td>カードカメラモード</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">● プログラムAEモードの種類</td><td colspan="2">◯</td><td>64</td></tr>
<tr><td colspan="2">● オートフォーカスの入/切</td><td colspan="2">◯</td><td>69</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 露出ロックの入/自動</td><td colspan="2">×（「自動」になる）</td><td>72</td></tr>
<tr><td colspan="2">● デジタルエフェクトの入/切</td><td>×</td><td>—</td><td>99</td></tr>
<tr><td colspan="2">● ヘッドホンの音量の設定</td><td>◯</td><td>—</td><td>53</td></tr>
<tr><td colspan="2">● ストロボの設定</td><td colspan="2">◯</td><td>60</td></tr>
<tr><td colspan="2">● セルフタイマーの入/切</td><td colspan="2">×（「切」になる）</td><td>62</td></tr>
<tr><td colspan="2">● オンスクリーンの入/切</td><td colspan="2">◯</td><td>167</td></tr>
<tr><td colspan="2">● ゼロセットメモリーのカウンター値</td><td>◯</td><td>—</td><td>109</td></tr>
<tr><td colspan="4">カメラメニュー、カードカメラメニュー項目の設定</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">● カードミックス選択</td><td>タイプ</td><td>◯</td><td>—</td><td>153</td></tr>
<tr><td>レベル</td><td>◯</td><td>—</td><td>153</td></tr>
<tr><td>画像選択</td><td>×</td><td>—</td><td>153</td></tr>
<tr><td colspan="2">● シャッタースピードの設定</td><td colspan="2">◯</td><td>92</td></tr>
<tr><td colspan="2">● デジタルズームの入/切</td><td>◯</td><td>—</td><td>47</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 手ぶれ補正の入/切</td><td colspan="2">◯</td><td>89</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 16：9の入/切</td><td>◯</td><td>—</td><td>75</td></tr>
<tr><td colspan="2">● ホワイトバランスの設定</td><td colspan="2">◯</td><td>94</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 録画モードの設定</td><td>◯</td><td>—</td><td>91</td></tr>
<tr><td colspan="2">● ウィンドカットの入/切</td><td>◯</td><td>—</td><td>90</td></tr>
<tr><td colspan="2">● オーディオモードの設定</td><td>◯</td><td>—</td><td>76</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 液晶画面明るさ調整</td><td colspan="2">◯</td><td>76</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 対面撮影の設定</td><td colspan="2">◯</td><td>57</td></tr>
<tr><td colspan="2">● オンスクリーンの入/切</td><td colspan="2">◯</td><td>77</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 日時表示の設定</td><td colspan="2">◯</td><td>45</td></tr>
<tr><td colspan="2">● リモコンコードの設定</td><td colspan="2">◯</td><td>116</td></tr>
<tr><td colspan="2">● 録画ランプの入/切</td><td>◯</td><td>—</td><td>77</td></tr>
<tr><td colspan="2">● お知らせブザーの入/切</td><td colspan="2">◯</td><td>77</td></tr>
<tr><td colspan="2">● エリア/サマータイムの設定</td><td colspan="2">◯</td><td>39</td></tr>
</table>

電源スイッチを切り換えても憶えている項目ーつづき

項目	電源スイッチを「切」にする		📖
カメラメニュー、カードカメラメニュー項目の設定			
	カメラモード	カードカメラモード	
● 日時設定	○		43
● 画質の設定	—	○	133
● 画像サイズの設定	—	○	134
● 番号リセットの入/切	—	○	135
● シャッター音の入/切	—	○	81
再生（VTR）モード、カード再生モード			
	再生(VTR)モード	カード再生モード	
● ヘッドホン音量の設定	○	—	53
● スピーカー音量の設定＊	○	—	53
● オンスクリーンの入/切	×（「切」になる）		167
● ゼロセットメモリーのカウンター値	○	—	109
● データコード表示の入/切	×（「切」になる）		113
● オーディオ12bit出力の選択	×（「ステレオ1」になる）	—	128
● ミックスバランスの設定	○	—	128
● サーチ選択のフォトサーチ/日付サーチの選択	×（「フォトサーチ」になる）	—	111、112
VTRメニュー、カード再生メニュー項目の設定			
● 録画モードの設定	○		91
● バイリンガルの設定	×（「メイン+サブ」になる）	—	129
● アフレコ入力の設定	○	—	126
● ウィンドカットの入/切	○	—	90
● オーディオモードの設定	○	—	78
● 画質の設定	○	—	133
● 番号リセットの入/切	○	—	135
● 液晶画面明るさ調整	○		79
● 再生時文字表示の入/切	○		79
● 日付オート表示の入/切	○	—	79
● データコードの設定	○	—	113
● 日時選択の設定	○		113
● リモコンコードの設定	○		116

＊ 再生（VTR）モードとカード再生モードで切り換えても憶えています。

項目	電源スイッチを「切」にする		📖
VTRメニュー、カード再生メニュー項目の設定			
	再生(VTR)モード	カード再生モード	
● 録画ランプの入/切	○		80
● お知らせブザーの入/切	○		80

撮影モード切り換えスイッチを切り換える／プログラムAEモードを切り換える

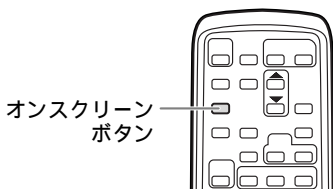
○：設定を憶えています。　×：設定を憶えていません。「　」内の状態に戻ります。

項目		カメラモード		カードカメラモード		📖
		□（全自動）にする	プログラムAEモードを切り換える	□（全自動）にする	プログラムAEモードを切り換える	
● プログラムAEモードの種類		×（「オート」になる）	—	×（「オート」になる）	—	64
● オートフォーカスの入/切		×（「入」になる）	○	×（「入」になる）	○	69
● 露出ロックの入/自動		×	×（「自動」になる）	×	×（「自動」になる）	72
● デジタルエフェクトの入/切		×（「切」になる）	○	—		99
● ヘッドホンの音量の設定		○		—		53
● ストロボの設定		○		○		60
● セルフタイマーの入/切		○		○		62
● オンスクリーンの入/切		○		○		167
● ゼロセットメモリーのカウンター値		○		—		109
メニュー項目の設定						
● カードミックス選択	タイプ	○	○	—		153
	レベル	○	○	—		153
	画像選択	○	○	—		153
● シャッタースピードの設定		×（「オート」になる）		×（「オート」になる）		92
● デジタルズームの入/切		○		—		47
● 手ぶれ補正の入/切		×（「入」になる）	○	×（「入」になる）	○	89

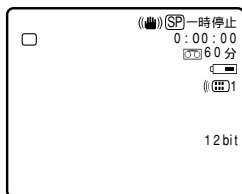
応用編

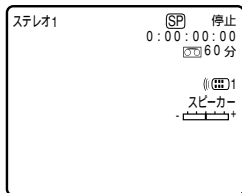
項目	カメラモード		カードカメラモード		📖
	□（全自動）にする	プログラムAEモードを切り換える	□（全自動）にする	プログラムAEモードを切り換える	
メニュー項目の設定					
● 16：9の入/切 （□（全自動）では「切」になる）	（○：撮影モード切り換えスイッチをⓅにするともとに戻る）	○	（○：撮影モード切り換えスイッチをⓅにするともとに戻る）	○	75
● ホワイトバランスの設定	×（「オート」になる）	○	×（「オート」になる）	○	94
● 録画モードの設定	○		—		91
● ウィンドカットの入/切	○		—		90
● オーディオモードの設定	○		—		76
● 液晶画面明るさ調整	○		○		76
● 対面撮影の設定	○		○		57
● オンスクリーンの入/切	○		○		77
● 日時表示の設定	○		○		45
● リモコンコードの設定	○		○		116
● 録画ランプの入/切	○		—		77
● お知らせブザーの入/切	○		○		77
● エリア/サマータイムの設定	○		○		39
● 日時設定	○		○		43
● 画質の設定	—		○		133
● 画像サイズの設定	—		○		134
● 番号リセットの入/切	—		○		135
● シャッター音の入/切	—		○		81

液晶画面／ビューファインダーの表示

液晶画面／ビューファインダーは、カメラの動作状態のさまざまな情報を表示します。
液晶画面／ビューファインダーの情報を本機と接続したテレビにも表示できます。

電源スイッチが「カメラ」のとき：
テレビ画面上での表示が不要なときはオンスクリーンボタンを押して消してください。もう一回押すと表示します。
電源スイッチが「再生（VTR）」のとき：
オンスクリーンボタンを押すと表示し、もう一回押すと消えます。

自動で撮る/テレビで見るときの表示

は点滅表示を示しています。（　）内の数字は参照ページです。

カメラモードで □（全自動）を選んで、テープを入れたときの表示です。

● リモコンコード設定とオーディオモードは、約4秒後に消えます。

再生(VTR)モードでテープを入れたときの表示です。

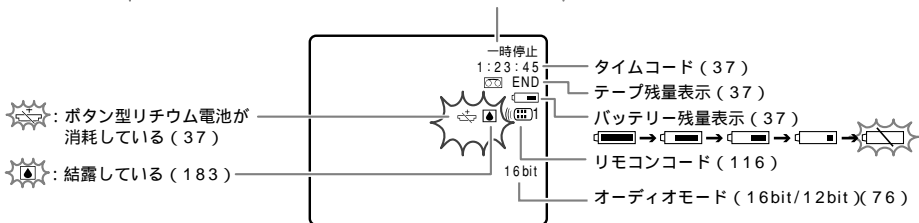
● リモコンコードと音量表示は、約4秒後に消えます。

応用編

＊テープ走行表示

録画
一時停止
停止
取出し
再生
▶▶ 早送り
◀◀ 巻戻し

▶▶ / ◀◀ ：早送り再生／巻き戻し再生（51）
×2▶ / ◀×2：正方向／逆方向2倍速再生（52）
×1▶ / ◀×1：正方向／逆方向1倍速再生（52）
/ 5▶ / ◀ / 5：正方向／逆方向1/5倍速再生（52）
‖▶ / ◀‖ ：正方向／逆方向コマ送り再生（52）
▶‖ / ‖◀ ：正方向／逆方向静止画再生（51、52）
▶▶| / |◀◀ ：正方向／逆方向日付／フォトサーチ（111、112）

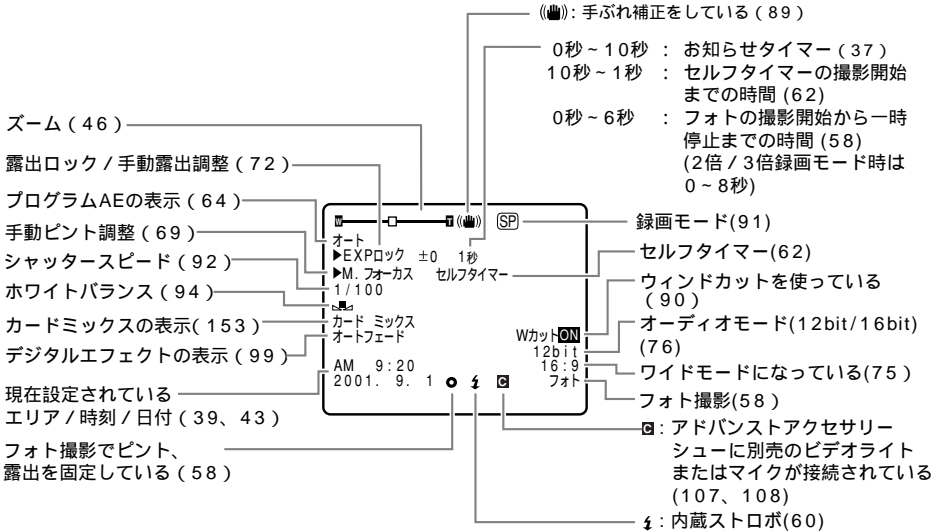
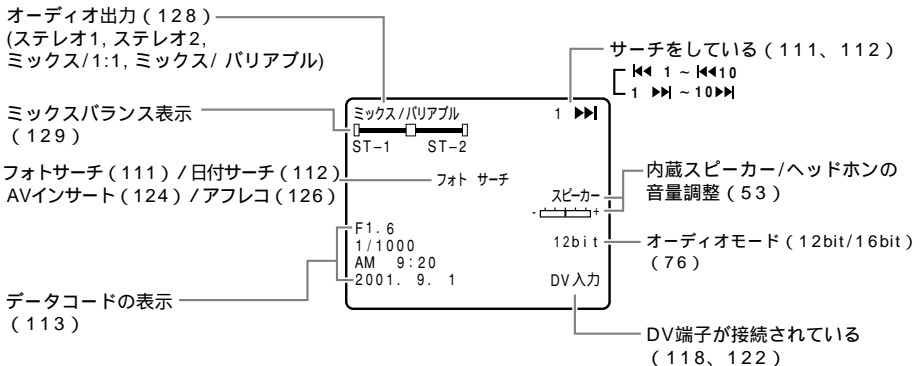
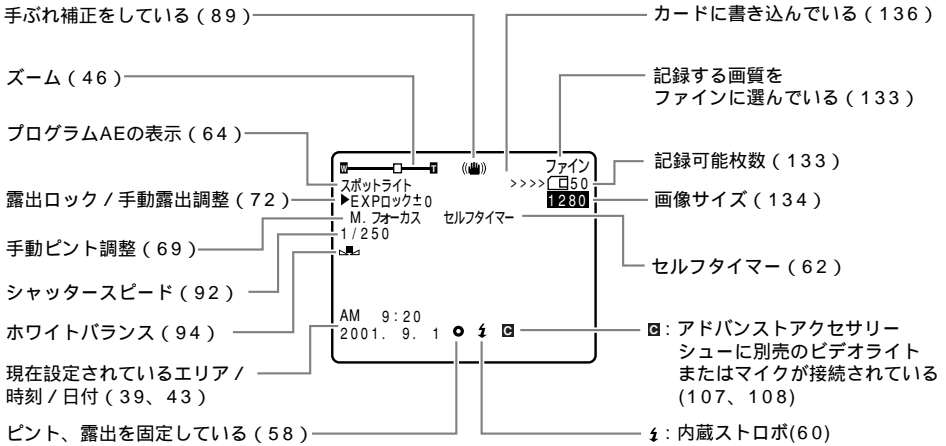
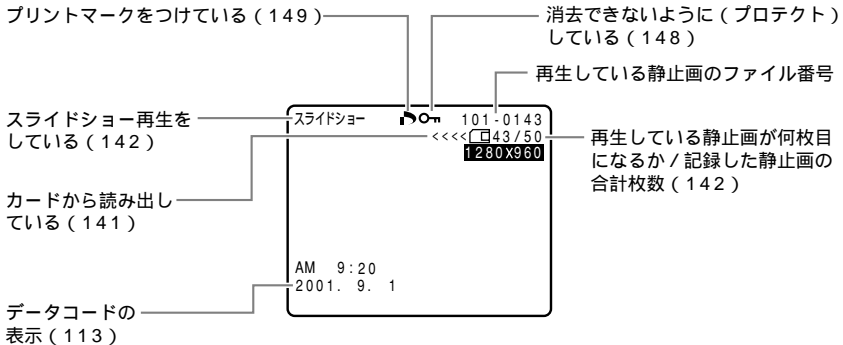
リターン▶▶ / ◀◀リターン
：ゼロセットメモリー早送り／巻き戻し（109）
● / ●‖：AVインサート録画／録画一時停止（124）
⊖ / ⊖‖：アフレコ音声録画／録画一時停止（126）

効果的に使うときの表示

カメラモード

再生（VTR）モード

カードカメラモード

カード再生モード

応用編

警告文表示(約4秒間表示されます)

表示	説明
エリア／日時を設定してください	世界時計のエリアまたは日時を設定していません。世界時計のエリアと日時を設定してください（📖 39、43)。
バッテリーパックを取りかえてください	バッテリーパックが消耗しています。十分に充電されたバッテリーと交換してください（📖 22)。
カセットの誤消去防止ツマミを確認してください	カセットが録画できない状態になっています。別のカセットと入れ換えるか、カセットの誤消去防止つまみをRECに切り換えてください（📖 30)。
カセットを取出してください	テープ保護のため、本機が動作を中止しました。カセットを取り出して最初から操作をやり直してください（📖 29)。
ＤＶ入力を確認してください	ＤＶケーブルがＤＶ端子にきちんと接続されていない、または接続されたデジタルビデオ機器の電源が切れています。ケーブルと端子、電源を確認してください（📖 118、122)。
結露しています	ビデオカメラ内部に水滴がついている場合に表示されます。結露の項目をご覧ください（📖 183)。

警告文表示(約4秒間表示されます)

表示	説明
テープ終了です	テープが最後まで巻かれています。カセットを巻き戻す、または取り出してください（📖 29、50)。
テープを確認してください [録画モード]	長時間録画モードで記録された部分です。アフレコまたはＡＶインサートできません（📖 124、126)。
テープを確認してください [オーディオモード]	16bitまたは12bit 4チャンネルで記録された部分です。アフレコできません（📖 126)。
テープを確認してください [録画していません]	記録されていない部分のため、アフレコまたはＡＶインサートできません（📖 124、126)。
クリーニングカセットを使ってください [ヘッドよごれ]	録画を開始した直後、ビデオヘッドが汚れているときに表示されます。必ずビデオヘッドのクリーニングをしてください（📖 177)。
カードがありません	メモリーカードがビデオカメラ本体に入っていません（📖 132)。

警告文表示(約4秒間表示されます)

表示	説明
カードの 誤消去ツマミ を確認をしてください	SDメモリーカードが記録（書き込み）ができない状態になっています。SDメモリーカードの誤消去防止のつまみを記録できる状態に切り換えてください（📖 136)。
カードモードです	カードカメラモードのときに、スタート／ストップボタンを押した場合に表示されます。テープやメモリーカードに画像は記録されません。
画像がありません	メモリーカードに再生する画像がありません。
カードエラーです	メモリーカードにエラーがあり、記録、再生できません。 ● 一時的にカードエラーが起きる場合があります。 「カードエラーです」の表示が4秒後に消えて 🀫 が赤色で点滅するときは、電源を切り、メモリーカードを出し入れしてください。 🀫 が緑色点灯すれば、そのまま記録、再生できます。
カードがいっぱいです	メモリーカードに空き容量がありません。別のメモリーカードと入れ換えるか、画像を消去してください。
ファイル名 が 作成できません	ファイル番号やフォルダ番号が最大になった場合に表示されます。

警告文表示(約4秒間表示されます)

この画像は
再生できません

再生できない画像フォーマット、互換性のないJPEG画像、またはデータが破壊されている画像を再生しようとした場合に表示されます。

プリントマークエラー

プリントマークを51枚以上設定しようとした、またはマークファイルが編集不可能な場合に表示されます（📖 144)。

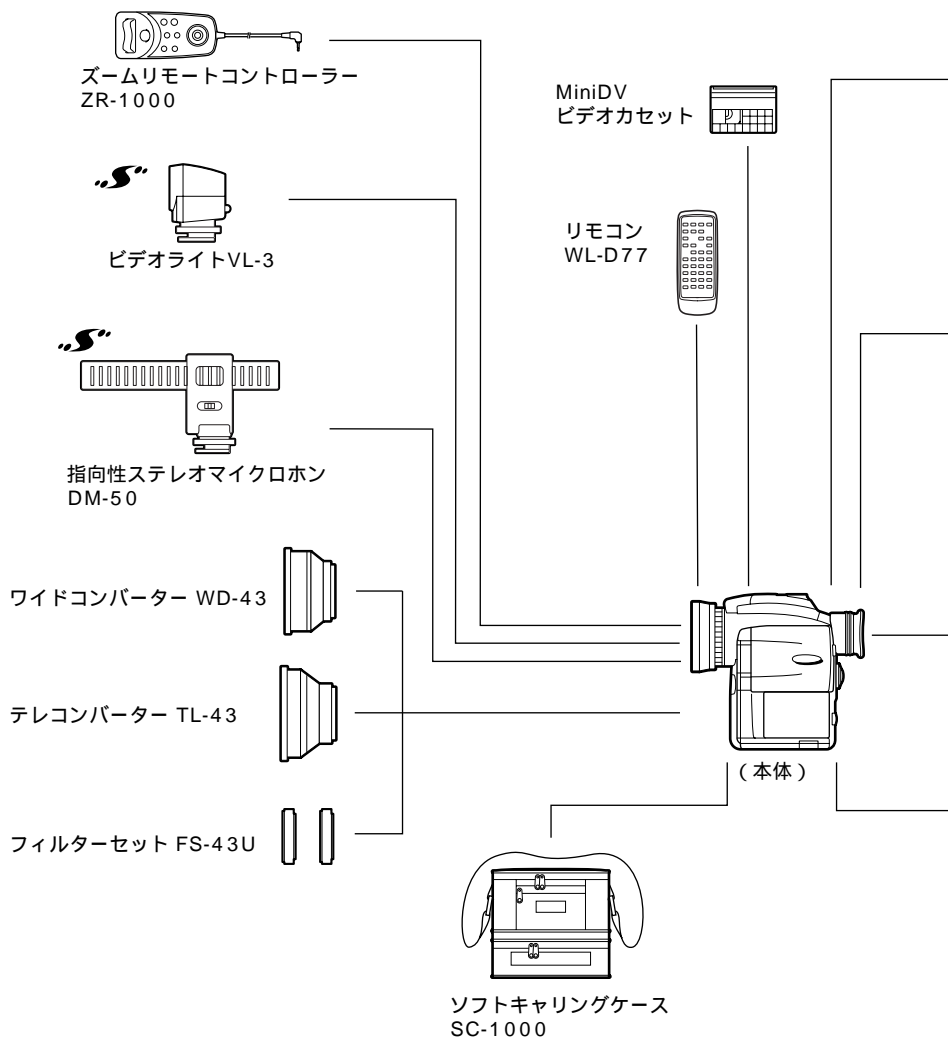
著作権保護信号(約4秒間表示されます)

コピー禁止テープです
再生できません

(本機が再生側の場合)
著作権保護信号が記録されているテープを再生した場合、青い画面上に表示されます。この表示が出るテープは再生することができません（📖 117)。

コピー禁止です

(本機が録画側の場合)
著作権保護信号が記録されているテープをダビング録画しようとした場合に、青い画面上に表示されます。この表示が出るテープは記録することができません。また、アナログ入力時に、テレビやビデオから出力される信号が乱れている場合にも表示されることがあります（📖 120、122)。

キヤノンビデオシステム

● キヤノンビデオ機器に他社製の電源関連製品（バッテリーパック、ACアダプターなど）を組み合わせた場合、 正しく取り付けられなかったり、正常に動作しないことがあります。ご注意ください。
キヤノンビデオ機器と他社製の電源関連製品を組み合わせてお使いになって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

バッテリーパック
BP-512/BP-511/
BP-522/BP-535

チャージアダプター
/カーバッテリーケーブルキット
CR-560

バッテリーパック
BP-512/BP-511/
BP-522/BP-535

ACパワーアダプター
CA-560

Sビデオケーブル S-150

テレビ

ステレオビデオケーブルSTV-250N

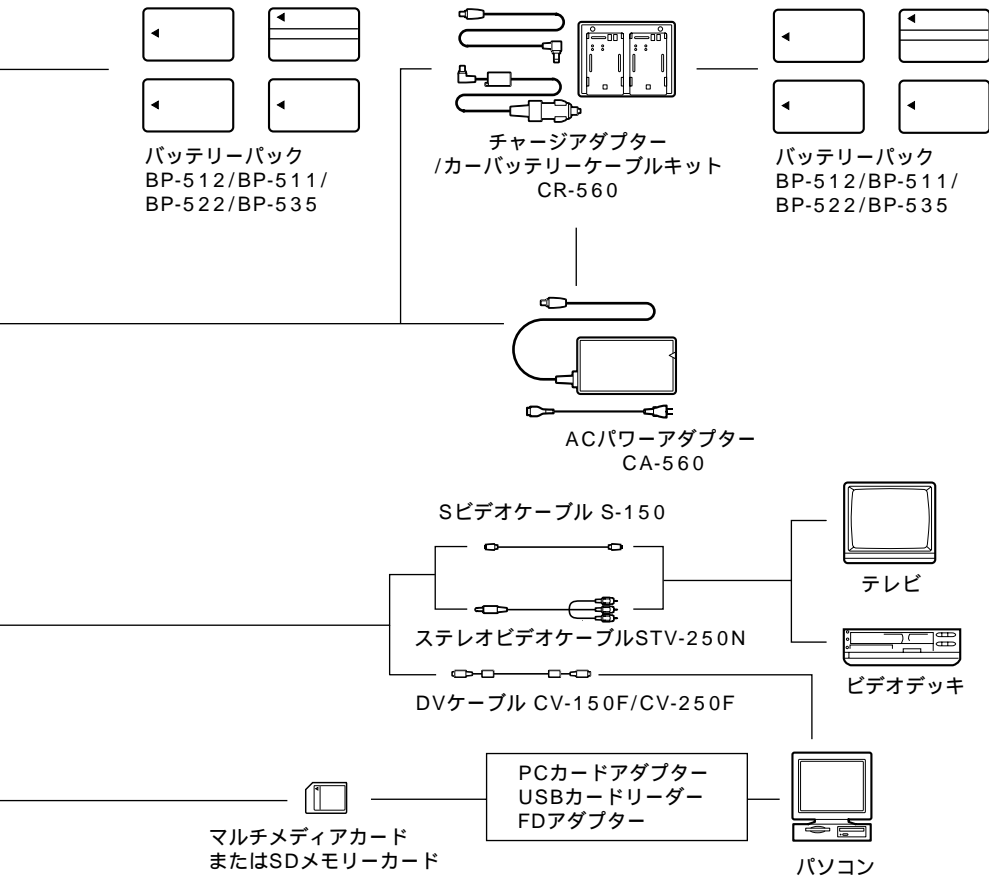
ビデオデッキ

DVケーブル CV-150F/CV-250F

PCカードアダプター
USBカードリーダー
FDアダプター

マルチメディアカード
またはSDメモリーカード

パソコン

応用編

本機で動作を確認しているメモリーカード（2001年7月現在）

マルチメディアカード

サンディスク（SanDisk）社製：8MB、16MB、32MB、64MB
日立製作所社製：16MB、32MB、64MB

SDメモリーカード

松下電器産業社製：16MB、32MB、64MB
東芝社製：32MB、64MB、128MB
●ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

このマークは、キヤノンのビデオ関連商品の純正マークです。キヤノンのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはキヤノンビデオ関連商品をおすすめします。

記載内容は、2001年7月現在のものです。

取り扱い上のご注意

ビデオカメラやカセット、カードを使うときは次のことに注意してください（使用したカセットやカードはケースに収納してください）。

液晶画面やビューファインダー、バッテリーパック、ストロボをつかんで、本機を持ち上げない

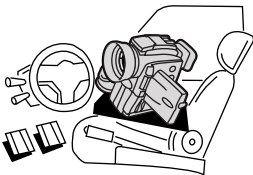
高温、多湿の場所に放置しない

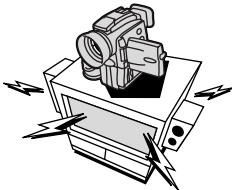
炎天下の密閉された車内など、高温や多湿の場所に製品を放置しないでください。

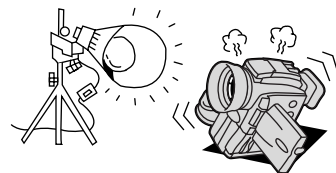
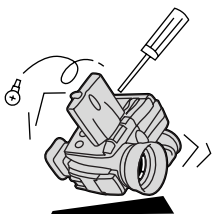
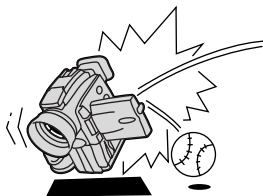
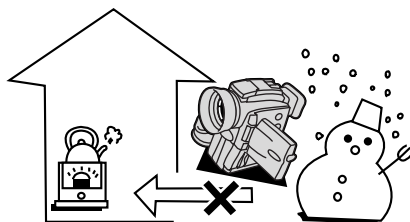
強い磁気の発生する場所で使わない

テレビや携帯電話の近くやテレビ塔の近くなど、強い電波や磁気を発生する場所での撮影は避けてください。画面がゆがんだり、ノイズが入ることがあります。

太陽や強いライトにレンズを向けない

レンズやファインダーの接眼レンズは、絶対に太陽や強いライトに向けないでください。また輝度差の大きな被写体にカメラを向けたまま放置しないでください。

ホコリや砂の多い場所では使わない

ホコリや砂のつきやすい場所での使用、保存は避けてください。レンズにホコリや砂がつくのを防止するために、使用後は必ずレンズキャップをつけてください。

照明器具に注意する

照明器具を使うときは、器具から発生する熱に十分注意してください。

分解しない
分解して内部に触れないでください。正常に作動しないときは、キヤノンサービスセンターにご相談ください。

振動や衝撃を与えない
強い振動や衝撃は故障の原因になります。製品はていねいに取り扱ってください。

極端な温度差にさらさない
寒い場所で使った製品を急に暖かい室内に持ち込むと、製品内部に水滴（結露）が生じることがあります。温度差のある場所へ移動するときは、事前にカセットを本体から取り出してください。万一、結露が起きたときは、「結露について」（183ページ）の指示にしたがってください。

ビデオヘッドをクリーニングする

液晶画面/ビューファインダーに「クリーニングカセットを使ってください[ヘッドよごれ]」と出ることがあります。また、テレビ番組はきれいに写るのに、ビデオでテープを再生すると画面がおかしくなったり、画像全体が青くなったりすることがあります。これは、ビデオヘッドの汚れが原因です。きれいな画像を撮影したり見るために約20時間使ったら、市販の乾式のヘッドクリーニングカセットを使ってビデオヘッドをきれいにしてください。

正常な画像

ビデオヘッドが汚れているときの画像

ヘッドクリーニングするときは
● 湿式のクリーニングカセットは使用しないでください。故障の原因となることがあります。

日常のお手入れ／保管上のご注意

大切なビデオカメラやビデオカセット、カードをより長くお使いいただくために、日常のお手入れや保管方法には十分注意してください。

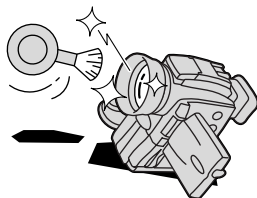
お手入れ

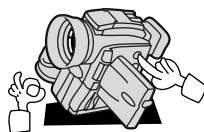
製品の汚れは乾いたやわらかい布で軽くふいてください。化学ぞうきんやシンナーなどの使用は、製品を傷めることがあるのでおやめください。

レンズはいつもきれいに

レンズの表面にホコリや汚れが付いていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。レンズを常にきれいに保つようにしてください。最初にブロアーでレンズ表面のゴミ、ホコリを取り除き、それから汚れをふき取るようにしてください。

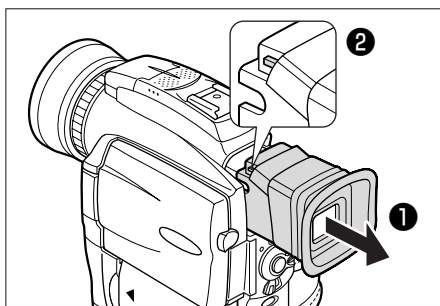
長期間使わないときは

製品を長期間ご使用にならない場合は、ホコリが少なく、湿度の低い、30℃以下の場所に保管してください。

各部のチェック

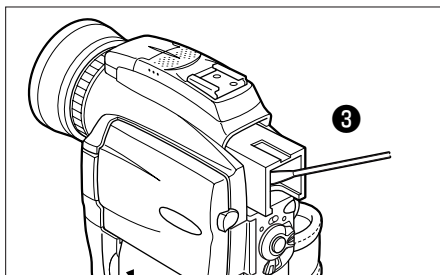
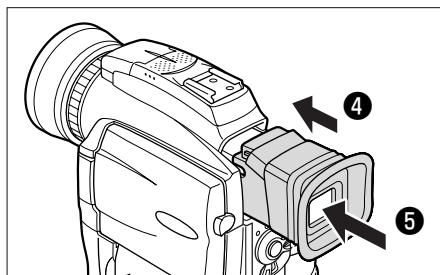
長期間使わなかった後のご使用や、重要な撮影の前には、各部の動作をチェックしてください。

液晶画面について

- 汚れたときは市販の眼鏡クリーナー（布製）などで拭いてください。
- 温度差の激しいところでは、液晶画面に水滴がつくことがあります。柔らかい乾いた布で拭いてください。
- 寒冷地などで本機が冷え切っている場合は、電源を入れた直後は液晶画面が通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると、通常の明るさになります。

ビューファインダーのお手入れ

ビューファインダー内部のゴミを取り除く

接眼アダプターをはずす

❶ ビューファインダーを止まるところまで、まっすぐ引き出す

❷ 取りはずしボタンをクリップの先で押しながら、接眼アダプターをまっすぐ引き抜く

❸ 綿棒を差し込み、ガラス部のゴミを取り除く

接眼アダプターを取り付ける

❹ 接眼アダプターをビューファインダーに合わせてはめる

❺ 押し込む

注意

● ガラス部の表面は傷つきやすいので、ご注意ください。

こんなときは

故障かな？と思っても、修理に出す前にもう一度確認してください。
特にほかの機器と接続しているときは、ケーブルの接続も確認してください。点検しても直らないときは、ご購入の店、またはキヤノンサービスセンターにご相談ください。

	こんなときには	考えられる原因	どうするの？	参照ページ
電源	**電源が入らない。**	バッテリーパックが消耗している。	十分に充電したバッテリーパックと交換する。	22
		バッテリーパックが正しく装着されていない。	バッテリーパックを正しく装着し直す。	22
	途中で電源が切れる。	バッテリーパックが消耗している。	十分に充電したバッテリーパックと交換する。	22
		撮影一時停止状態が5分以上続いた。	もう一度電源を入れる。	35
	グリップカバーを開いてもカセット入れが動かない。	バッテリーパックが消耗している。	十分に充電したバッテリーパックと交換する。	22
		グリップカバーが完全に開いていない。	止まるまで開く。	29
	カセット入れが動作中に止まって動かない。	バッテリーパックが消耗している。	十分に充電したバッテリーパックと交換する。	22
		本機が故障している。	サービスセンターにご相談ください。	裏表紙
	液晶画面／ビューファインダーがついたり消えたりをくり返す。	バッテリーパックが消耗している。	十分に充電したバッテリーパックと交換する。	22
撮影時・再生時	**操作ボタンを押しても動かない。**	電源が入っていない。	電源を入れる。	35 50
		カセットが入っていない。	カセットを入れる。	29
	電源ランプが点滅し液晶画面／ビューファインダーに「」が点滅する。	バッテリーパックが消耗している。	十分に充電したバッテリーパックと交換する。	22
	電源ランプが点滅し液晶画面／ビューファインダーに「」が点滅する。	ビデオカメラの内部に水滴が付いた。	結露の項目をご覧ください。	183
	電源ランプが点滅し液晶画面／ビューファインダーに「カセットを取り出してください」が点滅する。	保護機能が働いている。	カセットを一度取り出して、入れ直す。	29
	リモコンが動作しない。	本機とリモコンのリモコンコードが異なるかメニューでリモコンセンサーを止めている（液晶画面／ビューファインダーに「」が出ている）。	メニューでリモコンコードを「1」または「2」にする。	116
		リモコンの電池が消耗した。	新しい電池と交換する。	34
	「」が赤く点滅する。	ストロボ充電中に異常があった。	電源を切ってからバッテリーパックなどの電源を取りはずし、サービスセンターにご相談ください。	61

	こんなときには	考えられる原因	どうするの？	参照ページ
撮影時	**液晶画面／ビューファインダーに映像が映らない。**	カメラモードになっていない。	電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする。	35
	「エリア／日時を設定してください」が表示される。	世界時計のエリアまたは日時が設定されていないか、ボタン型リチウム電池が消耗している。	世界時計のエリアと日時を設定するか、新しいボタン型リチウム電池CR1616と交換し、日付／時刻を設定し直す。	31 39 43
	スタート／ストップボタンを押しても、録画しない。	電源が入っていない。	電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする。	35
		カセットが入っていない。	カセットを入れる。	29
		テープが終わっている（液晶画面／ビューファインダーに「END」が点灯している）。	テープを巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	29 50
		カセットが録画できない状態になっている（液晶画面／ビューファインダーに「」が点滅する）。	別のカセットと入れ換えるか、カセットを録画できる状態に切り換える。	29 30
		カメラモード以外になっている。	電源スイッチを「カメラ」にし、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする。	35
	ピントが合わない。	ピントの自動調整が苦手な被写体である。	手動でピントを合わせる。	69
		ビューファインダーの視度が合っていない。	視度調整レバーで画像がはっきり見えるように調整する。	32
		レンズが汚れている。	最初にブロアーでレンズ表面のゴミ、ホコリを吹き除いた後で、レンズを傷付けないように、乾いた柔らかい布で軽く拭いて、汚れを取り除く。（ティッシュペーパーは使わないでください。）	178
	キラキラ光っていたり、極端に明るい被写体(一部に高輝度な部分がある被写体)を撮影すると、縦に帯が出る。	CCDのスミア現象で故障ではありません。		68
	ビューファインダーの画像がはっきりしない。	視度調整レバーで調整していない。	視度調整レバーで調整する。	32
再生時	**再生ボタンを押しても再生しない。**	電源が入っていない、または再生（VTR）モード以外になっている。	電源スイッチを「再生（VTR)」、テープ／カード切り換えスイッチを「テープ」にする。	50
		カセットが入っていない。	カセットを入れる。	29
		テープが終わっている（液晶画面／ビューファインダーに「END」が点灯している）。	テープを巻き戻す。	50

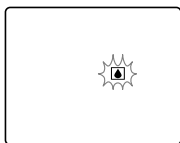
	こんなときには	考えられる原因	どうするの？	参照ページ
再生時	**テープは回っているが、テレビに再生画像が出ない。**	テレビのテレビ／ビデオ切り換えスイッチがビデオにセットされていない。	テレビ／ビデオ切り換えスイッチをビデオにセットする。	55
		ビデオヘッドが汚れている。	市販の乾式のヘッドクリーニングカセットでビデオヘッドをクリーニングする。	177
		コピー禁止テープを再生またはダビング録画しようとしている。	再生またはダビング録画を中止してください。	117 173
	再生画像は出るが、内蔵スピーカーから音が出ない。	スピーカーの音量調整が「切」になっている。	マルチダイヤルで調整する。	53
カード使用時	**メモリーカードが入らない**	メモリーカードの向きが正しくない。	正しい向きでメモリーカードを入れるか、新しいメモリーカードを入れる。	132
	メモリーカードに記録できない。	すでにメモリーカードの容量いっぱいに記録してる。	不要な画像を消去してから撮影する。	151
		フォーマットされていないメモリーカードを使っている。	フォーマットしてからメモリーカードを使う。	160
		メモリーカードが入っていない。	メモリーカードを入れる。	132
		番号が最大になっている（ファイル名が作成できない）。	メニューで番号リセットを「する」に設定して、新しいメモリーカードを入れる	135
		SDメモリーカードの場合、メモリーカードが記録できない状態になっている。	SDメモリーカードを記録できる状態に切り換える。	136
	メモリーカードの再生ができない。	カード再生モード以外になっている。	電源スイッチを「再生（VTR）」、テープ／カード切り換えスイッチを「カード」にする。	141
		メモリーカードが入っていない。	メモリーカードを入れる。	132
	画像を消去できない。	画像がプロテクト設定されている。	プロテクト設定を解除する。	148
		SDメモリーカードの場合、メモリーカードが記録できない状態になっている。	SDメモリーカードを記録できる状態に切り換える。	136
	が赤色で点滅する。	カードエラーになっている。	電源を切る。 メモリーカードを出し入れする。 それでも点滅が続く場合は、フォーマットする。	132

本機はマイコンを使用した機器です。外部からの雑音やノイズ、静電気などによりビューファインダーに通常でない文字が出たり、正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源およびボタン型リチウム電池をいったん取りはずし、しばらくしてから取り付け直して、操作してください。

結露について

夏季、よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップの表面に水滴がつくことがあります。この現象を結露といいます。ビデオカメラを結露した状態で使用すると故障の原因になりますので注意してください。

結露したときは？

電源ランプが点滅して、本機は自動的に停止します。液晶画面/ビューファインダーに「結露しています」が約4秒間表示され、が点滅します。カセットが入っている場合は、「結露しています」のあとで、「カセットを取出してください」が表示され、が点滅します。

- カセットが入っている場合は、すぐに取出して、カセット入れを開いたまま乾燥した所に置いてください（結露したときは、電源スイッチとカセット取り出しスイッチのみ働きます）。結露したときは、カセットを本体に入れようとしても入りません。

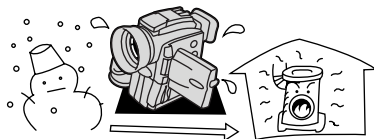
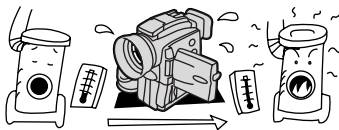
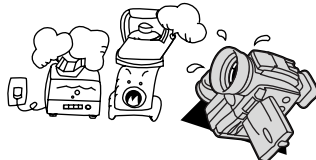
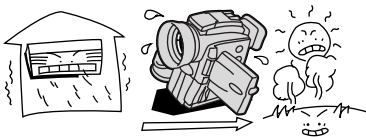
結露を防ぐためには

- 温度差のある場所へ急に移動するときは、事前にカセットを取り出し、ビデオカメラをビニール袋に入れて密閉してから移動します。ビデオカメラが移動先の温度と同じになってから袋から取出すと、結露を防ぐことができます。

使い始めるには

水滴が消えるまでの時間は、周囲の環境によって多少異なりますが、約1時間程度です。電源を入れて、液晶画面/ビューファインダーのや電源ランプが点滅しなくなっても、念のためさらに1時間くらい放置してください。

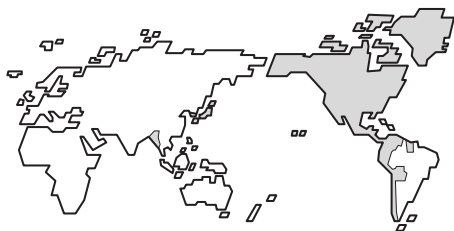
こんなときにはご注意

- 寒い所から急に暖かい所に移動したとき

- 寒い部屋を急に暖房したとき

- 湿度の高い部屋の中

- 夏季、冷房のきいた部屋から急に温度や湿度の高い所に移動したとき

海外で使うとき

本製品は、海外でもお使いになれますが、次のことにご注意ください。

テレビでの再生

● 録画したビデオカセットを現地のテレビでご覧になる場合、日本国内で採用しているNTSC方式（カラー受信方式の1つ）で、映像／音声入力端子のついたテレビが必要になります。

NTSC方式は以下の国で採用されています。
日本放送出版協会発行「世界のラジオとテレビジョン1988」による

- ●アメリカ合衆国
- ●エクアドル
- ●カナダ
- ●キューバ
- ●グアム
- ●大韓民国
- ●チリ
- ●ドミニカ
- ●トリニダード・トバゴ
- ●ニカラグア
- ●バミューダ
- ●プエルトルコ
- ●ベネズエラ
- ●ペルー
- ●米領サモア
- ●ボリビア
- ●グァテマラ
- ●グリーンランド
- ●コスタリカ
- ●コロンビア
- ●スリナム
- ●セントルシア
- ●ハイチ
- ●パナマ
- ●バハマ
- ●バラバドス
- ●ミャンマー
- ●フィリピン
- ●ホンジュラス
- ●ミクロネシア
- ●メキシコ
- ●台湾

バッテリーパックの充電

ACアダプターCA-560は、AC100〜240V 50/60Hzまでの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります（1つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります)。

変換アダプターについては、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

■海外の電源コンセントの種類

タイプ	A	B	BF	C	S
コンセントの形状					
変換プラグ	不要です				

主な国名と使用するプラグの種類（参考資料）

●北米

国名	タイプ
アメリカ合衆国	A
カナダ	A

●ヨーロッパ

国名	タイプ
アイスランド	C
アイルランド	C
イギリス	B. BF
イタリア	C
オーストリア	C
オランダ	C
ギリシャ	C
スイス	C
スウェーデン	C
スペイン	A. C
デンマーク	C
ドイツ	C
ノルウェー	C
ハンガリー	C
フィンランド	C
フランス	C
ベルギー	C
ポーランド	B. C
ポルトガル	B. C
ルーマニア	C

●アジア

国名	タイプ
インド	B. C. BF
インドネシア	C
シンガポール	B. BF
スリランカ	B. C. BF
タイ	A. BF. C
大韓民国	A. C
中華人民共和国	A. B. BF. C. S
ネパール	C
パキスタン	B. C
バングラディシュ	C
フィリピン	A. BF. S
ベトナム	A. C
ホンコン	B. BF
マカオ	B. C
マレーシア	B. BF. C

●オセアニア

国名	タイプ
オーストラリア	S
グアム	A
タヒチ	C
トンガ	S
ニュージーランド	S
フィジー	S

●中南米

国名	タイプ
アルゼンチン	BF. C. S
コロンビア	A
ジャマイカ	A
チリ	B. C
ハイチ	A
パナマ	A
バハマ	A
プエルトルコ	A
ブラジル	A. C
ベネズエラ	A
ペルー	A. C
メキシコ	A

●中近東

国名	タイプ
イスラエル	C
イラン	C
クウェート	B. C
ヨルダン	B. BF

●アフリカ

国名	タイプ
アルジェリア	A. B.BF. C
エジプト	B. BF. C
カナリア諸島	C
ギニア	C
ケニア	B. C
ザンビア	B. BF
タンザニア	B. BF
南アフリカ共和国	B. C. BF
モザンビーク	C
モロッコ	C

保証書とアフターサービス

● 本機の保証は日本国内を対象としています。万一海外で故障した場合の現地でのアフターサービスはご容赦ください。

保証書

本体には保証書が添付されています。必要事項が記入されていることをお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

製品の保証について

1 本製品が万一故障したときは、本製品と保証書をご持参のうえ、ご購入いただいた販売店またはキヤノンサービスセンターにご相談ください。

2 保証期間内でも保証の対象にならない場合もあります。詳しくは保証書に記載されている保証内容のご案内をご覧ください。
保証期間はご購入日より１年間です。

3 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃等の諸経費は保証期間内でもお客様にご負担いただくことがあります。

4 本製品などの不具合により録画されなかった場合の付随的損害（録画、録音に要した諸費用および得べき利益の損失など）については、保証致しかねます。

修理を依頼されるときは

5 修理品をご持参いただくときは、不具合の見本となるビデオカセットを添付するなどしたうえ、不具合の内容／修理箇所を明確にご指示ください。

補修用性能部品について

6 ビデオカメラ補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造の打ち切り後8年です。従って期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判断につきましてはご購入店、またはキヤノンサービスセンターにお問い合わせください。

修理料金について

7 修理料金は故障した製品を正常に修復するための技術料と修理に使用する部品代との合計金額からなります。

修理見積につきましては、窓口で現品を拝見させていただいてから概算をお知らせいたします。なお、お電話での修理見積依頼につきましては、おおよその仮見積になりますので、その旨ご承知おきください。

主な仕様（型式：PV130）

システム	回転3ヘッドヘリカルスキャン DV方式（民生用デジタルVCR SD/SDL方式）
映像記録方式：	デジタルコンポーネント記録
音声記録方式：	PCMデジタル記録 16bit (48kHz/2ch)、12bit (32kHz/4ch) 2倍／3倍録画モード時は12 bit (32kHz/2ch)のみ
信号方式：	NTSC方式準拠
使用可能ビデオカセット：	Mini DVマークのついたミニDVカセット
テープ速度：	約18.81mm／秒 (SPモード時) 約12.56mm／秒 (LPモード時) 約9.41mm／秒 （2倍録画モード時） 約6.28mm／秒 （3倍録画モード時）
録画／再生時間：	（80分テープ使用）80分（SPモード時） 120分（LPモード時） 160分（2倍録画モード時） 240分（3倍録画モード時）
早送り／巻き戻し時間：	約2分20秒（60分テープ使用時）
撮像素子：	1/3.6型CCD、総画素数133万画素、 有効画素数 静止画（カード）125万画素／動画・静止画（テープ）69万画素
液晶画面：	2.5型TFTカラー液晶（約20万画素）
ビューファインダー：	0.55型TFTカラー液晶（約11.3万画素）
マイク：	ステレオエレクトレットコンデンサーマイク
レンズ：	f＝4.2～42mm（カードカメラモード時 f=5.25～42mm） Ｆ1.6～1.8 電動10倍ズーム（カードカメラモード時 8倍ズーム）
レンズ構成：	8群12枚
フィルター取付径：	43mm
焦点調整：	TTL 自動焦点、マニュアル調整可
最至近撮影距離：	ワイド端1cm、ズーム全域1m
色温度切り換え：	フルオート（セット、屋内、屋外付）
最低被写体照度：	3ルクス（カメラモードでローライトモード時）
推奨被写体照度：	100ルクス以上
被写体照度範囲：	3～10万ルクス
絞り：	オートアイリスサーボ方式
手ぶれ補正機能：	光学式
ストロボ：	オートポップアップストロボ内蔵
静止画記録カード：	マルチメディアカード、SDメモリーカード
静止画記録画素数：	1280×960画素、640×480画素（ピクセル）
カード記録フォーマット：	DCF準拠、DPOF（プリントマーク指定のみ）対応
画像圧縮方式：	JPEG（ファイン／スタンダードモード）
カード記録枚数*：	(アクセサリーキットAK-540に付属のマルチメディアカードMMC-8M使用時) 1280×960： ファインモード 約17枚、スタンダードモード約32枚 640×480： ファインモード 約61枚、スタンダードモード約106枚

* この数値は撮影条件や被写体によって変わります。また、サンプル画像の入っている付属のマルチメディアカードの場合は上記枚数より少なくなります。

入・出力端子（レベル／インピーダンス）

映像端子：	φ3.5mm 4極ミニジャック、1Vp-p/75Ω
S 映像端子：	4ピンミニ DIN 輝度信号：1Vp-p/75Ω 色信号：0.286 Vp-p/75Ω
DV端子：	マルチコネクター、IEEE1394準拠
音声端子：	φ3.5mm 4極ミニジャック 出力時：－10dBV（47kΩ負荷時）/3kΩ以下 入力時：－10dBV/40kΩ以上
外部マイク端子：	φ3.5mm ステレオミニジャック、－57dBV（600Ωマイク使用時）／5kΩ以上
ヘッドホン端子：	φ3.5mm ステレオミニジャック
リモート端子：	φ2.5mm LANC対応

電源その他

電源電圧：	DC7.4V
消費電力：	ビューファインダー使用時：約4.7 W（録画中、AF合焦時） 液晶画面使用時：約5.4W（録画中、AF合焦時）
動作温度：	0°C～40°C
外形寸法：	66×131×129mm （幅×高さ×奥行）
撮影時総質量：	約760g（バッテリーパックBP-512、レンズキャップ、レンズフード、 ボタン型リチウム電池、ビデオカセット30分用、メモリーカードMMC-8M含む）
本体質量：	約660g

製品の仕様および外観は改善などの理由で予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

そのほか

メニュー索引

操作からメニューが探せます。

ア行		サブメニュー	カメラ	再生(VTR)	カードカメラ	カード再生
アフレコする方法（音声/マイク）を変える	→	ＶＴＲ設定		○		
ウィンドカットを入/切する	→	ＶＴＲ設定	○	○		
液晶画面（ＬＣＤ）の明るさを調整する	→	表示設定	○	○	○	○
エリア/サマータイムを変える	→	システム設定	○		○	
オーディオモード（12bit/16bit）を変える	→	ＶＴＲ設定	○	○		
お知らせブザーを入/切する	→	システム設定	○	○	○	○
オンスクリーンを入/切する	→	表示設定	○		○	
カ行		**サブメニュー**	**カメラ**	**再生(VTR)**	**カードカメラ**	**カード再生**
画像が消えないようにする（プロテクト）	→	カード実行				○
画像を消去する	→	カード実行				○
カードからテープへコピーする	→	カード実行				○
カードに記録する画質を変える	→	カード設定		○	○	
カードに記録する画像サイズを変える	→	カード設定			○	
カードミックスを使う	→	カードミックス	○			
カードをフォーマットする	→	カード実行				○
サ行		**サブメニュー**	**カメラ**	**再生(VTR)**	**カードカメラ**	**カード再生**
再生時の文字表示を入/切する	→	表示設定		○		○
シャッター音を入/切する	→	カード設定			○	
シャッタースピードを変える	→	カメラ設定	○		○	
タ行		**サブメニュー**	**カメラ**	**再生(VTR)**	**カードカメラ**	**カード再生**
対面撮影の設定（ミラー/ノーマル）を変える	→	表示設定	○		○	
デジタルズームを入/切する	→	カメラ設定	○			
データコードの日時の表示を選ぶ	→	表示設定		○		○
データコードの表示内容を選ぶ	→	表示設定		○		
テープからカードへコピーする	→	カード実行		○		
手ぶれ補正を入/切する	→	カメラ設定	○		○	

ナ行		サブメニュー	カメラ	再生(VTR)	カードカメラ	カード再生
日時の表示を入/切する	→	表示設定	○		○	
日時を設定する	→	システム設定	○		○	
日時（データコードで表示する）を選ぶ	→	表示設定		○		○
ハ行		**サブメニュー**	**カメラ**	**再生(VTR)**	**カードカメラ**	**カード再生**
バイリンガルの設定を変える	→	ＶＴＲ設定		○		
番号（静止画ファイルの）リセットを入/切する	→	カード設定		○	○	
日付の自動表示を入/切する	→	表示設定		○		
プリントマークを全消去する	→	カード実行				○
プリントマークを付ける	→	カード実行				○
ホワイトバランスを設定する	→	カメラ設定	○		○	
ラ行		**サブメニュー**	**カメラ**	**再生(VTR)**	**カードカメラ**	**カード再生**
リモコンコードを変える	→	システム設定	○	○	○	○
録画モードを変える	→	ＶＴＲ設定	○	○		○
録画ランプを入/切する	→	システム設定	○	○		○
その他		**サブメニュー**	**カメラ**	**再生(VTR)**	**カードカメラ**	**カード再生**
16：9を使う	→	カメラ設定	○			